

# つなぐ力 つながる力

おうみ未来塾 第12期生 成果報告書



2012.6 ~ 2013.12

## 目次

おうみ未来塾の紹介	1
塾長、アドバイザー、運営サポーターからのメッセージ	2
おうみ未来塾12期生29名の自己紹介	6
おうみ未来塾12期生29名のあゆみ	36
グループ活動	
鹿深deござれ!	45
古ッ屋	57
おうみのふるさと物語プロジェクト	69
8 meets (はちみ〜つ)	81
淡海ネットワークセンター事務局 座談会	
「12期生の卒塾を迎えて」	94
卒塾の言葉	97
タイトル、表紙デザインについて、編集後記	98

# おうみ未来塾の概要

## 「おうみ未来塾」とは

市民活動やNPOが地域運営の一翼を担う時代となった今、創造力とネットワークにより、企業や行政だけでは解決できない地域課題に取り組む人が求められています。おうみ未来塾は、こうした地域課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。

## 地域プロデューサー

「地域プロデューサー」とは、地域の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための活動を実践する人や事業を興すことができる人、言い換えれば、課題発見力、政策形成力、実践力を兼ね備えた人です。おうみ未来塾では、地域プロデューサーに求められる、コンセンサス能力、ネットワーク形成力、マネジメント能力を向上させることを中心に取り組みます。

## おうみ未来塾の特徴

### (1) 塾生の主体的な参加による塾づくり

塾生の主体的な参加による塾活動を行います。カリキュラムの骨格を示しつつ塾生の意向と状況を踏まえ、柔軟性のある「可塑性をもったカリキュラム」を基本としています。

### (2) 多彩な塾生で構成

地域や分野、所属、世代を越えた多彩な塾生で構成します。地域を創る共通の思いを持つメンバーが、グループワークやディスカッションを重ねながら互いに高めあっています。

### (3) 地域や活動の現場からの学びと実践

講義を聴くだけでなく、市民活動やNPO・まちづくりの実践の現場のフィールドワークを通し、草の根から地域や社会を変えるものの見方や考え方を学びます。塾活動後半には、地域プロデューサーのための実践を学ぶ場としてグループ活動を行います。

### (4) 幅広いネットワークの形成

地域や市民活動のキーパーソン、企業や行政、また、それぞれの地域で活躍する卒塾生など、多様な主体との幅広いネットワークづくりを目指します。

## システム

受講期間は原則として約18ヶ月です。

### 【基礎実践コース(6~12月)】

各地でのフィールドワークを中心に、概ね月1回の講義を行います。

### 【創造実践コース(翌年1月~12月)】

フィールドやテーマにより、塾生数名程度からなるグループを編成し、現地調査や考察・実践等の活動を行います。活動内容や進め方により月2回以上となることがあります。また、卒塾式前には、グループ活動の成果発表会を行います。

## 運営委員会

### ■塾長

北村 裕明 (滋賀大学理事・副学長)

### ■アドバイザー

岡崎 昌之 (法政大学現代福祉学部教授)

岸田 眞代 (NPO法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事)

藤井 絢子 (NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)

## お問い合わせ先

### 淡海ネットワークセンター

(公益財団法人 淡海文化振興財団)

〒520-0801

滋賀県大津市におの浜1-1-20

(ピアザ淡海2階)

TEL 077-524-8440

FAX 077-524-8442

Email office@ohmi-net.com

URL <http://www.ohmi-net.com/>

# 塾長、アドバイザー、運営サポーター から のメッセージ



おうみ未来塾 塾長  
(滋賀大学理事・副学長)

## 北村 裕明

### 信頼のネットワークをつくりだそう

地域づくりとは、地域の課題を発見し、政策化し、実行し、そして評価することの積み重ねです。そして、そうした過程で、人と人との信頼のネットワークがどのように形成されるのが重要であることも、今日広く知られるようになってまいりました。

おうみ未来塾12期生のグループ活動の中でも、皆さんはそのことを気づかれたであろうと思います。

「鹿深deござれ」は、水口町で定住外国人とのコミュニケーションを深めるという課題に取り組みました。「おうみのふるさと物語プロジェクト」は、守山市旧中主町を対象とし、民話等の地域のふるさと物語を、発掘し編集し普及する活動に取り組みました。「古ッ屋」では、米原市柏原で、古民家の再生と活用事業に取り組みました。「8 meets」では、近江八幡市北之庄で、地元野菜である北之庄菜を通じて、地域の食文化と豊かな環境を継承できる仕組みづくりに取り組みました。

4グループの活動は、いずれも未来塾の活動として優れた水準に達し、いくつかは地元自治体からの助成金を得ることもできました。しかし同時に重要なことは、グループ活動を通して、グループ内の信頼関係が深まり、グループと地域の人々との信頼関係が形成されてきたことではないでしょうか。そして、信頼のネットワークが広がり深まるにつれて、事業が新しい段階に達してゆくことを皆さんは実感されたのではないのでしょうか。

人と人との信頼のネットワークを、今日の社会科学では社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）と呼んでいます。そして、地域づくりを効果的に行うための基盤としての社会関係資本と、地域づくりの実践過程で成果として生み出される社会関係資本とが注目されているのです。

地域プロデューサーとして地域づくりに取り組みむのにあたり、事業に取り組みむ中で、当初の信頼関係を、深みと広がりのある信頼のネットワークへと発展させること留意していただきたいと思います。



おうみ未来塾 運営アドバイザー  
(法政大学現代福祉学部 教授)

## 岡崎 昌之

### 足元を見る。現場を大切に。それらを相対化する。

明治の初めEncyclopediaを「百学連環」と訳したのは西周だといわれています。江戸末期から明治にかけて、日本の近代化に大きな役割を果たした西周は、多くの英語を日本語に訳し、定着させた人でした。百学連環とは、多くの学問の連携の中に学童を入れ、教育するというこことで、今でいうリベラルアーツの重要性を説いたものだそうです。

今年度の未来塾12期生のテーマは「つなぐ力、つながる力」です。東日本大震災など困難をきわめる社会、解決したい課題を多く抱える地域社会の状況などを背景とした言葉でしょう。

地域の中には、ともしれば競い合ったり、おとしめあったり、反目したりと、さまざまなベクトルが存在しがちです。

「つなぎ、つながって」地域づくりを進めていくためには、百学の連環はもとより、地域内のさまざまなベクトルを、めざすべき到達点に向けて、連携させていくことが肝要です。

西周はphilosophyを「哲学」と訳した日本人としても知られています。「百学連環」も「哲学」も、いずれの言葉も造語であり、その後、多くの年月を経て、日本語として定着しました。

そうした新しい言葉を生みだし、定着させた西周には、英語（もしくはその語源をなすギリシャ語、ラテン語）に対する幅広い理解力と漢文に対する深い造詣があったからでしょう。

ここからも地域づくりに対する指針を導き出すことができます。つまり行政と住民、組織と個人、集落間、地域間等々、異なる背景や主張を持つ主体間を結び、新しい絆や方向性を導き出すためには、それら両者の背景や主張、経緯、それらが持つ含意を如何に十分に読み取り、いかに理解しているかが問われるのではないのでしょうか。そのことなくして両者を融合し、新しい持続的な地域づくりは創出できません。

皆さまの今後の活躍を期待いたします。



おうみ未来塾 運営アドバイザー  
 (NPO法人 パートナーシップ・サポートセンター(PSC)代表理事)

## 岸田 真代

**濃密な時間は裏切らない。**

12期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

1年半という限られた時間の中で、「地域プロデューサー」という新たなテーマに向かって、それぞれが精一杯チャレンジされたことと思います。

中間発表時のあの不安を、見事に裏切って花咲かせた最後の発表・報告書は、皆さんの底力を十分感じさせてくれました。

もちろん、ぶつかっては跳ね返され、またぶつかるといふ繰り返しの中で、迷いや不安を感じた方もいらっしゃるでしょう。

あるいは自分の問題意識との違いに悶々とされた方もいらっしゃるでしょう。

もしかしたら、逆にやることなすことすべて思い通りだった、と言う方もいらっしゃるかもしれませんね。

ただ言えることは、上手くいってもいかになくとも、そこで費やした濃密な時間は、決してあなたを裏切らないということです。

きっとどこかでその時間がいかに貴重だったか、見えてくるのではないのでしょうか。

逆に言えば、時間はかけても薄っぺらだったとしたら、そこで費やした時間が、後々あなたを助けることはないのかもしれませんが。

人は人の中でこそ成長します。

パソコンの前に座って知識を増やすよりは、人との葛藤の中でこそ鍛えられ成長していくのだと思います。

「地域プロデューサー」は、そこに喜びや愉しさを感じられる人なのだと思います。

まさにこれからは対等な仲間として、互いに、地域に、社会に関わっていきましょう。



おうみ未来塾 運営アドバイザー  
 (NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク 代表)

## 藤井 絢子

**ここ、と決めた地域に足を運び続ける。より確かなカタチにする為に。**

3・11後あなたは、どう変わりましたか？暮らしの中で、3・11を意識していますか？国の羅針盤(政治の世界、経済の世界)の指している方向、このままで大丈夫でしょうか？未来世代に、このままボタンタッチ出来ますか？評論家のように文句を言うのは、たやすい。でも、では、どういう行動に移し、おかしい、いやだ、という思いをカタチにしていくの出番です。幸いに、皆さんは「地域」のもつもつ可能性、何よりもワクワク感を身につける事が出来た。何ものにも替えがたい宝です。21世紀のリーダー、顔となった都会では、決して獲得出来ないものです。湖国滋賀は、まるごと、これからの時代に輝く可能性を秘めています。でも、ただ可能性のままあり続ければ、死蔵に等しい。そこで、地域プロデューサーの出番というわけです。この短い期間に、12期生の皆さんは、混沌の中から掴みとった方向性・ヴィジョンと、それを実現する為に、議論と実践を重ねてきました。その充実感、グループの一員としてかかわった塾生一人ひとりにしか味わえないものです。この面白さ、何とも言えない達成感がとても大事です。でも、まだ、地域プロデューサーの入り口に立ったところ、という自覚が必要でもあります。まだ、イベントをこなしている段階だからです。五年後、十年後、更に、その先まで成長し続け、確実に地域の方々を引き込み、更に、地域の外から学びに来るところまで、少なくとも、そのベクトルづくりが地域プロデューサーたる本命ですから。「うわぁ大変！」ではなく、ワクワク感と楽しさを常に持ち、ムーブメントを起こし続けるのは、本当に素晴らしいことです。日高先生はFuturability(-future plus abilityの造語)を、地域プロデューサーの要件の一つ、として語ってました。私自身が、その奥義を、とてもとてもわかった、とは言えませんが、羅針盤のように、常に心に持つようにしています。混迷、国際的孤立の危うさをはらんだ状況だからこそ、地域からの確かなカタチの発信が、本当に重要です。12期生一人ひとりが、これから地域で、どんな生き方をしたいのかを自らに問う場が与えられた幸せも、噛みしめてほしいと思います。料理も酒も旨い、ほっこりする方たちの存在がある、そして利用し保全する自然資産も。湖国しがでの地域プロデューサーは、本当にやり甲斐がありますよ。



おうみ未来塾運営スタッフ  
(おうみ未来塾5期生)

## 小久保 弘

### 最近、特に感じるのが「つながる力」の再考。自身の強みと弱みは？

自身の想いをどのような形で実現するにせよ、地域活動では、人をつなぎ、つながることが肝要。ネット環境の深化により、若い世代は、インターネットをベースとしたつながりを中心にする傾向がある様ですが、リアルにつながりと合わせ、バランス良い行動をしてもらいたい。ネットによる広がり、つながる人数の多さは、享受できるものの、人としての深さは、リアルでの人との感性のつながりが基本となるはず。

自身の想いと地域風土の理解、人のつながり創り、この3者を上手く協働させて欲しい。でも、中々に難しい！！



おうみ未来塾運営スタッフ  
(おうみ未来塾11期生、  
NPO法人 リンクス 代表理事)

## 柴田 雅美

### 人が100 人いれば、100 通りの意見があって当然。やり抜いたもん勝ちだ。

ご卒業おめでとうございます。みなさんの活動は本当に充実されて、羨ましいと思って見ていました。この未来塾12期生を通じて素晴らしい人間関係も築かれたのだらうと思います。さて、卒業されて、実はここからが本番です。各人が一人の地域人として地域課題の解決に向けバリバリと行動されることを期待します。

「人が100 人いれば、100 通りの意見があって当然。やり抜いたもん勝ちだ」と記しました。少しストレートすぎる表現でしょうか。100 通りの意見が出て、実際に行動できる人は少ないもの。批判や反対に臆せず、信念に従い行動してほしいとの思いで書きました。これは私自身の活動指針でもあります。滋賀を、地域を良くするために、ぜひ一緒に活動しましょう。

「さあ、皆さんの出番ですよ！」



おうみ未来塾運営スタッフ  
(おうみ未来塾8期生、  
NPO 法人びわ湖豊穡の郷 理事)

## 日下部 純子

### 直接対話から、お互いの理解・交流が深まり、信頼関係へと発展する。

様々な想いをもっておうみ未来塾へ入塾され、一年半のグループ活動を通して多くの事を学ばれた事と思います。この学びのこれからの広がり、楽しみです。私自身、塾生の時は決められた日程や目標に従って、活動を「形」にする為に、がむしゃらに動いていたように思います。当時の活動は、現在休止状態になってしまいましたが、休止状態になったその原因を何となく理解することが出来、市民活動に求められるものを、卒塾して改めて気付かされたりしています。自身の中にある塾生だった事の証は、卒塾生の一員である事と、一番身近な生活圏である地域の中で、自身は何が出来ると問う姿勢です。そして、その問いの為に人々と出会い、チャンスを活かし、実践していく事です。私も、これから楽しくしていきます。

## **おうみ未来塾 12 期生 29 名の自己紹介**

青木孝守

古ノ屋 ～古民家活用サポーターズ～

大津市

### ■私のプロフィール

1954年岐阜県羽島市生まれ  
 18歳…高校卒業後京都で大学生生活を送る  
 工学部石油化学科→建築科  
 23歳…就職 某ゼネコン大阪支店勤務  
 25歳…同ゼネコン東京本社海外事業部勤務  
 イラク・キリバスに工事で滞在  
 出張…エジプト・フィジー・ソマリア  
 USA・クロアチアなど10数カ国  
 30歳…妻の実家のある滋賀県で自営開始  
 幼児～大学受験まで学習塾運営



### □現在

株式会社あぐり進学代表取締役  
 滋賀県中小企業家同友会理事大津支部長  
 京都大学硬式野球部助監督



### □おうみ未来塾への参加動機

- ・滋賀県をもっとよく知りたい
- ・地域の活性化を考えたい
- ・滋賀県の地域資源を知りたい
- ・県内のいろんなところに行きたい

### □参加して得られたこと

- ・地域に根ざして活動している方々の実際の姿が見られたこと
- ・大津市内しか知らなかった私が県内の各地域の特徴の一端を知れた
- ・講師陣から様々な考え方や本当に地域を考えることを学べた
- ・地域診断法をはじめとする様々な手法を体験勉強できた

### □反省と同期生の皆さんへのお礼

- ・グループには所属させていただいたが時間がとれず実際の活動には参加できなかったこと
- ・基礎実践コースだけでも得られるものは本当にたくさんありました
- ・創造実践コースの活動を聞いたり見たりしながら、本当の学びと苦労と成長のチャンスをものにできなかったことを残念に思います
- ・参加回数が少なかった私にも同期の方がいろいろサポートしていただき、本当にありがとうございました。修了証までいただき、今後も時間ができたらFACEBOOKを通じ、皆さんのグループにできる範囲で参加させてもらえたらありがたいです

### □今後の自分…

- ・数年先にもう少し時間ができたら自分でできること、したいことを整理してみる
- ・エネルギーを輸入・購入しなくてよい small town について考えてみたい



IZNE ゲッティンゲン大学・循環型社会研究センターより転載

名前	グループ	居住地
石川輝伸	おうみのふるさと物語プロジェクト	栗東市

【おうみ未来塾で学んだこと】  
 ・会社員生活では出会えない人達(自由人・まちづくりに熱心な人など)と友達になり、多様な見方を経験できました。  
 ・フィールドワークで、滋賀県各地に素晴らしい場所が沢山あり、熱心なまちづくりに支えられていることを知りました。  
 高島市針江に訪れた感動を歌にして、下記に楽譜を記します。



To Coda

は り え の わ き み ー ず      び わ こ に      そ そ ー ぐ

9      み ど り も      う つ く し い      お と う ふ も      お み ず も

17      あ じ が      ま ろ や か      に      ち じ ゃ う      が つ      ブ ー く

D.C. al Coda

### 入塾時のおうみ未来塾の期待

人権啓発  
国際交流  
生涯学習  
男女共同参画  
夏祭り  
自治会  
管理組合  
地域振興協議会  
栗東市  
...

いろいろな  
地域活動を  
経験して

まちづくりに  
つながっていると  
感じたんや!

人権啓発  
国際交流  
生涯学習  
男女共同参画  
...

まちづくり

まちづくり

まちづくりを  
学ぶなら  
おうみ未来塾と  
思うたんや!

おうみ  
未来塾の  
卒塾生が  
活躍中

【今後の抱負①音楽を活かしたまちづくり活動】  
 音楽こそ、地域の特色を活かしたいです。地元の音楽愛好者などが個性を出し合い、面白い作品を次々と発表して、地域の魅力を発信したいです。私は今まで下記のような活動を個人で実施し、YouTubeにもアップロードして公開しており、無料でお楽しみ頂けます。  
 ・栗東駅前夏祭りを作詞作曲しイベントで歌いました。  
 ・栗東市役所のホームページに、動画投稿しました。

まなつのゆうべ      ビルのたにま      りつとうえきまえ

8      ポケットパークと      さきら      シン

ポルひろばで      りつとうえきまえ      なつまつり

【今後の抱負②滋賀県の里唄の発掘・編集・普及】  
 滋賀県にあるわらべ唄・しごと唄・まつり唄などの里唄をできるだけ発掘します。音楽素材として活かすため、下記のように楽譜化します。生で楽しむため、自ら演奏するほか、合唱指揮の経験を活かして歌える人を増やします。手軽に楽しめるよう、歌詞テロップを付けて動画化してYouTubeなどに投稿して公開します。里唄をまちづくりにつなげる事例をつくります。

### 大波小波(おおなみこなみ)

野洲市比留田の縄跳び歌

12      と

8      おお      な      み      こ      な      み

3      おお      な      み      こ      な      み

か      げ      が      糸      いた      ら      おお      な      み

居山 翠

鹿深deござれ!

守山市



仕事で水口に訪れる機会が多く、「なんとなく気になる地域」でしたが、ござれ!の活動を通じて、この街がもっと好きになりました。



### 入塾の動機

11期生の先輩に知り合いが多く、色々と話を聞くうちにグイグイ引きこまれて…。私自身、「誰かのお手伝い」で関わりはじめた市民活動はあったものの、もっと主体的に取り組めるひとになりたかったこともあり、入塾を決めました。

### 未来塾での学び・気づき

様々な地域で実践されている「活動」と「地域の人々」との関わり方を見て、その後のグループ活動を進めていく上での目標やイメージになっていました。また、グループ内や地域との合意形成を図っていくことの難しさも、事前の講義やWSを通じて心得ていられたからこそ、実際のグループ活動でも右往左往しながらも粘り強く活動の意義を求め続けていく事ができたのではないかなあと感じます。続けられたからこそ、今日のように少しずつ地域に必要とされるキッカケを紡ぎだすことが出来たのだと感じます。

### 卒塾後の抱負

鹿深deござれ!の「居場所づくり」。未来塾のグループ活動期間としては、定期的にWSを開催することで、模擬的な「居場所」としてきましたが、やはり本物の場所(物理的な拠点)が必要とされ始めてきました。点と点をつないだ線の状態から、今後は面として常に存在する居場所が、私たちの活動には必要です。それにより、今まで育ててきた地域との繋がりが活かされ、必要とされ続ける存在になることができるとと思っています。私個人としても、今後もこの活動を通じて「課題解決力」を身につけていき、地域にお返ししたいと思っています。

### 未来の塾生にメッセージ

1年半ほどの期間、共に学び、共に活動してきた仲間は、未来塾だからこそ出会えた一生ものの宝物になると思います。頭や体で得られる学びも多いですが、心から感謝しあえる同志に出会うことができる、貴重な機会が未来塾という場所だと思います。是非、あなたの同志に出会いに来てください!

名前

グループ

居住地

大橋久幸

8 meets (はちみ〜つ)

近江八幡市

### 入塾の動機

3.11 以降、「絆とは」が問われ、求められていると感じていた。公民館職員として、生涯学習に携わるだけでなく、地域貢献のあり方を学び、実践することで、自らが求める「だれもが、気軽に集まれ、つながりを持てる場所の提供と運営」を実現させ『本物の絆』『本当の絆』をひとつでも結べないかと思い入塾した。

### 塾での学び気付き

活動の原点は、「地域に惚れ込むこと」であると学んだ。また、自分の思いの強さだけで推し進めるのではなく、グループ内の共感の輪を地域に広めていくことだと実感した。グループのメンバーが言っていた『おうみ未来塾も地域と同じ』は、私の学びや気づきを集約している。

### 卒塾後の抱負

西の湖の恵みを活かした、暮らし・まちをつくっていく活動に取り組みたい。そのことにより、住んでいる人にとっても、観光などに訪れた人にとっても、満足感の高い地域になることを目標とする。



大山 真

8 meets (はちみ〜つ)

近江八幡市

## ■ つながりをつくりだす人材に

3.11の映像を見たのは、スポーツジムのランニングマシンで走っているときでした。その後の報道でも、食の安全、節電、被災者の受け入れ、お年寄りの孤独死など「地域社会の不安定要素」を突き付けられ、自分自身が地域とどのようにつながっていくべきなのかをあらためて考えさせられました。

私は「デザイナー」です。デザインは、美しいだけでなく「誰のために、何の目的を解決するか?」を念頭にコンセプトを立て、デザインにし落とし込んでいきます。無いものを創り上げる、あるものをリ・デザインするという経験・スキルは「地域社会の不安定要素」を解決することに寄与できるのではないかという想いになりました。

自分自身が「地域プロデューサー」としての経験を「おうみ未来塾」で磨くことにより「つながりをつくりだす」人材になることそして、自分の生き方を見つめなおそうと思入塾を決意しました。

## ■ 地域プロデューサーの極意

実際に新たな視点で地域に入っていくと、おうみ未来塾のメンバー、地域の方からの学びは多く、自分自身の信念や自分軸はしっかり持ちつつ、俯瞰的にものごとをとらえ、多様な価値観に対応する柔軟性、バランス感覚が必要だと強く感じました。

そして、活動の終盤に入ってきて気づいたのがタイトルにも使っていた「つなげる力・つながる力」。これは、自己肯定感、自他理解、コミュニケーション力、メンバーの能力を引き出す力などで、これが「地域プロデューサー」の極意だと私は思います。



》大山 真 (おやままこと) デザイナー

大阪芸術大学デザイン学科インダストリアルデザイン専攻卒業後オムロン株式会社広報宣伝部デザイングループを経て、国内外のトップブランドのインハウスデザイナーとして経験を積みその間グッドデザイン賞、京都デザイン優品など受賞。現在プロダクト、グラフィックデザイナーとして活動している。

## ■ ソーシャル・センシティビティ

また大切なのは、社会的感受性(ソーシャル・センシティビティ)。活動するグループの中で互いに高め合うことにより、大きなパフォーマンスを生み出すことができます。積極的に人と出会い、偶然の幸運に気づき、それを柔軟に受容し活かす。これも地域プロデューサーに必要なことではないでしょうか。

## ■ 新たな食と農のつながりづくり

入塾してから、おうみ未来塾以外のコミュニティ活動として子民家エトコロ男子料理部、近江・山陰のものづくりイベント、よみがえりのレシピを滋賀で上映する会、たねラボしが(在来種野菜研究会)などを立ち上げ、思いを共有できる接点や場を気軽に企画できるようになったことも大きな変化です。

今後8meetsの活動は、近江八幡市北之庄で継続しますが、北之庄菜の畑視察の依頼が多いことから、北之庄の魅力伝えるアグリ・ツーリズムの可能性も検討したいと思います。

また、よりコアな活動として滋賀県内の在来種野菜を研究する会「たねラボしが」を立ち上げ、情報収集・発信・ネットワークづくりを行い、食と農をもっと身近に感じられるクリエイティブな活動を展開します。

名前

グループ

居住地

岡田健太郎

古ゞ屋 ～古民家活用サポーターズ～

米原市



岡田健太郎（シンガー・ソングライター／作曲家）

1976年滋賀県生まれ、在住。東京藝術大学音楽学部声楽科卒。  
2006年にシングル「矢印」で弟と共にデビュー。その後ソロ活動を開始。現在はピアノ弾き語りコンサートを各地で行う他、地元で音楽教室を主催。作曲家としては県内の小学校や看護学校の校歌などを手がけている。また2年前からは江州音頭の音頭取りを目指し、二代目桜川小寿賀富士師匠の元で修行中！

「お米作り、味噌作り、テレビ無し生活など、スローな暮らしを満喫しつつ、そんな生活から生まれる唄を、紡いでいきたいと思っています。」

公式ホームページ <http://okadakentaro.com>

### 【なぜおうみ未来塾へ？】～入塾の動機～

結婚して実家に入ることを決めて滋賀に戻りましたが、住んでみると色々と地域の課題を感じました。ご近所と顔を合わせる機会が少ない、昼間の集落内は年寄りしかいない、子どもが少ない。古い家が空き家になり、壊され、ふるさとの風景が失われて行く…。自分の仕事である音楽を、この地域を拠点にやってみたいと思って帰ってきましたが、その前にまず地域を何とかしないと、と思うようになりました。そんな折に知ったのが未来塾。自分に何ができるか、どうやったらできるのか、それを学びたいと思い入塾しました。

### 【なにを学び、何に気づいたのか？】～おうみ未来塾での学びと気づき～

地域の課題というのは、住んでいる人には得てして見えにくいものであるということ。我々は「よそ者」として地域に入って活動をしましたが、例えば古民家の保存、活用の必要性を訴えても、みなさんが必ずしも、そのことに問題意識をお持ちではないということも感じました。しかし自分たちが一生懸命活動する姿を見て頂いたり、話し合いを通じて、少しずつお互いに理解し合えるのだということを実感しました。

それから一番大きかった学びは、一人では到底できなかったであろうことが、グループや地域の方との協力で、一歩ずつ前進し、実現するのだということでした。良いアイデアはコミュニケーションの中から生まれる、というのも大きな気づきですね。未来塾でみなさんと話をしてること自体が創造です！

### 【これから】～今後の活動～

平成26年度から3年間、米原市の協働事業に、我々古ゞ屋グループの古民家活用サポート事業が採択されました。まずはこの事業の成功のため頑張ろうと思います。

自分の生業である音楽家としての活動は、地域の歌作り（ご当地ソング）、校歌制作、様々な場での演奏活動、地域での音楽教室、合唱指導など、より地域に根ざしたものにしていきたいと思っています。今後はいかに個人の活動である音楽と、グループの活動である古民家活用を結びつけていくか、というのが自分にとって最大の課題だと感じています。

また家内と共に地域の古民家をお借りして、コミュニティーカフェの機能を持たせたお店を開く予定で準備しています。子どもが生まれたこともあり、なかなか思うように進みませんが、こちら楽しみながら頑張りたいと思っています。面白い人、意識の高い人がいっぱいいる滋賀は、これから本当に楽しみです！

小野明美

古ッ屋 ~古民家活用サポーターズ~

長浜市

## 行雲流水

空を行く雲のように…  
流れる水のように…



### Profile

ある時は保育園事務員、ある時はYoga teacherそして、長浜おやこ劇場事務局長を何とかこなしながら、地域プロデューサーを目指している。

### 子育て支援

「子育て支援」という言葉に違和感があり、わたしたちは「子育て支援」（子どもが育つのを支援）していると思っていた。続けていても、必要なところにはなかなか届かない現状。そんな時、おうみ未来塾に興味を持ち、活動の拡大のいいヒントになれば…と思い入塾を決意。

後半のグループワーク「古ッ屋グループ」で米原市内の古民家活用で地域活性化に取り組む中、地元長浜市でも…と思いがふつつつと湧き上がる。そんな中、育児中に悩んだことがきっかけでママ支援をしている方たちと出会う機会があり、「子育て支援」（子育てしている方の支援）も必要なのではないかと思い始める。

まだまだ「古ッ屋」の活動も米原市との協働事業として活動していきませんが、長浜市内でも自分なりに動いてみたい。

### 学びと気づき

おうみ未来塾のフィールドワークでは地域で活動している方の話を聞き「地域プロデューサーとは何ぞや!」「生業にするには?!」などを学べた。特に今地域で活動しているのがボランティアなので「ボランティアから→生業へ」を学ぶ。…が、まだまだ難しさが…。

本講座での地域診断やリーダーシップの能力、合意形成、ワールドカフェ、ファシリテーションなどたくさんのことを学ぶことが出来た。その中での気づきは“リーダーとは権限、肩書きでなく信頼、尊敬である”ということ。“よいアイデアは会話、コミュニケーションから生まれる”こと。わかっていたことだけど、改めて言葉として認識することができた。今後、自分なりに活かしていけたら…と思う。

そして何より、志をしっかりと持った仲間との出逢い。これからの活動でも繋がりを育てていきたい。

名前

グループ

居住地

**小林陽子**

**古ヅ屋 ~古民家活用サポーターズ~**

**米原市**

《入塾の動機》

入塾するまでは、漠然とNPOのことをもっと知りたい、事業化するためにどうすればいいのかわかりたい、と思っていました。

《活動を通して学んだこと》

県内の実際活動しておられるNPO、市民団体などへ見学に行き、お話を聞き、皆さんの「熱い思い」を感じ、感動することが多かったです！

後半の活動では実際に地域に入り、拠点を設けることができただけでも、すごい成果だと思うのですが、メンバー以外に私たちの活動に共感して一緒に活動して下さる方が増え、思いが人を動かす、ということを実感しました！入塾するまでは、どうしたらいいのか？と疑問を持ってそこから考えが進みませんでした。今は何とかアイデアを出そう、と工夫するようになりました！しかし、まだまだ考えが浅いので、これからも古ヅ屋で活動しながら、地域のため、自分のために、色々活動していきたいです！

《今後、どうしていきたい》

来年度から「まいばら協働事業」採択事業として市と協働し活動していくので、古民家の活用、事業化を更に考え、そして地域の方のコミュニケーションの場となるよう、今年度の活動をさらに広げていきたいと思えます。

「古ヅ屋柏原西町」で、これからも色んなイベント、事業をしていきます！私もヨガのスキル、着物が好き、料理が好き（主に食べるの担当♡）なことを活かして、地域の方と、生きがいを持って、健康で楽しく生活することを目指し、がんばっていききたいです！

「おうみ未来塾」で出会った仲間は宝物です☆



プロフィール

ヨガインストラクターとして滋賀県、岐阜県を中心に活動しています。一般のヨガ教室の他、キッズヨガ、親子ヨガ、福祉施設で高齢者の方や障害者の方とヨガしています。

最近では着物と袴で日本人の体に合ったヨガをお伝えしています！ヨガは誰でも楽しめます♪誰でも楽しめるヨガを指導できるように日々勉強、実践していきたいです。

佐藤麻里

おうみのふるさと物語プロジェクト

奈良市

## 【入塾の動機】

以前、大津市の坂本に住んでいた頃に琵琶湖がとても好きになり、琵琶湖の恵みを守る何らかの活動に関わりたいと思うようになりました。

しかし、職場と家の往復という単調な毎日の中で、自分ひとりで何をしたらいいのか分からず、自分に何ができるかを学ぶために、おうみ未来塾に入塾しました。

## 【おうみ未来塾での学び・気づき】

まず、おうみ未来塾の塾生の方々や、活動を通じて多くの方々に出会えたことが、大きな収穫でした。様々な地域活動等に関わっている方、人とのつながりを何より大切にされている方、地域への熱い想いに溢れた方・・・etc、色々な人の話を聞くことで、私自身の視野も広がり、人との出会いやつながりの大切さを身をもって感じました。

さらに、講座や活動の中で地域活動の色々な「形」や「想い」や「手法」を学べた事も大きな成果だったと思います。

## 【今後の抱負】

・人と人とのつながり、人と地域とのつながり、人と自然とのつながり。

⇒色々なつながりの輪を広げていくような活動をしていきたい。

・自分の住む場所に誇りを持てるようなきっかけを提供できる活動をしていきたい。

⇒自分の住む場所に誇りをもつことが、自分の生き方や自分自身にも誇りをもつことにつながり、それがさらに、周りの人や自然も大切にする生き方につながる。そんな、きっかけづくりをしていきたいです。



おうみ未来塾で得た学びや気づきを今後の地域活動に活かしていきたいです。12期生の皆様、2年間本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

塩田余侍美

おうみのふるさと物語プロジェクト

守山市

### ■ 入塾の動機

「地域プロデューサー」なんて言葉は一番縁遠い人間だと思っていた。定着して暮らせない根無し草のような転勤族の宿命。子育ても終わったこの年になって改めて、子どもたちにとって故郷となる地域について学んでみたいと思いました

### ■ おうみ未来塾での学び、得られたこと

一番の気づきは、自分の暮らしている町や隣の町を、何も知らずにいたという事。何気なく見ていたものにも、いわれがあり、存在に理由があるという事。

先人の知恵やあそび唄に引き込まれる。

何よりの学びは、一つの目的に向かったのグループ活動がとても楽しかった事。

少しずつ思いは違うはずなのに、いつも活動時に笑いが絶えなかった事。

そして、ビジョンを持ち地域から情報発信し活動していらっしゃる方々の熱い思いを聴けた事。

何と言っても出会えた仲間！

### ■ 今後の抱負

グループ活動で、出来たことは私たちの今後の活動のほんの足がかりに過ぎません

メンバーそれぞれの特性を生かしながら滋賀に住む人誰もが、「私のふるさととは近江の国滋賀県です、私の町にはこんな物語や里唄があります」と言える日を目指します。

卒塾までに出来なかった沢山の課題を、急ぐことなくマイペース否グループペースで続けていきたい。

ふるさと物語プロジェクトの  
ビジョンとミッション

土地の風土に合った 愛があるまちづくり



### ■ おうみ未来塾の魅力

大人になって、仲間と楽しく学べる居心地良い場所！！



大工信隆

8 meets (はちみ〜つ)

彦根市

## ①入塾の動機

現役時代は、自宅と会社の往復で、全く地元地域のことを何も知らずに過ごしていた。

リタイア後は何らかの地域貢献活動で地元のお役に立つことを考え、その第一歩として未来塾で基礎的なことを学びながら、自分に何が出来るかのイメージを具体化する。

## ②塾での学び・気づき

多くの人の話を「聴く」ことの重要性再認識させられた。これは本講座の自己採点形式で客観的に私自身が「聴く」能力に劣る・・・平たく言えば、人の話に耳を傾けず・・・と判定結果が出たことが非常に衝撃的で自分の心にグサリと突き刺さったことがキッカケです。

この「聴く」⇒傾聴することの再認識のお蔭で家内との会話が弾むようになった。

## ③卒塾後の目標

- (1) 来春より彦根ボランティアガイドとして活動する
- (2) 湖東・湖北の隠れた歴史遺跡探索グループを立ち上げ新たな観光マップを作る。
- (3) 時間が空いたときは、未来塾（他グループも含む）の活動をサポートする。



## (その他の所属活動)

びわこテクテククラブ  
 近江歴史探訪会  
 郷土の歴史をたずねる会  
 レイカディア大学  
 彦根文化プラザボランティア

橋 晃照

おうみのふるさと物語プロジェクト

長浜市

## ・入塾の動機

私は長浜にある鉄砲の里・国友で生まれ育ちました。幼い頃から地域の人々が主体の地域活動を肌で感じ、自分も自分の住む地域をもっとよいまちにしていきたいと思うようになりました。そんな若者が地域で何ができるかを探っていこうとおうみ未来塾に入塾しました。

## ・おうみ未来塾での学び・気づき

入塾前の自分と比べると、考え方や行動が大きく変わったと思います。考え方については、未来塾の活動を通して老若男女様々な人の考え方を学んで、まずは挑戦してみるなど前向きな考え方ができるようになりました。行動面では自分から様々な場所に足を運んで人と交流することが多くなりました。また、人前で自分の意見を発表する場を多く与えてもらったのがよかったと思います。入塾以前より人前で話すことは苦にならなくなった気がします。（今でも人前で話すのは大変苦手ですが。）未来塾での成果としては、ぼんやりとではありますが自分のビジョンが見つかったことです。

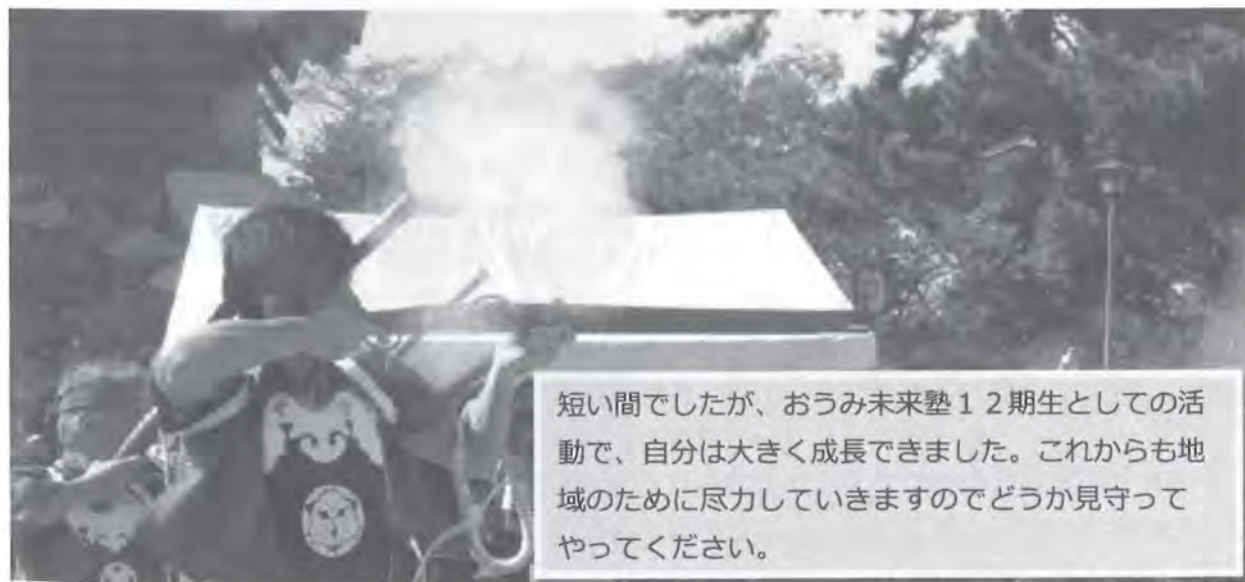
## ・今後の抱負

「地域に愛着と誇りを持てるまちづくりを行う」

特に、自分が住む国友、長浜、湖北、滋賀とスケールごとに携わってまちづくりに参加していきたいと思います。おうみのふるさと物語プロジェクトのメンバーとして活動することによって達成できる部分も多くあるため、卒塾後も継続していきたいと思います。そして、未来塾の活動を通して自分のビジョンを持ったおかげで入ることができた国友鉄砲研究会などの団体での活動を通して、一生涯をかけて地域に愛着と誇りを持てるまちづくりに携わっていきたいと思います。

「若者が地域活動に参加するきっかけづくりをする」

学生のころの自分は何をすればいいかわからず思案に暮れていましたが、未来塾や地域で活動されている方々との交流を通して自分のビジョンを持つことができました。自分も自分に近い世代やそれ以下の世代に対して、プラスの影響をあたえられるようになりたいです。



短い間でしたが、おうみ未来塾12期生としての活動で、自分は大きく成長できました。これからも地域のために尽力していきますのでどうか見守ってやってください。

千代苑子

鹿深deござれ！

栗東市

### ■プロフィール

1987年滋賀県生まれ。幼少の頃よりモダンバレエを始め、7歳より淳バレエ学園今井淳子先生に師事。2004年英国 Kate Simmons Dance School に入学。2006年 Rambert School of Ballet and Contemporary Dance に編入し、Kent 大学 BA 学位（ダンス&ドラマ学科）を取得後卒業。2007年9月よりイタリア・シチリア島 Compagnia Zappala Danza に研修生として在籍。帰国後、横浜トリエンナーレ 2008 等に出演する等ダンサーとして活動する傍ら、バレエ講師として後輩の指導にも関わる。2012年度龍谷大学大学院政策学研究科〔NPO・地方行政コース〕修士課程を修了。現在は、NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN）のスタッフとして、国内外でコミュニティダンス事業の企画・制作・通訳等を行っている。2011年～彦根ダンスインテンシヴ通訳アシスタント。



### ■「鹿深 de ござれ！」での活動 ー甲賀市・水口町を好きになるということー

12期生としてのグループ活動開始当初、アドバイザーの先生から地域と関わるにあたって1番重要なことは「その地域をココロから好きになること」であると助言を受け、その言葉は私が甲賀市水口町での活動を始めるにあたって1番の大きなテーマとなりました。「鹿深 de ござれ！」のメンバーの中には、その地域に居住する「中の人」と、他地域から訪れて活動する「外の人」が混在しています。そこで活動初期には、さまざまな角度から、時間をかけて『地域を知る』作業を行いました。あたまで考えるのではなく、からだで感じること。メンバー間できちんと情報を共有すること。この作業には活動の半分を超える時間を有することになりましたが、そのおかげで今では私自身も水口町に対してかなりの愛着をもつようになりました。活動を通じて出会った素晴らしい地元の方々とともに、今後も継続的に関わっていきたいと思っています。

### ■ おうみ未来塾で得たこと ー今後の活動に向けてー

幅広い世代の個性豊かな塾生に出会い、さまざまな考え方や価値観を学びました。年齢や経験の差があることによって学びの幅が広がり、たくさんの刺激を受けることができたと感じています。机上の議論だけでなく、まずは行動すること。それは仲間がいたからこそ踏出せた第一歩であると思います。卒塾の時を迎えましたが、今がスタート地点です。出来ることはまだまだ沢山あるはずなので、これからは「外の人」のパワーを大いに活かしてより発展的な活動へと展開していきたいと思っています。そして同時に、全国各地の『地域』と関わる機会が多いので、各地で活躍する“プロデューサー”とも一層ネットワークを広めていくこと。多様化する市民社会の中で人々が人間らしく豊かに生活するための“いきがい”をプロデュースできるような人材を目指したいと思っています。



長かったような短かったような  
約2年間でしたが、エネルギー溢れる  
12期生のみなさんと一緒に楽しく  
充実した期間を過ごさせて頂きました。  
ありがとうございました！！

土井崇史

8 meets (はちみ〜つ)

愛荘町

### 入塾の動機

他県出身ということもあり、地域と関わること、地域で活動することがほとんどありませんでした。

そんな中、地域での人と人のつながり、人と地域のがながりが希薄化し過ぎていくことに不安を感じ、何かできることから始めたいと、スキルを学ぶとともに、一歩を踏み出すきっかけに入塾しました。

### おうみ未来塾での学び、得られたこと

- ・田舎の出身で、地域付き合いのわずらわしさも頭に強くあったが、地域の人と人のつながりの良さ、ありがたさを実感できた。
- ・営利目的の企業と地域活動の組織のビジョン、仕事（活動）のやり方など、違いの大きさを実感でき、これから地域活動をはじめていくためのよい経験が得られた。
- ・何となく地域にあるものなど、これまでは興味を持たなかったことにも興味を持つようになった。もっと知りたくなった。
- ・日常生活で、ふと出会う見知らぬ人にも、気軽に声を掛けられるようになり、いろいろな人の話を聞くことが楽しくなった。その方の地域やたずさわっていることには、特に、多くの人が気さくに楽しんで話してくれることに気づいた。



### 今後の抱負

自分が住んでいる地域を知ることから始めたい（地域の文化や地域資源、どういった人がいるのかなど）。

そして、その中で見つけた地域課題に、同じ課題を共有する方たちと一緒に取り組んで行きたい。地域住民が本当に困っていたり、大事にしてきたいと思っている身近なことに、小さな活動から取り組んでいきたい。

### おうみ未来塾の魅力

- ・普段の生活や仕事では出会えない、職業やスキル、年齢、経験などが様々な人と一緒に学ぶことで、知識やスキル、考え方を広げることができる。
- ・いろいろな人と出会え、つながりを持てる。そして、滋賀県のいたるところにおうみ未来塾の卒塾生がいる。
- ・塾の運営が塾生の自主性に任せられているので、自由にいろいろな事できる。逆に、自分達で動かないと何も始まらない。
- ・実際の地域活動ではやりたくない失敗、悩みを学びの場としてたくさん経験できる。
- ・事務所に行くと、事務局スタッフの遠藤さんのおいしい手作りお菓子が食べられることがある。

### 興味のあること

- ・身近な自然環境の保全（特に水圏）
- ・伝統技術・産業（織物、木を使う技術など）
- ・みんなが気軽に集まれる場所や行事
- ・子どもがいきいきと遊び、学べる環境
- ・大学、高校などの教育機関と地域の関わり
- ・普段着としての着物文化

### 大切にしたい（身につけたい）価値観

- ・ほんとうにいいものを少しだけ
- ・いろいろな人の個性や立場を大事にする
- ・やってみないと、その立場になってみないと分からない
- ・隣の芝はそんなに青くない

名前	グループ	居住地
長阪 静	古ヅ屋 ~古民家活用サポーターズ~	栗東市
<p><b>【入塾の動機】</b></p> <p>地域の活性化や、「まちづくり」に古民家を活用することで地域の元気を取り戻そうと思い「地域プロデューサー育成講座」のおうみ未来塾へ入塾しようと思いました。古民家活用が地域の元気（活性化）になり継続的なソーシャルビジネスの構築を目的に参加した。</p>		
<p><b>【おうみ未来塾での学び・気づき】</b></p> <p>サブ講座での学びが参考になった。・事業計画・リーダーとは・ファシリテーション・ワークショップ・ワールドカフェ・地域診断法・地域活動・合宿・生業へ・・・今までの観念を変化させるものでした。そして事業として継続的に発展させる為のツールとして良い学の間になり、自信になった。それから先行している団体との連携関係（コラボ）は慎重にするべきだと感じました。</p>		
<p><b>【今後は・・・】</b></p> <p>既に事業化が始まっているのでしっかりと発展させていこうと思います。ビジネスとして取り組まなければ継続は無し！と信念を持って発展していきたいです、そして私の理念である、『未来のこどもたちの為に古民家を通じて心と環境をつなげる』を実現させて行きます。おうみ未来塾12期生の皆さまとはほんとうにいい『出愛』でした、部分的に共有できることがございましたら今後ともつながりをよろしく願います。（株式会社 古ヅ屋を目指します。）</p>		
<p><b>【私の活動内容】</b>：一般社団法人滋賀県古民家再生協会理事長：一般社団法人えがおをつなぐ地域プロデューサー協会理事長：NPO法人蒲生野考現倶楽部理事（しゃくなげ学校校長）</p> <p>：耐震面格子パネル建築推進協議会会長：未来へつなぐ古民家活用サポーターズ副代表</p>		

名前	グループ	居住地
中島みちる	8 meets (はちみ〜つ)	近江八幡市

### 異業種交流を突破口に！

子育て支援活動に携わるようになってから、気づいたこと。それは、「(活動が)できる人」「(支援を)したい人」がいるのに、「求めている人」のもとに思うように辿り着けないという現実。

たとえば、子育てが孤育てとなりがちなお母様方に、親子で楽しめる体験教室を開催したり、子育てのお話を設けたりしても、本当に利用してほしい方にはなかなかお越しいただけていないということ。

地域ぐるみで子どもを育てたいという思いがあっても、親の習慣・価値観の違い、地域の事情、継続した支援が成立しづらい現状など、課題は山積みである。

この状況を打破したくて、おうみ未来塾に入塾を決めた。

子育て支援に限らず、地域が抱える課題を解消するには、当該分野の専門家だけに任せるのではなく、むしろ異業種の間人が積極的に関わることで、澱のように固まった既成概念を打破できるのではないかと考えたからである。

### 意識していると、つながる

入塾してから習慣づいたのは、未来塾での活動に限らず、“地域プロデューサー”の目から見たら？と意識的に考えるようになったこと。

「それは誰にとっての課題？本当に地域の課題？自分の思い込みではないだろうか？社会一般的な〇〇べき論の域で留まり、上っ面だけを眺めているのではないだろうか？」

「課題解決の方策として、それが一番ベスト？ベストだとしても、実行可能？継続可能？<ひと・もの・かね>に無理はない？自分は良しとしても、活動を共にする仲間との合意は図れている？」

常に意識して考えるようになってから、おもしろいぐらいに“つながり”が増えた。

- 「人」とつながる
- 「こと」とつながる
- 「場所」とつながる
- 「仕事」でつながる
- 「新しい事業」につながる
- 「暮らし」につながる
- 「楽しみ」につながる

未来塾での2年間、本当に実り多いものであった。

可能な範囲で、こどもたちも同行してのグループ活動。子育て現役ママであるからこそそのパフォーマンスもある。多様な個性が集うおうみ未来塾の存在は素晴らしいと思う。



### 違いがあつてあたりまえ

コップに水が半分入っている。これを見て、「もう半分しか残っていない」と思う人と、「まだ半分もある」と思う人がいる。ものの見方は、人によって違うもの。違いがあつてあたりまえ。このことは十分理解していたつもりであった。

しかし、「グループで課題に取り組む」となると、この互いの違いと合意の図り方に想定外の苦心があった。

「未来塾の学びの場である以上、見つけた課題に対して精力的に取り組むのが当然だ」と誰もが認識していても、みんながみんな同じ温度で、同じ優先順位のつけ方で臨んでいるわけではない。「なぜもっと積極的に取り組まないのだろう」という思いもあれば、「どんどん進まれても、個人的な事情もあって、思うようについていけない」という思いもあつてあたりまえ。グループの中にもこそ、地域の縮図があると痛感。

違いがあつてあたりまえ。互いの違いを認めたくて、「何ができる？」を共に考えていくのが合意形成なのだと学んだ。

### つなぎ手に

未来塾での活動を通じて、とても大きな人材に出会った。今後は、本業である人材育成・子育て支援事業はもちろんのこと、現在活動中の北之庄の地での活動、そして、期間限定で携わることになった協働事業の場で「つなぎ手」として活動していきたい。

お世話になった皆様、ともに学んだ塾生の皆様、ありがとうございました。

名前	グループ	居住地
西岡裕洋	鹿深deござれ!	湖南省

入塾して1年半。人との出会い、充実した地域活動で人生観が変わりました。

【おうみ未来塾入塾】

青年会議所や商工会青年部で、まちづくり事業や地域活性化事業に取り組んできましたが、年齢満期で卒業してからは地域活動との関わりが疎遠になりましたので、今一度まちづくりの原点に立ち返り「自分の住む地域（まち）は自分たちの手で良くしていこう。」を実践すべく自分に喝を入れるために入塾しました。



あ  
か  
と  
ま

【おうみ未来塾での学び】

自分たちの地域（まち）を良くしたいと積極的に地域活動に取り組もうとされている方々が塾生として沢山集まり、また本講座で滋賀県内各地を訪問すると、そこには更に自分たちの地域（まち）に愛着を持ち、もっと良くしたいと本気で地域活動されている先人達が多くおられることを知りました。

滋賀は近江商人発祥の地であり、三方よし精神が強く根付いており、皆さん世間によしとされることを考えて活動されていました。

私が今までしてきた活動は似非だったのか。本気度が足りなかったように思います。

漠然と「地域活動を」と言っても自分一人では何もできませんし、「やらされている」と思っているだけでも何も解決できません。共に学び本気度を持った一人ひとりが一緒に活動するからこそ、各グループ、次々と成果が表れているのだと思います。

おうみ未来塾で共に学んだ同志として互いに切磋琢磨し地域（まち）になくってはならない団体として未永く活動していきたいと思っています。

【今後の活動目標】

先ず甲賀市市民協働事業提案制度で認定を受けること。そして、おうみ未来塾から生まれた「鹿深deござれ！」活動の継続です。「○○de コミュニケーション」を充実させ皆さんに認知して頂くことが重要です。

また、湖南省国際協会とも連携し、地域（まち）に暮らす外国人との更なる交流を深めていきたいと思っています。

原田義子

鹿深deござれ!

栗東市

## こんな人



年が明ければ69歳になるおばさんです。夫は17年前に亡くなりましたが、息子達三人が支えてくれまして入塾するまでは普通にボランティア好きのおばさんでした。

居住地域を中心に大宝神社のイベント委員・学区の防犯パトロール・JR栗東駅前清掃等々細々としておりましたが、栗東自然観察の森観察指導員講座を受講後森の保全活動を契機に滋賀大学環境学習支援士講座を受講し資格を取得致しました。

その時研究課題に「やまの子体験学習」を選び関わりを持ちました。それと平行して里山での「真っ直ぐな自然薯栽培」も学習しました。そんな中で、どのボランティア活動も楽しくある種の「生き甲斐」のようなものを感じていましたが何か違う、こんな形ではない、こんなことで良いのか、もっと組織立てて行えば「成果」というか何かが出るのではないかと思い始めました

## どうして入塾?何を学んだ?

思い悩んでいる時におうみ未来塾9期生の二男に『未来塾に行ったら色々学習できるし、お母さんなりに解決策が見つかると思うよ。』という言葉に背中を押され年甲斐もなく12期生の募集に応募した次第です。

意気揚々と開講式に参加した時には何か場違いな気分になりましたが、スタッフの方々や講師の先生方の基本理念や励ましのお言葉を聞いている内に「アカンかも知れへんけど、よし!出来るとこまでやってみよう。」と思いました。

「よおーし、頑張るぞ。」と開講を心待ちにしていた所、事務局より『「フェイスブック」が出来ると良いですよ。』とメールが入りました。

「あらー!こらアカンわ、知らないわ。」と惑いましたが、息子に話をし、すぐに教えてもらいなんとか入塾までに使えるようになりました。これがまた楽しいものでSNSにハマりました。今では私なりに情報量も増え覚えて良かったと思っています。

それからが大変、毎回の学習が初めてのことが多く「本講座」は勿論のこと塾生主導の「サブ講座」等々バラエティに富み、多方面の学習に毎回参加することが楽しくなりました。

数え上げればきりが有りませんが、「発想」「意欲」「実践」「ネットワーク」の4本柱に向かって学びました。例えば基礎実践コースでは「地域プロデューサーの時代」「地域に学ぶ」「地域を知る」と3回の「フィールドワークショップ」を行ったり「グループづくり」を学んだり幅広く深く学ぶことが出来ました。

また、創造実践コースではグループとしての基本的な活動方策を学びました。このことが後半のグループ活動に活かされて行く事になりました。

その後「鹿深deござれ」の一員としてのグループ活動は開催の回を追う毎に内容は濃く深くなっていきました。



## こんなことをしました、そしてこうありがたい!



甲賀市の定住外国人が集中する水口町にて「多文化共生」を中心に多種多様な住民、各種団体が出会い交流する「きっかけづくり」を行いました。事業内容は「〇〇de コミュニケーション」と銘打って「からだ」「ごはん」

「おにく」「すいか」「まつり」「からだ2」「おやま」「おかん」と毎月開催してきました。開催の都度新たな出会いがあり、再会の喜びがありと毎回感動とともに終わることが出来ました。

このようにおうみ未来塾で学んだ結果様々な方策を駆使して「地域活動」が見えてきました。この活動を通じて自分発見も出来ましたので、しっかりと身につけ活用出来る自信が付きました。今後はより長く充実した活動をするために地域での新しい仲間を増やし、有償ボランティアの養成もしたいと思います。

名前	グループ	居住地
樋上真吾	おうみのふるさと物語プロジェクト	守山市

■入塾の動機

滋賀県立大学「近江環人地域再生学座」で学んだ知識を活かし、もっと広く活動出来ればとの思い出で、おうみ未来塾に入塾させて頂きました。

■おうみ未来塾での学び、得られたこと

グループ活動を通じ、課題解決に向けての「チームワークの大切さ」や「人と人をつなぐ難しさ」について実践から学びました。

又、合意形成の必要性と重要性について、改めて気付かせて頂きました。

そして何よりも、同じ志を持つ「かけがえのない仲間」との出会いを得、これからの活動で、相互に有意義なつながりを育んでいきたいです。



民話と里唄の「語り部の会」の活動風景

■今後の抱負

活動のなかで辿り着いたビジョン  
“土地の風土に合った、愛があるまちづくり”

このビジョンを実現するために、民話や里唄など「ふるさと物語」の発掘、編集、普及活動を継続的に取組んでいき事と、自らが、「語り部」としての役割を担いたい。

「生ごみ」は地域の資源と言う活動と並行させながら、地元を愛し誇りにおもう仲間の輪を広げ、地域活性につながる場づくり、人づくりにつなげたいと思います。

土地の風土に合った 愛があるまちづくり



ふるさと物語プロジェクトのビジョンとミッション  
(活動循環モデル)

— プロフィール —



滋賀県立大学大学院副専攻 近江環人地域再生学座卒業 称号：近江環人取得

「生ごみ」は、地域の資源と考え 生ごみをリサイクル(堆肥化)し、生ごみ堆肥を使った農地での「安心・安全」な土作りから、「安心・安全」な農作物を生産し、消費者へ提供する活動と、近江環人地域再生学座で学んだスキルを活かし、地域の再生・活性に取り組む。

現在、近江八幡市・守山市を中心に活動しています。

名前	グループ	居住地
藤井由美子	8 meets (はちみ〜つ)	近江八幡市

### ■ 入塾の動機

私自身、滋賀で生まれ育ち、そのままずっと滋賀に住んでいるが、滋賀県について特にこれといった関心も知識もなかった。だが、たまたま元卒塾生と知り合い、その方が、日々地域の活性化のために真摯に取り組んでおられる姿に、おうみ未来塾とは何ぞやと興味を持った。そこから、滋賀の地域を深く知りたいという思いが、フツフツと沸き起こり、百聞は一見にしかずと入塾を決意した。



### ■ 成果 (塾での学び、気づき)

講習においては、講師の方々を通して、卒塾生の活動を新たに知ることができ、地域に関して、新たな知識と関心を持たた。地域での取り組み方や人と人との付き合い方の奥深さ、考え方、着目点、それらを活かした地域課題への対処方法等、まさに「学び」の場であったと思う。

滋賀のそれぞれの土地で活躍しておられる皆さんの存在が、講習や現地研修で如実に解った。その土地での特産物を生み出し伝えていく。また、その土地で「生きていく」という覚悟、思い入れを伺うことによって、私自身のこれからの生き方を新たに見直すキッカケを与えてもらったように思う。

何より、地域に密着した活動を通して、12期生の仲間達とともに「とも暮らし」ができた。ともに活動できた共同の「共」であり、友人の「友」であり、伴走の「伴」である。そして、その「とも暮らし」の結果として、たくさんの貯金ができる。お金に換算することではなく、かけがえのない「人と人とのつながりの財産」の貯金である。仕事を離れた付き合いから交際の輪を広げて、交友の貯金通帳を増やすことが、何よりも自分の人生を豊かにする。仕事にありがちな八方塞がり、四苦八苦といった状況に陥った時、その豊かな貯金をおろすことによって、本然と解決の緒を見い出せることがあるが、今後の私自身の人生においても、それは大きな励みと助けになるであろう。

また、実践を通して、一度「発酵」の工程を潜り抜けた味の滋味深さ、醍醐味に出会った時、新たな異なるもの(魅了されて止まないもの)を求めている自分を感じる。今、まさに、12期生という枠に拘らず、卒塾生、または未来塾という垣根を飛び超えて、人と人とのネットワークの強さ、広さをあらためて知り、その有難味を実感している。

### ■ 今後

新たな視点で、滋賀を再度見つめ直して、活動拠点を見極めていきたい。今までは、塾という名の完備な屋根の下でヌクヌクと保護されて甘えきっていたが、これからなのだ、本来の厳しさ、辛さを身に染み込ませて苦しむのは。それでも、フツフツと沸き起こる己の感受性に身を委ね、自分自身が求めている本当の己の姿を目指して突き進んでいかねば、と思っている。

近江八幡で来秋開催予定の「ヴォーリス展」のお手伝いも、微力ながらさせていただきたいと思っている。また、未来塾を通して知り合った先輩諸氏や知人に協力して、自分のできる範囲で、近江八幡以外の地域にも関わっていきたい。

何より、地元・近江八幡をもっともっと活性化させていくために、私自身が積極的にネットワークを広げ、幅広い知識を身に付けていきたい。



藤原 実

古ヅ屋 ~古民家活用サポーターズ~

高島市

## 入塾の動機

「地域プロデューサー」なんて魅力的な言葉だろうか。そして「未来塾」、この上もなく夢と希望のある名称だ。ここに入らなくして、ほんとうに自分がやりたいことの何たるかを見つけることができるのだろうか。

地域の問題点として、地域に存在する要素が「点」での集まりであり、その一つ一つが「線」となるような結びつきが見いだせなかった。

その「点」の一つ一つを根気強くそして丁寧に結びつけていくのが地域プロデューサーの役割ではないかと理解し、入塾に至った。

## 活動を通して学んだこと

参加したグループ活動では本当に運良く活動拠点がすぐに見つかり、地域の方々にも快く受け入れていただくことが出来たが、本来ならここが一番苦勞する点なのだ実感した。

また、一度入ってしまうと、地域の方々のニーズが多種多方面に存在し、整理するのに追われてしまう。

だがしかし、自らの地域をなんとかしたいとい思いが我々の活動をトリガーとして湧き出してくるという表現がぴったりのアクションができたことは、自分にとって地元へ持って帰れる財産となった。

## 今後どうしていきたい

市町村合併以降、ちぐはぐな活動が高島市内では目立っている。それらを何とかしたいとは思っているが、そんなことはおこがましい話した。

自らは法人の活動を通して、「あいつらなんかおもしろいことやっとるな」とか「そんなこと考えつかんかった。など、他者に気付かせる活動をやっていきたいと考えている。

高島には無限の宝が眠っている



## まだ見ぬ先駆者達へ

地域の問題を解決するなんて言うのは厚かましい話した。しかし、地域に問題は山積みしている。

そして得てして地域の人々は気付いていない。

それに気付いた君には、過酷で楽しい試練が待ち受けている。方法は無限にあらう。

ただし、一人では挑戦できない。想いの連鎖がさざ波からビッグウェーブを引き起こす。期待してる。



Minoru Fujiwara

NPO法人たかしまプロデューサー代表「たかしまの元気応援法人」として、高島市の文化芸術のみならず、福祉、環境などを楽しくプロデュースしながらテキトーに生きている。

現在「高島市にコミュニティFM局」を開局するために奔走中。

また、成安造形大学の学生と協同し、キャスト、スタッフ他、音楽も高島市のアーティストを起用して「高島市の映画」を制作中。

1964年10月8日生まれ。  
辰年・天秤座・A型・♂。  
連絡先 090-9887-2905

名前	グループ	居住地
松岡沙織	8 meets (はちみ〜つ)	守山市

### ■入塾の動機

地域の課題を解決する「地域プロデューサー」という言葉に興味をひかれました。

仕事とは別に、地域社会に貢献できる何かを探していたので、そのやり方・考え方のヒントをつかみたい、熱い志を持った仲間に出会いたいと思い入塾を決めました。

### ■学んだことや気づいたこと

・今やろうとしていることは本当に地域から求められているのか、ということをつつも意識しました。地域の人としっかり関係をつくらないとなかなか相手の思いは見えません。こちらの思いだけで行動せず、ニーズをくみ取る力を学びました。

・フットワークは軽すぎるくらいがちょうどいいと思います。そんな行動力が人を巻き込む力になっていくのだろーと思いました。

・塾生が集まれば、そこは小さな地域。色々な考えの人がいて、それが当たりまえなのだと思いました。

・一人では何もできないこと、思いを共有する仲間の重要性に気づきました。

・「地域=人」

「この地域が好き」と言っている、それは実は「この地域に住む人が好き」だったのではないか。

私が探していたのは「地域社会に貢献できる何か」ではなく、この人たちのために動きたい、と思える相手だったのではないか、と塾活動を通じて感じました。

### ■入塾を考えている人へ

「求める人にだけ成長の機会が訪れる」ということを未来塾の仲間から学びました。

地域活動には様々な役者が必要です。議事を進行したり、ムードメーカーになったり、細かい書類を整理したり。苦手なことや初めてのことがあってもぜひ一度は挑戦してみてください。塾活動ですから仮にうまくいかなくてもすべて学びになります。

### ■卒業後の抱負

好きになった場所で、好きになった人たちの「困った」を解決したり、夢を叶えるお手伝いをしたいと思います。

未来塾を通してご縁が出来た北之庄。沢山の資源がある魅力的な地域ですが、ここに住む人たちと出会って人間関係づくりができつつあることが私にとっては大きな財産です。

つながりを大切に、自分にできる貢献を考えていきたいと思っています。



### ■プロフィール

まつおか さおり

滋賀県大津市(旧志賀町)出身。職業は滋賀県職員。

趣味はアウトドア、料理、カヌー、お散歩。

### ■目指したい社会

・自分の住んでいるまちが好き、と思っている人がたくさんいる社会

・いきいき働く大人がたくさんいる社会

・自律した NPO が職業として認識されている社会

8  
Meets

**村山奈緒美****古ヅ屋 ~古民家活用サポーターズ~****東近江市****【入塾の動機】**

公民館職員として社会教育・生涯学習を通して「人と人をつなぐ」お手伝いをしていますが、地域での様々な活動を通してより'人のつながる場'をどのように作ってあげればいいのだろう?と思ったのが入塾のきっかけです。

また、ボランティア活動など自分が関わった経験を地域の活動に生かす手法、ボランティアを'生業'につなげるにはどうしたらいいのか?など漠然とした思いを持ちながらの入塾でした。

**【未来塾で学んだこと】**

地域の財産や問題は、その地域に住んでいると見えにくいものだと改めて感じました。

私たちのグループは'よそ者'でしたが、地域の方と話し合いを重ねることにより、私たちの存在を認識していただけるようになり、また活動に関心をもって頂けたことは、グループメンバーの頑張りのたまものだと思います。

また、地域を元気にしたいという思いをもつ大勢の仲間と出会えたこと・私たちを受け入れてくださった柏原のみなさんに感謝! このつながりを大切に今後の活動につなげていきたいです。

**【今後の抱負】**

私たちの活動がまいばら協働事業に採択されたので、今度は行政との協働事業となります。より地域の方に親んでもらえる場作り、また東近江を含む県内の他の地域にもこの活動を広げていけるよう、取り組みたいと思います。

未来塾の学びを生かしてこれからも多方面に活躍していきたいです。

**【Profile】**

生まれ育ちともに東近江市（旧五個荘町）です。  
趣味・特技はダンス・お菓子や料理など物を作ること。



名前	グループ	居住地
藪下利男	鹿深deござれ!	甲賀市

～入塾の動機（なぜおうみ未来塾？）～

第14回近江地域活性研究会（H23年12月8日）で～住民主体の地域づくり～のテーマで甲賀市役所の方とプレゼンした時におうみ未来塾12期生の応募チラシを見る。様々な形で楽しく愉快地に地域活動が出来ればと思っていたので、地域活動の学び・実践の場として応募。

～おうみ未来塾での学び・気づき（楽しく学んだこと）～

- 最初、「団塊の世代の経験が何かに役に立てば」の高飛車な想いがあったが、何の事はない、12期生のみなさん方から学ぶことばかり。さらに人のつながりにうきうき感を味わう。
- 本講座やサブ講座などを通じて市民活動をする上において必要な道具類を学ぶ。これらは、地元の自治振興会活動などに活用し成果が出る。
- 地元の課題に対して、市行政、地元の団体・有志とグループのみなさん方との交流が図れ、多くの人と人のつながり・広がりや連携が出来つつある。今後の活動に夢・勇気が湧く。



プロフィール；

生まれも育ちも甲賀市水口町ですが、ご奉公時代は単身赴任（東京）や地方巡業を楽しく経験しました。良くも悪くも“団塊の世代”のDNAを持っています。

今後は、様々な異文化コミュニケーションの展開のために、地元から巡業を続けます！

～卒塾後の抱負（今後の活動）～

鹿深deござれ！活動の継続・展開による市民活動

- ①甲賀市の協働事業提案制度による助成金などを基にした活動の基礎づくり
- ②気楽に集まれる居場所づくりと生業化の探究
- ③外国人住民の方々による本活動の定着化
- ④甲賀市全体への展開と市外への展開による異文化コミュニケーションの拡大

山川弘光

おうみのふるさと物語プロジェクト

野洲市

### ■ 入塾の動機

子供ができてから自分が地域に育てられたことを実感し、コミュニティーを次世代につなぐ活動をしたいと考え入塾しました。

また、事業継続や組織活性化に関心があり、NPO はじめ様々な組織体の事例を自ら経験し研究したいと考えました。

### ■ おうみ未来塾での学び、得られたこと

グループ活動を通じて、課題形成力とチームワークの大切さを学びました。

自らの課題として取組んだ、P.F.ドラッカーが提唱する、組織のミッション達成に不可欠な3要素「機会」、「卓越性」、および「コミットメント」についての研究は、グループ活動の中で体現し、有用性の検証ができました。

そして何よりも「地域を活性化したい」・「地域に貢献したい」という志をもつ、かけがえのない仲間との出会いがありました。これからの活動で、相互に有意義なつながりを育んでいきたいです。



むかし話と里うた「語り部の会」活動風景



#### — メッセージ —

幅広い世代の仲間と、お互いの価値観を認め合う。合意形成をする。そして目標に向かい邁進する。塾での学びは組織活性化の学びでもありました。他の所属団体や組織で“おうみ未来塾マインド”を発揮したいです。

ありがとうございました。 拝

### ■ 今後の活動

活動のなかで辿り着いたビジョン

“土地の風土に合った、愛があるまちづくり”

このビジョンを実現するために、むかし話や里うたなど「ふるさと物語」の発掘、編集普及活動を継続的に取組んでいきます。

そして地元を愛し誇りにおもう仲間の輪を広げ、地域活性につながる場づくり、人づくりにつなげたいと思います。

土地の風土に合った 愛があるまちづくり



ふるさと物語プロジェクトのビジョンとミッション

(活動循環の成長モデル)

「ふるさと物語を通じて地域の人と人のつながりを深めていくこと」と「風化するむかし話を古老から聴き取りすること」が活動の課題にあります。特に聴き取り調査を緊急課題と考え自ら積極的にすすめたいと考えています。

### ■ おうみ未来塾の魅力

「課題解決の答えは現場にある！」滋賀県全域をフィールドに仲間と共に地域活性化の手法やマネジメントについて、理論と実践から学べる。



グループ活動の風景

山田英二

8 meets (はちみ〜つ)

大津市

### 入塾の動機

今問題にされている社会問題が、本当に問題なのか？を常に考える習慣を持つ。  
 少子高齢化・ニート・財産の独占が豊か？・高齢者が政治の中心 等々  
 誰もが、自分の存在自体が社会貢献になっていると思って生きていける社会・自分が  
 楽しいと思うことをすることが、多くの人に喜んでもらえる社会  
 ----- それらを実現するためのヒントやスキルを手に入れるため

### 塾で学んだことや気づいたこと

地域課題を「発見することの難しさを知る」  
 自分のやりたい事と、地域の課題はイコールではない。課題発見のために先入観を持つてはいけないことにも気づけた。  
 多くの仲間が出来たこと、様々な経歴の方と巡り合えたことが、一番の成果だと思う。課題を発見した時の解決方法のヒントを得る事が出来た。  
 多くの方の講演を聞かせて頂いたことは、これからの活動のヒントになると思う。  
 グループ活動で、合意をしながらいろんなことに取り組んでいく大切さを学ばせて頂いた。「合意」というキーワードが常にあったので、良かったと思う。何をするにも、他人事ではなく、自分事に考えるようになった。

### 今後の活動

「新しいスタイルの観光」  
 全く新しいと言うわけではなく、以前から言われている、見物型から参加型の観光へ地元「堅田モデル」の提案、実践をしていきたいと考えている。「ある事」のために堅田を訪れてもらい、ついでに見物型の観光もする。ある事とは、「私自身が楽しめる事」で、楽しんでいる私をみて、一緒にやりたいと共感してもらえる事だと思う。決して「これをしたら喜んでもらえそう」というものではない。

「真野浜の活性化」  
 どういう状態が「活性化状態」なのかを考えると、一番身近な真野浜について考えていきたい。ここに住み始めてからずっと思っているのは「この素晴らしい場所に一人でも多くの方が訪れて、ここへ来て良かったと感じて欲しい」ということだ。そして、その手伝いをするのが私の役目。真野浜の持つ、人の心を和ませる雰囲気、多くの方に味わってもらうために、多くの方に真野浜がここにある事を知らせていきたいと思う。「先ず、知ってもらって、一度来てもらう」工夫をしたい。



Eiji

塾で学んだことや気づいたこと  
 地域課題を「発見することの難しさを知る」

山中美津子

鹿深deござれ！

甲賀市

## 地域プロデュース宣言

私は地域をプロデュースするために地域の風土を理解し、その風土の上になりたってきた人間活動の歴史を深くみつめ、地域のあるべき方向性を見出し、うわべだけのまちづくりとならないように決意しました。

過去においてないものをねだり、無秩序な開発・工場誘致などを行い、土地にやどる潜在能力を無視した 20 世紀型の開発を反省し、過ちを繰り返さないように宣言します。

### 第 1 条 (主体)

地域のやる気・元気を引き出し、地域住人による地域づくりをめざします。

### 第 2 条 (目標)

住みたくなる町づくりをめざします。

### 第 3 条 (視点)

大地とともに生きてきた住民を理解し、地域の本質を知ったうえで地域をプロデュースします。

### 第 4 条 (資源)

地域の資源を有効に活用し、環境との共生をはかり持続可能な人間社会の構築に努めます。

### 第 5 条 (未来)

あるもの・あったもの・あるべきものを探し、地域の未来に見える化をはかり思いを共有できる地域のプロデュースを行います。



2013年12月15日

おうみ未来塾 12 期生

山中 美津子

## 山本一男

## おうみのふるさと物語プロジェクト

## 大津市

## ● 入塾の動機

今の日本の姿、自分を含めた日本人の生き方に疑問を感じつつ、本来の「日本」「日本人」のことが知りたくて、二十年近く日本の文化・歴史を学んできました。中でも古くから日本人が持ち続けていた「感性」「価値観」に興味関心を持っていました。日本人の基層には、自然豊かな日本列島の中で育まれた、固有の「感覚」「美意識」「価値観」「生き方」といった「日本的なもの」「日本人らしさ」があります。近年はこうした感覚が薄れ失われつつあります。はからずも東日本大震災は、日本人の固有の価値観を思い出させました。今一度失いかけていた「日本人らしさ=アイデンティティ」を蘇（よみがえ）らせ、大切に残していかないといけないと思っています。ただ一人で出来ることの限界も感じていた中、入塾を通して何が出来るか考えてみたいと思いました。

## ● 塾での学び・気づき

すでに地域で活動をされている先輩諸氏の、地域を本当に良くしたいという強い「想い」と、地域の人と人を結ぶ「求心力」、活動を継続していく「持続力」を、直接学ぶことができたことは貴重な体験でした。またグループ活動である地域に眠る郷土物語（昔話・里唄など）を発掘・編集・普及する「ふるさと物語」を通して、「理念を共有すること」「活動計画を立てること」「実行してみること」「検証してみること」の繰り返しの大切さ、共に活動する仲間の有難さ、地域の方々と共に活動し広めていくことの難しさを学びました。さらには、土地に伝わる形であらわすことのできない人の「感情や心情の物語」には、人を魅了する力があること気づきました。それをどのように表現し、価値あるものにしていくかが今後の課題です。

「過去」と「今」を新たな「未来」へつなぐ



●山本一男 (IT/Web プロデューサー) ●スサノヲ (語りかぐら)

●<http://susanowo.jimdo.com/>

おうみのふるさと物語プロジェクト

土地の風土に合った 愛があるまちづくり



●<http://ohmi-furusato-monogatari.jimdo.com/>

## ● 今後の活動

卒塾後も、メンバーと共に「ふるさと物語」活動を継続していきたいと思っています。理念や活動内容に共感していただける活動者の輪を広げて行きたいと思っています。土地・土地にある固有の物語が、地域の宝物として大切にされ、誇れるものがある心豊かな「まちづくり」として活用されるまで、滋賀県全域にこの活動が広がっていくまで、活動を続けていきたいと思っています。

他の活動としては、日本神話の語りと演奏コンサート「語りかぐら・なむち」を、関西だけでなく全国に広げていきたいと思っています。日本人が自然と共に生きる中で育んできた素朴な生き方「祈り・感謝・蘇（よみがえ）り」（自然の力に祈り、自然の恵みに感謝し、自然と共に繰り返す）の感覚に気づいてもらう活動を継続していきたいと思っています。

名前	グループ	居住地
山本周作	鹿深deござれ!	甲賀市

### 【入塾の動機】

いろいろな地域活動を経験して……。いろいろな課題や問題に気がついた！課題や問題を一つずつ解決して、この街を自分が好きになりたい、みんなに好きになってもらいたいと思った！そう考えている時、7期生大河原 佳子さんからおうみ未来塾のお話を頂き、これだあと思った！！（自分の思いが引き寄せた）自分を導いてくれた大河原 佳子さんに感謝！

### 【おうみ未来塾での学び・気づき】

いろいろな人たちに出会い、いろいろな所に行き、いろいろな手法を学びました。今までの人生では経験できなかったことをたくさん吸収することができました。そして活動している中で、自分の気持ちや考動が変わり、4人目の子どもができ、安定した郵便局の仕事まで辞めました。この経験は、今後の人生にとって、大きな財産となるでしょう！とにかく、楽しかった。（感謝）

### 【今後の抱負】

- (1) 福井県高浜町上瀬（親元）で、地域の課題・問題に取り組み、地域活性化したい！（世帯数17件、人口56人のこどものいない限界集落です。2013年現在）
- (2) こども、目標10人！あと、6人/7年。（2020年東京オリンピックまでに）
- (3) 住民・環境が、魅力ある村を作ること！→世界中に発信。（いつやるの今からでしょう！）

**為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり！**



写真：水口藩主 山本周作

### 【その他の活動】

- ◆甲賀市国際交流協会理事 市民交流部
- ◆フィリピン国際交流&ボランティア
- ◆魅力ある地域社会をつくりたい人たちによるネットワーク
- ◆公益社団法人甲賀・湖南人権センター
- ◆水口自治振興会 まちづくり委員
- ◆日本語学習支援グループ「和」2013 3月まで
- ◆BNN（びわこ日本語ネットワーク）2013 3月まで
- ◆PTA 2009～2013 3月まで
- ◆スポーツ少年団（野球）コーチ2012 12月まで

## おうみ未来塾 12 期生 29 名のあゆみ

# おうみ未来塾12期生29名のあゆみ (2012.06~2013.12)

おうみ未来塾には、基礎実践コースと創造実践コースがあり、その歩みを紹介します。

## 1.基礎実践コース

### 1-1.フィールドワーク研修状況

初代塾長故日高敏隆先生の理念「Think locally, Act locally.(地域の問題は徹底的に地域で行動し、解決する)」を継承し、まちづくりの現場へ行って、草の根から地域や社会を変えるものの見方や考え方を学びました。

今回は、滋賀県の6か所を訪問しました。



上：講師の皆さん 第3回本講座  
下：針江のカバタ 高島市針江(旧新旭町)



上：旧八幡郵便局  
下：酒游館



第5回サブ講座 村田和代さん



第5回サブ講座  
甲賀市(旧水口町)



朝3ガを楽しむ塾生 第2回本講座 岡崎昌之



子ども自立の郷ウォームアップスクールここから 第2回本講座 横山義之



第2回本講座(合宿)  
長浜市(旧余呉町)



ファブリカ村

⑤ 第5回本講座 第5回本講座 北川陽  
東近江市(旧能登川町)



④ 第4回本講座  
東近江市(旧愛東町)

⑥ 第5回  
サブ講座



第4回本講座 藤井絢子さん



第4回本講座 曾根原久司さんと一緒に、収穫モリモ

# 1.基礎実践コース

## 1-2. 基礎実践コースのあゆみ

基礎実践コースでは、前頁で紹介したまちづくりの現場で学ぶフィールドワークの他に、NPO(非営利組織)活動に必要な組織運営の知識を学びました。また、塾生企画によるサブ講座で、塾生の理解を深めるワークショップやファシリテーションを学びました。そして、サブ講座を自ら企画するため、全体塾生会等を開催しました。なお、内容・場所・講師などの詳細については、本講座・サブ講座・全体塾生会の一覧表を参照下さい。

基礎実践コースの年表

年	月	日	内容
二〇二二年	六月	九日	入塾式(公開)
	七月	一日	第一回本講座
二〇二三年	七月	二日	第二回本講座
	七月	七日	第三回本講座
	八月	二日	第四回本講座
	八月	七日	第五回本講座
	八月	二〇日	第六回本講座
	九月	二日	第七回本講座
	九月	五日	第八回本講座
	九月	九日	第九回本講座
	十月	八日	第十回本講座
	十月	二〇日	第十一回本講座
十一月	三日	第十二回本講座	
十一月	八日	第十三回本講座	
十一月	二七日	第十四回本講座	
十二月	六日	第十五回本講座	
十二月	二六日	第十六回本講座	
一月	二日	第十七回本講座	
一月	九日	第十八回本講座	



入塾式 北村裕明塾長



第2回サブ講座 廣水乃生さん



第8回サブ講座 膽吹憲吾さん



第6回本講座 中川芳江さん



第8回本講座 岸田眞代さん



第9回本講座 鵜飼修さん

## 2.創造実践コース(グループ活動)

創造実践コースでは、地域資源や地域課題をテーマに、グループづくりを行い、地域で活動しました。2012年12月16日(日)の第七回本講座で、4グループをつくりました。

おつみのふるさと物語プロジェクト、古ッ屋(ここや)、鹿深deござれ!、8meets(はちみ〜つ)です。2013年2月9日(日)に、目標発表会を実施し、塾長とアドバイザーの先生方からアドバイスを頂きました。アドバイスをきっかけとして活動の方向性を修正でき、未体験であるグループ活動の方向性が定まりました。

2013年6月9日(日)に、公開により中間発表会を実施し、塾長・アドバイザー・客席の皆様・塾生同からアドバイスを頂きました。途中経過をまとめ、アドバイスを頂くことで、活動に参考にできました。なお、各グループ活動については、各グループの活動報告をご参照下さい。

### 2月9日に開催した目標発表会



北村塾長の挨拶



塾生による目標発表



先生のアドバイスをグループ全員で聴く

### 6月9日に開催した中間報告会



熱のこもった塾生発表



地域からの声を紹介しました。



塾生発表を見つめる  
藤井さんと岸田さん



アドバイスを  
岡崎さん



各グループへアドバイスする北村塾長



中間報告会の記念写真

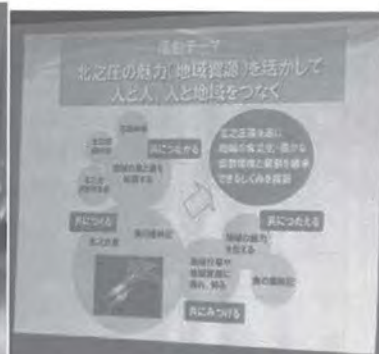


2013年6月11日 中日新聞

中間報告会が新聞に掲載されました。

2013年12月15日(日)に、公開により成果報告会を実施し、塾長・アドバイザーから講評を頂きました。活動の良い点を褒めて頂き、さらにステップアップするためのアドバイスも頂き、参考になりました。同日に卒塾式を実施して、おうみ未来塾の卒塾生が29名増えました。

### 12月15日に開催した成果発表会



ビジュアルなプレゼンテーション資料で発表

多くの参加者にお越し頂き、塾生発表も盛り上がりました。



講評する岸田眞代さん



講評する藤井絢子さん



講評する北村裕明塾長



配布資料冊子を作成する塾生(編集委員)



グループ活動で協働した地域の方々からの声を、会場で発表頂きました。

### 12月15日に開催した卒塾式



山田督理事長の挨拶を聴く塾生



卒塾生代表の言葉

### 3. 本講座一覧表(敬称略)

入塾式(公開) '12/06/09	<p>テーマ：おうみ未来塾がめざしてきたもの</p> <p>★場所：大津市/会場：コラボしが21 中会議室</p> <p>講師：北村裕明(おうみ未来塾長/滋賀大学理事兼副学長) 岡崎昌之(おうみ未来塾アドバイザー/法政大学現代福祉学部教授) 岸田眞代(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人パートナーシップサポートセンター代表理事) 藤井絢子(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)</p>
第1回 '12/07/01	<p>テーマ：地域プロデューサーの時代</p> <p>★場所：近江八幡市/会場：八幡掘周辺、酒遊館、旧八幡郵便局、しみんふくし滋賀本部事務局</p> <p>講師：北村裕明(おうみ未来塾長/滋賀大学理事兼副学長)、 西村恵美子(八幡掘を守る会/酒遊館オーナー) 石井和浩(NPO法人一粒の会 理事)、成瀬和子(NPO法人しみんふくし滋賀 専務理事)</p>
第2回(合宿) '12/07/21 ~07/22	<p>テーマ：地域プロデューサーを考える</p> <p>★場所：長浜市(旧余呉町)/会場：ウッドィバル余呉森林文化交流センター、洞寿院、全長寺 べんがら座、余呉小劇場弥吉、NPO法人子ども自立の郷ウォームアップスクールここから、管山寺</p> <p>講師：岡崎昌之(おうみ未来塾アドバイザー/法政大学現代福祉学部教授) 木下重樹(株式会社余呉バス 代表取締役) 横山義淳(余呉オペラ実行委員会実行委員長/べんがら座主宰) 唐子恵子(NPO法人子ども自立の郷ウォームアップスクールここから 理事長)</p>
第3回 '12/08/25	<p>テーマ：新しい価値による地域づくり</p> <p>★場所：高島市/会場：針江</p> <p>講師：石津文雄(高島有機農法研究会)、美濃部武彦・高橋正通・足立亨(針江生水の郷委員会)</p>
第4回(公開) '12/09/16	<p>テーマ：地域と共に創る</p> <p>★場所：東近江市(旧愛東町)/会場：あいうエコプラザ菜の花館/あいうマーガレットステーション</p> <p>講師：藤井絢子(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表) 曾根原久司(NPO法人えがおつなげて 代表理事)</p>
第5回 '12/10/20	<p>テーマ：多様な主体の協働による地域づくり</p> <p>★場所：東近江市(旧能登川町) /会場：能登川コミュニティセンター、子民家etokoro、ファブリカ村、かじや館</p> <p>講師：岸田眞代(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人パートナーシップサポートセンター代表理事) 北川陽子(NPO法人エトコロ理事/ファブリカ村村長) 大前哲(NPO法人かじやの里事務局長)</p>
第6回 '12/11/18	<p>テーマ：地域課題解決のための事業計画づくり</p> <p>★場所：草津市/会場：草津市立まちづくりセンター</p> <p>講師：中川芳江(株式会社ネイチャースケープ専務理事)</p>
第7回 '12/12/16	<p>テーマ：グループづくり ★場所：大津市/会場：ピアザ淡海</p> <p>議事進行：塾生有志</p>
第8回 '13/01/19	<p>テーマ：合意形成とリーダーシップ ★場所：大津市/会場：ピアザ淡海</p> <p>講師：岸田眞代(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人パートナーシップサポートセンター代表理事)</p>
第9回 '13/02/02	<p>テーマ：地域診断法 ★場所：彦根市/会場：滋賀県立大学 彦根駅前サテライト</p> <p>講師：鶴飼修(滋賀県立大学准教授/近江環地域再生学座専任講師)</p>
目標発表会 '13/02/09	<p>テーマ：グループ活動目標発表会 ★場所：大津市/会場：ピアザ淡海</p> <p>講評：北村裕明(おうみ未来塾長/滋賀大学理事兼副学長) 岡崎昌之(おうみ未来塾アドバイザー/法政大学現代福祉学部教授) 岸田眞代(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人パートナーシップサポートセンター代表理事) 藤井絢子(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)</p>
中間報告会 (公開) '13/06/09	<p>テーマ：グループ活動中間報告会 ★場所：大津市/会場：コラボしが21</p> <p>講評：北村裕明(おうみ未来塾長/滋賀大学理事兼副学長) 岡崎昌之(おうみ未来塾アドバイザー/法政大学現代福祉学部教授) 岸田眞代(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人パートナーシップサポートセンター代表理事) 藤井絢子(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)</p>
成果報告会 卒塾式(公開) '13/12/15	<p>テーマ：グループ活動成果報告会、卒塾式 ★場所：大津市/会場：ピアザ淡海</p> <p>講評：北村裕明(おうみ未来塾長/滋賀大学理事兼副学長) 岸田眞代(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人パートナーシップサポートセンター代表理事) 藤井絢子(おうみ未来塾アドバイザー/NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)</p>

12月15日の卒塾式の後に、地域プロデューサーのつどいを開催

#### 4.サブ講座一覧表(敬称略)

第1回 '12/08/07	テーマ：卒塾生交流会1回目 ★場所：大津市/会場：大津百町館 コーディネータ：小久保弘(おうみ未来塾運営サポーター/NPO法人ICT京都理事) 卒塾生：岡崎一郎(1期生)、小久保弘(5期生)、荒木威(8期生)、北川久和(10期生)、 中塚洋子・堀江景子(11期生)
第2回 '12/08/30	テーマ：facebook勉強会 ★場所：野洲市/会場：湖南ネットしがITスクール 講師：大山真(12期生)
第3回 '12/09/15	テーマ：ファシリテーション基礎講座 ★場所：近江八幡市(旧安土町)/会場：安土公民館 講師：廣水乃生(コミュニティファシリテーション研究所所長) コーディネーター：大山真(12期生)
第4回 '12/09/29	テーマ：第1回ワールドカフェ 塾生の理解を深めるワークショップ ★場所：草津市/会場：草津市立まちづくりセンター 講師：なし 塾生有志で組立
第5回 '12/10/08	テーマ：ファシリテーション実践講座 ★場所：甲賀市(旧水口町)/会場：水口中央公民館、育児広場アプリコット 講師：村田和代(龍谷大学政策学部 准教授) コーディネーター：千代苑子(12期生)
第6回 '12/11/03	テーマ：第2回ワールドカフェ 塾生の理解を深めるワークショップ ★場所：米原市/会場：米原公民館 講師：なし 塾生有志で組立
第7回 '12/11/03	テーマ：卒塾生交流会2回目 ★場所：米原市/会場：米原公民館 卒塾生：松井賢一(1期生)、河村好子(7期生)、日下部純子(おうみ未来塾運営サポーター、8期生)、 山本拓也・吉田栄治(8期生)
第8回 '12/11/27 '12/12/06	テーマ：NPOミニ講座 11/27⇒★場所：守山市/会場：守山市民交流センター 12/6⇒★場所：彦根市/会場：彦根勤労福祉会館たちばな 講師：臈吹憲吾(淡海ネットワークセンター)
第9回 '13/8/3	テーマ：むじな会の活動から学ぶ、リーダーの役割 ★場所：米原市/会場：村居田 臥龍公園 講師：堀内博(ボランティアグループ貉会代表)

#### 5.全体塾生会一覧表

第1回 '12/07/01	テーマ：メーリングリストとfacebookの運用 ★場所：近江八幡市/会場：酒游館
第2回 '12/07/21	テーマ：自己紹介 ★場所：長浜市(旧余呉町)/会場：ウッディパル余呉森林文化交流センター
第3回 '12/07/22	テーマ：塾生自主企画交流会<地域プロデューサーを考える> ★場所：長浜市(旧余呉町)/会場：残景寺
第4回 '12/08/25	テーマ：今後の予定 ★場所：高島市/会場：針江
第5回 '12/09/16	テーマ：サブ講座の重要性・過去の創造実践コースにおける活動事例による問題提起 ★場所：東近江市(旧愛東町)/会場：あいとうマーガレットステーションラベンダールーム
第6回 '12/10/20	テーマ：グループづくりに向けた課題把握 ★場所：東近江市(旧能登川)/会場：能登川コミュニティセンター
第7回 '12/11/18	テーマ：グループ活動で取り組みたい内容の個人発表 ★場所：草津市/会場：草津市立まちづくりセンター
第8回 '13/01/19	テーマ：グループ活動の計画発表 ★場所：大津市/会場：ピアザ淡海
第9回 '13/02/02	テーマ：目標発表会と今後のサブ講座について ★場所：彦根市/会場：滋賀県立大学 彦根駅前サテライト
第10回 '13/02/09	テーマ：目標発表会の発表練習 ★場所：大津市/会場：ピアザ淡海
第11回 '13/06/02	テーマ：中間発表会の資料製本、発表練習 ★場所：大津市/会場：ピアザ淡海
第12回 '13/06/09	テーマ：中間報告会の発表練習、準備 ★場所：大津市/会場：コラボしが21
第13回 '13/08/03	テーマ：成果報告会・成果報告書について ★場所：米原市/会場：村居田 臥龍公園

本講座・サブ講座・全体塾生会の他に、塾運営を話し合う世話人会・代表者会議を開催

## 6. 塾生自らによる自主的な運営

おうみ未来塾では、塾生自らが運営に参画しています。世話人会(基礎実践コース期間)や代表者会(応用実践コース期間)で討議し、重要事項は全体塾生会で最終決定しました。また、サブ講座の講義決定などの運営も塾生自らがを行い、会場下見などの準備を行いました。また、昼食も塾生が企画しました。



全体塾生会



代表者会議



塾生による会場下見



塾生プロデュースによる昼食



成果報告書等を編集する編集委員



塾生が自主的に集まり、打合せを行いました。



第7回本講座 グループづくり



塾生の情報交換のツールとして、今回より塾生全員でfacebookによるインターネットを活用しました。その結果、従来のメーリングリストより情報交換が活発化しました。

おうみ未来塾12期生&サポーター(非公開)のfacebookページにおいて、投稿数919個、コメント数2272個、写真掲載数2658枚、いいね数7740個と盛んに情報交換しました。

また、各グループ活動のfacebookページも開設し、グループ活動日程を公開しました。その結果、他グループ活動への見学を可能とし、意見交換をさらに活発化できました。



塾生や事務局が、食事会を通じて交流しました  
2013年8月3日 米原市村居田の臥竜公園にて

会議  
市選  
た。

会

## グループ活動

# か ぶか 鹿深de ござれ!

日本人と外国人住民の方々が  
共に地域をふるさととして  
楽しく暮らせるためのネットワークづくり

## ■MEMBER

居山翠

千代苑子

西岡裕洋

原田義子

藪下利男

山中美津子

山本周作

## ■SUB MEMBER

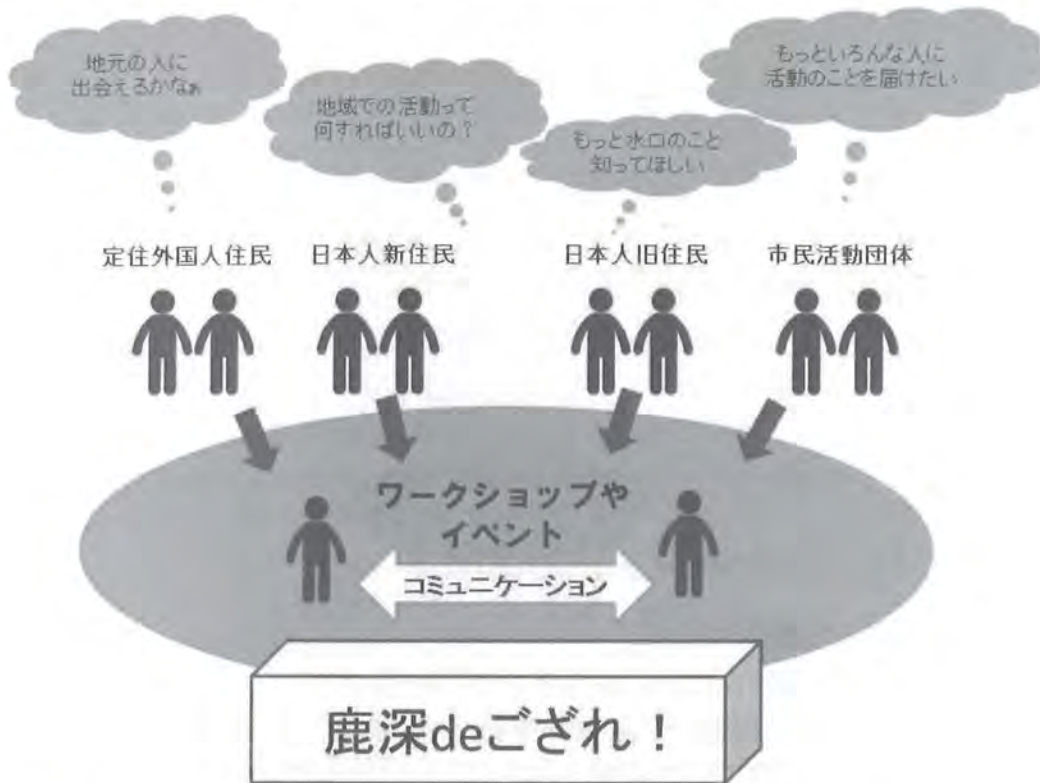
長阪静

中島みちる



# 1. 活動の目的

私たちは、甲賀市に住む定住外国人が集中する水口町において、「異文化コミュニケーション」を中心に、多様な住民やさまざまな団体が出会い、交流するキッカケづくりをおこないます。具体的には、生活習慣・料理・文化・歴史・言語など、あらゆる切り口からワークショップやイベントを開催することで、歴史ある“鹿深”の重みを理解しつつ、互いの文化を尊重し理解を深め合えるようなく皆のふるさとづくり>をお手伝いすることを目的としています。



## ■活動の背景

甲賀市の国際化推進計画の基本的理念は「お互いの違いや良さを認め合い、ともに新しい市民文化を創造するまちづくり」とし、市民・企業・団体・行政などが一体となって誰もがまちづくりに参画し、共に築き持続的に発展するまちづくりを目指しています。基本目標の一つとして、「誰もが参画できる地域づくり」具体的施策～外国人と自治会が円滑な交流をはかるための仕組みづくりが掲げられ、この施策に沿った活動になるよう計画をたてています。

- 甲賀市に住む定住外国人の約75%の方が水口町に居住している
- 定住外国人の出産・子育てに対する課題（若い世代の交流の場が乏しい）
- 心は自国にあり、日本人の人々との交流が少ない
- 日本の文化・習慣に溶けこもうと努力するも精神的な負担が大きい
- 異なる文化・習慣を持つ人たちが、人としてどうつきあうかが課題
- 継続的な交流の場所、人と人をつなぎ、かつ外国人住民の方もとび込める場所が少ない
- 日本人・外国人問わず、活動に集まるのはいつも決まった人ばかり
- 子ども同士も関わる機会が少ない（2月6日開催の意見交換会より）

## 2. 私たちの活動フィールド



甲賀市観光ガイド「たいむとりっぶ甲賀」より <http://www.koka-kanko.org/contents/map.html>

甲賀市は滋賀県東南部に位置し、大阪・名古屋から100km圏内にあり、近畿圏と中部圏をつなぐ交通拠点として昔から東海道宿場町として栄えてきました。気候も平野部では比較的穏やかです。また「鹿深 de ござれ！」の活動拠点となる甲賀市水口町水口・綾野地区は、東海道の道筋として現在も甲賀市の商業圏の一部としてなりたっています。工業団地も多くあり、ピーク時の平成20年には約3200人、平成23年12月末の時点で外国籍住民の数はブラジル人約1200人を含め2671人が登録され、甲賀市全体の約75%が水口町に居住されています。

### 協力いただいている地域の主な関係団体

甲賀市国際交流協会

魅力ある地域社会をつくりたい人たちによるネットワーク

あいこうか市民活動・ボランティアセンター

子育てひろばアフリコット

子育てサークル CHEERS STATION

NPO 法人わくわくキッズ

水口子育てセンター

甲賀市役所 など

ご協力いただいた関係団体の皆さま  
たくさんの学びを、  
ありがとうございました。  
これからもよろしくお願いします！！

### 「鹿深」の由来

私たちの活動する“甲賀”は「こうか」と読み、今も字名にも残る「鹿深（かふか）」が語源です。日本書紀の中には「鹿深臣（かふかのおみ）」と呼ばれる豪族が百濟（くだら）より来たる、と記されており、奈良時代の前に起こった壬申の乱の記録にも鹿深の地名が記されています。定住外国人の方々との交わりを中心とする私たちの活動趣旨とも一致することから、グループ名に『鹿深（かふか）』をつけました

## 「鹿深 de ござれ！」主な活動記録

12月22日	第1回グループMT
1月6日	第2回グループMT
2月2日	第3回グループMT
2月6日	第4回グループMT『第1回地域との意見交換会』
2月9日	おうみ未来塾 目標発表会
2月16日	第5回グループMT
3月4日	第6回グループMT
3月11日	第7回グループMT『子育て支援視点での意見交換会』
3月14日	「魅力ある地域社会をつくりたい人たちによるネットワーク」との顔合わせ
3月23日	第8回グループMT『TEA PARTY』
3月31日	(臨時)グループMT
4月19日	国際交流協会主催「ランチタイムサロン」参加
4月20日	水口曳山祭の見学
4月23日	第9回グループMT(ジャンカルロさん出席)
5月12日	第10回グループMT『からだdeコミュニケーション』
5月26日	第11回グループMT
6月16日	『ごはんdeコミュニケーション』
6月30日	第12回グループMT
7月14日	『おにくdeコミュニケーション』
7月14日	第13回グループMT
7月28日	第14回グループMT
8月24日	国際交流協会主催イベントに協力(カレー作り)
8月26日	あすばる甲賀主催イベントにて『すいかdeコミュニケーション』
9月5日	第15回グループMT
9月29日	第16回グループMT『まつりdeコミュニケーション』
10月27日	国際交流協会主催『からだde伝える自然な交流！』 (からだdeコミュニケーション第2弾)→第17回グループMT
11月16日	第18回グループMT
11月23日	第19回グループMT『おやまdeコミュニケーション』
12月8日	国際交流フェスタにて『おかんdeコミュニケーション』



### 3. これまでの主な活動

#### 1: “多文化共生” 視点での意見（情報）交換会

開催日時：2013年2月6日（水）18:30～21:10

開催場所：水口町 自主活動「きずな」2階和室

参加団体：魅力ある地域社会をつくりたい人たちによるネットワーク、甲賀市国際交流協会、あいのり市民活動・ボランティアセンター、甲賀市役所

参加人数：13名（うち、メンバー7名）

討議内容：

- ☑ 意見交換会前には「鹿深 de ござれ」のテーマ・活動内容及び「おのみ未来塾」について参加者への説明を行った。
- ☑ 定住外国人の現在の生活・戸惑い等話を聞いたところ、日本人との文化・習慣の違いに関する意見が出た。  
⇒ 彼らのニーズを知る、足掛かりとなった。
- ☑ 参加者からは、小さな区域で継続的に交流できる場の必要性、人と人・団体と団体をつなぐ「繋がりMAPづくり」の提案、多文化共生のみならず障がいのある人等との相互理解の場づくりに関する意見が生まれた。  
⇒この繋がりシステム（仕掛け）づくりが主活動となるべきか等を討議した。



#### 2: 子育て支援視点での意見（情報）交換会

開催日時：2013年3月11日（月）19:00～21:10

開催場所：水口町 自主活動「きずな」2階和室

参加団体：子育てひろばアプリコット、子育てサークルCHEERS STATION、NPO 法人わくわくキッズ、水口子育てセンター、甲賀市役所

参加人数：14名（うち、メンバー7名）

【3つのグループに分かれて討議した結果】

- A：学童保育・支援センターについて
- B：地域との触れ合いの場について
- C：コミュニケーションの場づくりについて

—音楽・食・あそび・子育て—  
といったキーワードが生まれた。

⇒ 「楽しく集まる会・場所が大切」

今後の活動は以上を踏まえて実施することとする。  
組織を考えると各団体とのつながりが必要であり、  
経費を生み出すことが大切になる。



### 3 : TEA PARTY

開催日時：2013年3月24日(日) 14:00~16:00

開催場所：水口町 水口中央公民館・鹿深ホール

参加者数：36名(うち、メンバー8名)

水口町に住む、定住外国人の方々との出会いの場づくりとして、気軽に集まることのできるTEA PARTYを企画。甲賀のお菓子やメンバーの手づくりのお菓子を持ち寄り参加者がフリートーク、就労で来日していたインドネシアの3人の女の子や、ブラジル籍の子育て中の若いママとそのお母さん、国籍も様々、鹿深 de ござれ!のメンバーがつなぎ役として初対面の人々をつないでいった。また国籍を問わず、参加者は次第にうちとけていくことができた。終盤、愛知県からのツーリングのご夫婦が飛び入り参加できるほど、終始なごやかな雰囲気であった。



### メンバー感想より一部抜粋

■今日のような、フランクに集まってお喋りするような場は、ありそうであまり無く、必要とされる場所でもあるという事を感じました。目的が無いわけではありませんが、参加者がそれを意識する必要は全く無い...その緩やかさが、この場では重要だったのだと思います。また、単発ではなく開催を続けていけるのがいいと思います。機会(イベント)ではなく、場所(あり続けるもの)として求められているのでは、と感じたからです。その場合は、回を重ねるごとに輪が広がるような仕組みが必要ですね。

■グループミーティングや意見交換会を重ねてきましたが、頭で考えるより先ず実行。今回のTEA PARTYは鹿深deござれ!の活動の大きな第一歩でした。外国人の方々が『存在を認めてもらっている』と、喜んでいただけた事が何よりの成果であったと思います。我々に求められているのは「地域のお世話係」なのだ改めて感じました。今回のような交流会の継続もいいのですが、それだけではつまらないと思います。我々の活動は有限なので、期限内に何らかのカタチを創り、協働していただく志民にバトンタッチしていくことが理想なのではないでしょうか。この交流会を、今後どう活かしていくのかを考えなければなりません。

みんなの居場所となる空間づくり  
「○○○de コミュニケーション」  
シリーズスタート!!

#### 4：からだ de コミュニケーション

開催日時：2013年5月12日（日）13：00～16：00

開催場所：水口町 水口中央公民館・鹿深ホール

参加者数：35名（うち、メンバー9名）

「すべての人が交わる仕組みづくり」が課題としてあがってきたことから、言語や文化を問わず誰もが参画し交流できる『コミュニティダンス』のワークショップを開催した。TEA PARTYの参加をはじめ、これまでに関わった地域団体の方々に案内したところ、1才～60代まで幅広い層の住民が集まり、上原ジャンカルロさんのスペイン語通訳の協力も得て実施。手をつないで互いに身体に触れ合い、ともに身体を動かしながら創造活動をおこなうことで、それぞれの住民がゆるやかに繋がるきっかけづくりを試みた。WSの最後には、湖南省に住むペルー人のご家族を招待し、子どもたち2人（姉弟）によるペルーの民族舞踊“マリネラ”を披露いただいた。参加者は彼らのダンスを鑑賞し、ジュースを飲みながら交流をおこなった。



#### 5：ごはん de コミュニケーション

開催日時：2013年6月16日（月）11：00～14：00

開催場所：水口町 水口中央公民館

参加人数：約30名

メニューは日本のちらし寿司、台湾ラーメン、ブラジルのフバケーキ等々の3種類。水口町に滞在している中国人研修生や、ブラジル人の一家、国際交流協会や市役所からも参加者が集まり、3つのグループに分かれてワイワイ調理を楽しんだ。ミキサーの故障や牛乳の不足でフバケーキの完成が危ぶまれたが、知恵と工夫で無事完成！食後は、甲賀市を拠点に活動する和田アフェアーによるコンサートを開催し、フバケーキづくりの講師をしてくれたブラジル人のエリカさんの誕生日を祝うため、サプライズケーキ&歌も準備した。この回では、鹿深deござれ！の貴重なサポーターであるメンバーの家族も下ごしらえ・準備の段階から助っ人に入ってくれた。いろいろな人に支えられ、巻き込みながら、コミュニケーションの輪を一層広く深めていきたいと勢いづく契機になった。



## 6：おにく de コミュニケーション

開催日時：2013年7月14日（日）11：00～16：00

開催場所：水口町 スポーツの森（キャンプ場）

参加人数：約60名（日本25名／フィリピン14名／ブラジル13名／ペルー8名）

『ごはん de コミュニケーション』につづく企画として、次は異国の料理を、しかも夏は野外でバーベキュー（肉料理）を、とすることで『おにく de コミュニケーション』を開催した。3ヶ国の方々に快諾していただき、日本を含めて4ヶ国のバーベキュー〔シュハスコ（ブラジル）、ハツの串焼き（ペルー）、焼鳥（日本）、バーベキュー（フィリピン）〕を一度に楽しめるワークショップが実現。

皆さん自国の料理を提供するとなると生き生きと輝いておられ、食べた方からの「美味しい」の言葉で、「自国が認められた」と喜ぶようすがみられた。食後は自己紹介を兼ねたゲーム遊びで交流会を行い友好を深めることができた。初めて屋外で開催する企画だったので反省点は多々あるが、一步前進したことの経験を活かし、今後も更にスケールアップした継続企画にしていきたい。



## 7：すいか de コミュニケーション

開催日時：2013年8月26日（月）13：00～18：00

開催場所：水口町 公益社団法人 甲賀・湖南人権センター（あすばる甲賀）

共催団体：あすばる甲賀

参加人数：約50名

あすばる甲賀の主催事業の一部で「スイカ割り」を行う企画を実施。実際にスイカ割りに入る前には、外国人住民の子どもさんの夏休みの宿題の支援を行ったり、竹細工を一緒に行った。18名の子供たちを対象に行った宿題支援はボランティアの方が少なく、中には水口の特産品かんぴょうを研究する中学生がいた為、一緒に学習する機会となり、漢字の読み取りのお手伝いなど我々にとっても良い機会に恵まれたと実感した。「すいか de コミュニケーション」では、あたかも「侍」のごとく竹の棒を振り上げ、目隠しや3回転もなんのその、家族の声援も合っ  
て見事にスイカをポカッと当てては大完成を上げて大はしゃぎをしている姿に、『これも良い日本文化なんだな。』と再認識した。何でもない日常が外国人の方々にとっては驚きであり、知る喜びであり、一緒に出来る事なんだと思ってもらえた。約50名の参加者の内、外国人住民が40名、日本人は職員さんとボランティアさんと我々スタッフとで10名という構成だった。当日参加の子どもさんには「名札」を体の前と後ろに付けたことで、名前呼び合えたり、いろんな国の言葉でカウントしたりも出来たのが余計に親近感を持って貰うことができた。



## 8：まつり de コミュニケーション

開催日時：2013年9月29日（日）10：00～16：00

開催場所：水口町 水口中央公民館周辺

あやのわいわいフェスタ 2013（主催：綾野自治振興会）に出店。水口町住民であるブラジル及びペルーの方の作ったブラジルの定番お菓子のベイジーニョ（Beijinho）とブリガディオ（Brigadeiro）のお菓子、紫とうもろこしから作るマサモラ・モラーダ（MAZAMORRA MORADA）と、フィリピンのドライマンゴーを販売！カシュジュースや紫とうもろこしのジュースもあわせて販売した。



綾野自治振興会のイベントを活かしてブラジル・ペルー・フィリピンのお菓子類を販売し、出会いの場を作ること、私たちが地元地域の皆さんともお出会いし交流することを目的とした。



意外にもマサモラ・モラーダが一番早く売り切れ、ドライマンゴーやブラジルのお菓子も完売した。地元住民の方ももちろん、市行政の方にも食して頂き、珍しい外国のお菓子を喜んで頂いた。外国のお菓子を販売していることで購入にしてくれたことから、これまで出会うことのなかった外国人の方にも出会い、新たな掘り起しはできた。良い出会いきっかけとなった。

## 9：からだ de コミュニケーション（2）

開催日時：2013年10月29日（日）10：00～16：00

開催場所：水口町 自主活動センターきずな

甲賀市国際交流協会主催のサロンの1つとして、5月に行った「からだ de コミュニケーション」の第2弾、『からだ de 伝える！自然な交流！』を開催した。水口町に住むフィリピン人の女性やペルー人の男性を始め、たまたまアメリカから滋賀県を訪れていたアーティストの女性や、国際交流協会のスタッフや地域グループの方々など、約20名が参加した。



今回は国際交流協会のコーディネートということもあつ成安造形大学の島先京一先生率いるジャズバンドの皆さんとのコラボレーションが実現。生の演奏の中で自由にかだを動かし、交わる、という贅沢な空間が生まれた。国はもちろん、性別、年齢、立場など関係なく、からだ1つで交流する「からだ de コミュニケーション」は、今後鹿 de ござれの主催事業として継続的におこなう仕組みづくりが必要である。

## 10：おやま de コミュニケーション

開催日時：2013年11月23日（土）11：00～15：30

開催場所：水口町 古城山、水口中部コミュニティセンター

水口町のシンボルの一つである古城山頂上（標高283m）までハイキング。自然と歴史に触れながらゆるやかな交流を図ることを目的に開催した。3才～60代までの参加者が集まりともに心地よい汗をかいて登り、頂上ではシートを広げ、昼食をとった。偶然頂上で出会った地元グループの方から、水口岡山城（安土桃山時代）について勉強。昼食後に下山してからは中部コミュニティセンターで水口曳山祭・水口囃し（江戸時代）の情報収集を行った。交流会では安土・桃山・江戸時代の各国年表で歴史交流を図る。

古城山までの途中、見事な紅葉を堪能し、少し息をあげながらも約40分をかけて頂上へ。古城山の頂上では滋賀県の山城からの「のろしりレー」の終了間近に出くわした。焼いものおすそわけを頂き美味しく食して、さらに水口岡山城について説明して頂いた。中日新聞の記者と市行政の方も合流してくださり、皆さんと交流しながら取材を行ってくれた。下山後の交流会では、安土桃山時代や、江戸時代の水口町について学び、さらに当時のブラジル・ペルー・中国のようすについて学び合う場を設けた。



### 〇〇〇de コミュニケーション

**「ゆるやかにつながる」場・空間をつくること  
人々が出会い、溶け合う仕組みづくりをおこなうこと**

**<からだ、ごはん、おにく、すいか、まつり、おやま>など、  
外国人の方にも親しみやすいネーミングで参加者の幅を広げ、  
年齢・国籍など関係なく、ココロがほぐれる空間をつくれます。**

**〇〇〇de コミュニケーションでは、鹿深 de ござれ！のメンバーが  
参加者の緊張をほぐし、互いにかかわり合えるよう、  
ファシリテーターとしての役割も担っています。  
「風の人」と「土の人」が交ざりあい、展開していきます。**

## 4. メディア報道各種



甲賀市広報誌“あいこうか”(H25.9.1号掲載)



中日新聞・滋賀中日版(H25.11.26掲載)

～甲賀市の第三セクター(株)あいコムこうかのひかりケーブルテレビで放映!～

『000 de コミュニケーション』がなんと3度も取材・放映されました!

おにく(7月19日～)、すいか(9月6日～)、まつり(10月2日～)

“おにく de”の回では、おうみ未来塾についても紹介されました!!



## 5. まとめ・今後の活動に向けて

### 常設された居場所の必要性

〇〇〇de コミュニケーションの開催を重ねる中で、参加者から「どこに行けば、あなたたちに会えるのですか？」という声かけを多くもらうようになった。WSの定期開催だけでなく、いつでも気軽に立ち寄れる場所が望まれている。  
⇒「居場所」を立ち上げ、運営します。

2014年度甲賀市市民協働事業提案制度に申請しました。  
—甲賀市との協働で目指す活動の深化—

9月13日:申請書類提出  
10月17日:第1次審査...  
11月7日:第1次審査通過通知  
11月16日:第2次審査(公開プレゼンテーション)

#### 〔1〕 本当に出会わなければならない人々との出会い

まだまだ私たちの活動では、本当に出会わなければいけない人がたくさんいるはず。この活動を必要としている人々の元へ届く仕組みづくりに取り組みます。

#### 〔2〕 地域住民の巻き込み

新たな「居場所」を中心に地域に溶け込み、自然な交流の中で課題を発見。地域で活動する各主体とも情報を共有し、課題解決へ向けた連携を図ります。

#### 〔3〕 参加者から主体者へのシフト

これまでもイベントの参加者が徐々に主体的な関わりをもつようになってくれた。地域に関心を持ち、共に考え行動することのできる、担い手の増加を目指します。

### 鹿深 de ござれ! のこれからの目標

#### 『自国に誇りを、互いに尊重を』

主体的な活動を通じて自国の伝統・文化に誇りをもち、  
地域の中で互いに尊重し合える風土を見出すこと

#### 『助け合いが自然と生まれる関係づくり』

何か困ったときや、災害のときなど、もしもの時に、  
自然と助け合える孤立しないお互いさまの関係を築くこと

#### 『魅力ある「鹿深」を市内外にPR』

自然な異文化交流が互いの暮らしを豊かにすることを示しながら、  
歴史ある「鹿深」のまちを市内外にPRすること

# おうみのふるさと物語 プロジェクト

地元にも眠る郷土物語をよみがえらせるプロジェクト



石川輝伸  
佐藤麻里  
塩田余侍美  
橘晃照  
樋上真吾  
山川弘光  
山本一男  
山本周作



## 1.わたしたちの目的

滋賀県（近江）には、各地に「ふるさと物語」（民話・伝承・伝説・神話・わらべ唄・しごと唄・まつり唄）が語り継がれてきました。こうした物語は、土地が醸し出す風土や人の営みを描いており、語り継ぐことで磨かれてきたのです。

しかし、多くの「ふるさと物語」は、今の私たちには語り継がれることなく、古老の記憶や図書館に眠ったままになっています。その結果、祖先から語り継がれてきた地域の魅力を知る人は少なく、地域の個性を感じさせない近代化したまちづくりが増えてきました。

私たちはまず、個性ある地域の魅力が詰まった「ふるさと物語」を発掘・編集・普及します。そして、この活動を通して、地域の個性を反映し、地域愛を育み未来につながるまちづくりを応援します。その結果、心豊かな社会を目指します。

### <目的の変化>

目標発表会(2/9)	中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
ふるさと物語で	ふるさと物語で	個性ある地域の魅力の詰まったふるさと物語で、	ふるさと物語の中に、地域の個性があると気付く
地域愛を育み ・未来につながる ・地域活性化	地域愛を育み 魅力あるまちづくりに貢献する	地域の個性を反映し、地域愛を育み 未来につながるまちづくりを応援する 心豊かな社会	地域の人が、ふるさと物語を初めて聴いたのに、懐かしいと感じている 物語でできることはまちづくりの応援と気付く 物語は心豊かな社会を育むと気付く

### <ふるさと物語の捉え方の変化>

目標発表会(2/9)	中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
昔話(郷土物語)を平易化	物語 民謡	物語(地域情報を活用) 里唄(地域情報を活用)	理解を深め、まちづくりにつなげるため、地域情報を活用する ・野洲川で対岸と歌合戦した歴史のため、歌が発達し、物語の要素がある。 ・民謡は合わない地域から名称変更の声が上がり、里唄にした。

## 2.わたしたちの主な活動地域と協力団体紹介



わたしたちは、野洲川下流域周辺で主に活動をしました。具体的には、旧野洲川の北流と南流の間にある「守山市中州学区」とその周辺地域です。

### 「野洲川でんくうの会」

平成19年4月21日に発足。野洲川の魅力について学習し広報するため、勉強会、野洲川下り、環境学習会などの活動をされています。

野洲川の地元団体として、わたしたちの活動に対して親身にアドバイスを頂き、旧中主町の民話資料の提供や、8月の語り部の会などで、協力をしていただいています。

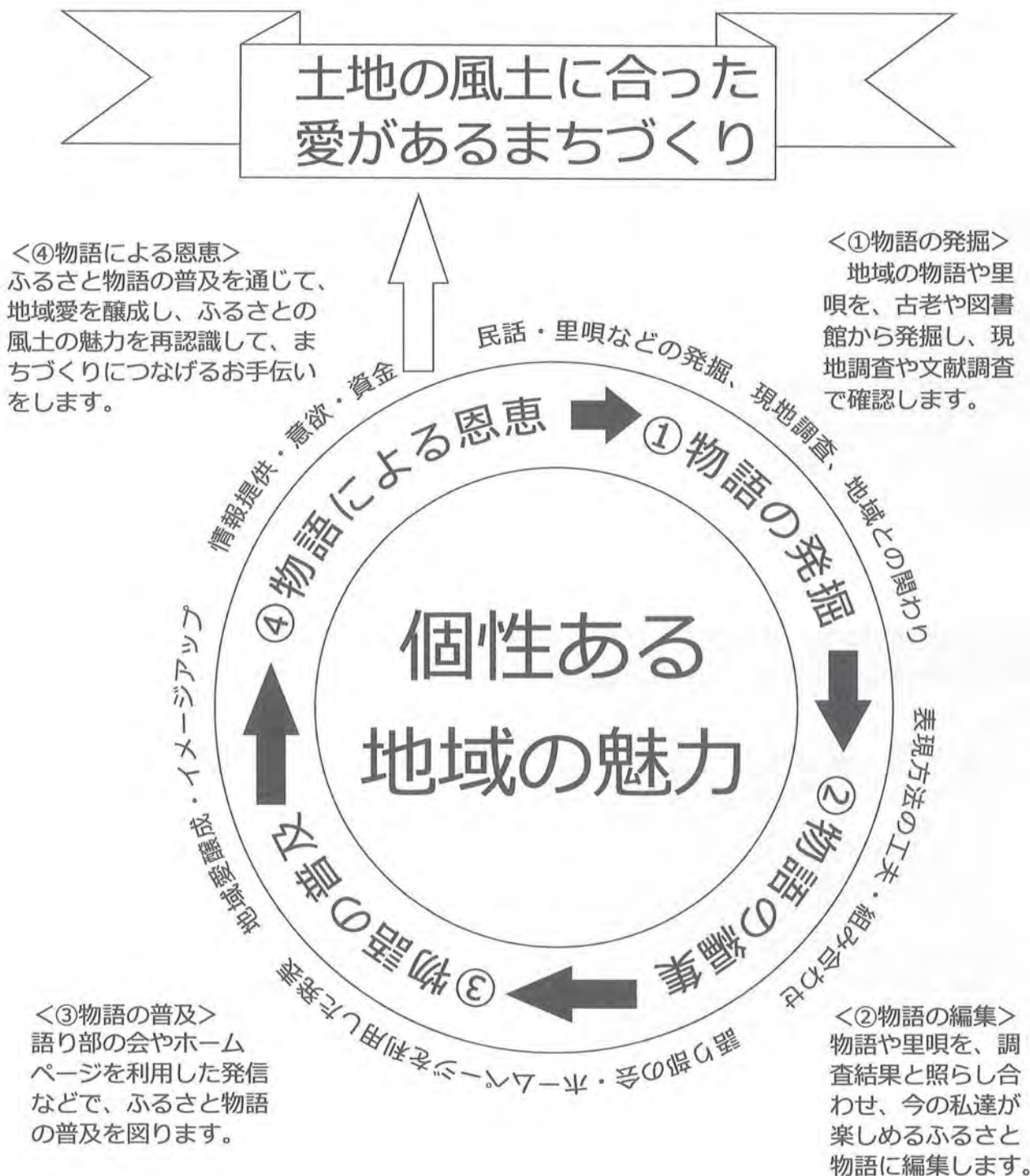


この他にも、多くの個人・団体の協力により活動を行ってきました。この場を借りて、皆様に感謝申し上げます。

なお、安土でのふるさと物語の公演の要請を受けて、安土のふるさと物語活動として、楽市楽座館で語り部の会を2回開催しました。地域外の公演も経験して、おうみのふるさと物語プロジェクト活動は、滋賀県全域に広がる可能性を感じました。



### 3. おうみのふるさと物語プロジェクトの循環図



#### ⑤ふるさと物語活動を楽しむ仲間の輪を広げる

⑤おうみのふるさと物語プロジェクト活動を、楽しむ人の輪を広げます。



## 4. 物語の発掘調査活動

調査物語数：野洲川下流域周辺39話 滋賀県全体約800話

物語を調査し、現地を訪れて調査活動を行いました。語り部の会で発表した4話を紹介します。

### <河童太郎(がわたろう)物語>

子どもたちを困らせた河童を、西念寺の僧侶が説教した。野洲市吉川に伝わる説話です。野洲川でんくうの会様に教わりました。



写真は西念寺の本堂です。西念寺を訪問し、僧侶より物語について教えて頂きました。

### <お満燈籠>

八紘山と結ばれるため、夜の琵琶湖をたらい舟で100日連続で渡るお満。守山市今浜に伝わる切ない恋の物語です。



写真は、琵琶湖大橋料金所の隣にあるお満さんを偲ぶ燈籠です。多くの人知っている場所の隣に物語の碑があるのに、今まで気付かなかったことに驚きました。

### <おツブさん>

1721年の洪水で、タニシの付いたおみこしが、守山市笠原にある蜷江神社の御祭神の前に止まり、流出を免れたお話です。



写真はおツブさんを飼っていた池の跡です。神社のお賽銭の管理者から、現在でもタニシを食べない風習が残っていると聞きました。

### <ゆうれいつぼ>

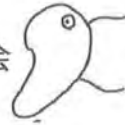
坂本まで送ったお礼に、幽霊の女性からもらった壺。守山市赤野井の徳有さんの不思議な体験の物語です。



写真は、舟を岸に繋いでいた時に幽霊が現れた小津袋という内湖です。現在も舟が岸に繋がれており、落ち着いた場所でした。

### <調査活動回数>

フィールドワーク調査 : 全体で6回、各個人で10回、計16回実施しました。  
図書館・博物館の文献調査 : 全体で2回、各個人で65回、計50回実施しました。  
地元の方への聴き取り調査 : 全体で3回、各個人で7回、計10回実施しました。



## 5. 物語の活動経過



④私たちの活動が、新聞に取り上げられ、多くの人に活動を知って頂けました。  
2013年7月23日(火)の京都新聞朝刊に掲載

①野洲川流域で活動している野洲川でんくうの会様から、野洲川の物語や背景を詳しく教えて頂きました。



上のQRコードを、ケータイ等で読むことで、おツブさんの物語の動画をお楽しみ下さい。



①各地の図書館へ行き、図書館に眠る滋賀県内各地の物語を調査しました。貸出記録が十年以上あることに驚きました。



③語り部の会を開催し、紙芝居や現地写真をプロジェクターで投影しました。物語を語り、現地紹介をして、地域の魅力を感じて頂きました。動画はYouTubeで公開済み。



③おうみのふるさと物語プロジェクトのホームページに物語を掲載しました。ホームページ上では、滋賀県の物語を紹介しています。



②物語の舞台となっている現地フィールドワークを行いました。写真は「おツブさん」の舞台である蜷江神社です。現地の資料を収集し、まちづくりにつなげるため、物語紹介に地情報を追加しました。

### <編集方法の変化>

目標発表会(2/9)	中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化管理理由
郷土物語の平易化	文章表現の工夫	物語の再話	原語の良さを活かすため、編集は最小限。
	写真・絵の素材を整え、表現を工夫	フィールドワークの写真や過去の写真を使用	現地に、地域の個性があり、現地の写真が最も物語の世界を表現している。



## 6.里唄(昔のわらべうた・しごと唄など)の活動経過

④⇒①近江八幡市安土町の楽市楽座館の公演要請に応えるため、安土の里唄を発掘しました。

さらに、近江八幡市の白鳥川、栗東市、湖南市石部、米原市柏原(限定公開)の方々の要請を受けて、里唄を発掘しました。



①絶版となった「滋賀県の民謡」のCDなどの資料を、図書館書庫から入手しました。

①写真資料を持つ藤村和夫さんに著作権料を支払って、昔の野洲川の写真の掲載許可を得ました。



③語り部の会で、唄の背景を解説した上で、里唄を披露しました。写真を撮る観客もいて、興味を持って聴いて頂けました。



②発掘した里唄を、自ら歌って録音して音声編集しました。現地写真などを映像に用いてフォトムービーを作成しました。作業として、約2時間/曲の労力です。

たけうまよいち 守山市与信の子守歌

③音声テープで残る里唄を広く活用するため、楽譜化しました。

③野洲川下流域18曲を含む25曲の里唄をYouTubeへ投稿し、アクセスした方々から計1238回再生されました。

### <里唄の編集方法>

里唄をYouTubeで動画公開するため、音声処理・フォトムービー化(歌詞テロップ付き)を行い、地域写真を追加しました。地域の写真・図を挿入することで、里唄の世界を表現しました。

中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
歌を録音し、エフェクトやマスタリング音声処理を実施	ポップノイズ除去スクリーンを使用して録音	再生機器の性能が高いため、ノイズ除去や音声処理により、雑音を少なくして美しい音に加工することが必要。
音声に合わせて歌詞をテロップで記載しフォトムービー化	地域の写真や関連する絵などを挿入する	地元の歌と地元の風景が見事に合っている。歌詞は原語のままが最も良いが、文字テロップがないと理解できない。フォトムービーは写真を把握できる。
古老の音声テープがある	音声テープを楽譜化し、自ら歌う	記録に残し、広めるには楽譜が必要。まず自ら歌うことで共感を得られる。



## 7.語り部の会

語り部の会は、当初は古老が語ることを想定していましたが、ふるさと物語を知らず語れない古老が多く、地域の魅力の詰まったふるさと物語を自ら語りたくなり、私達が語りの中心となりました。また、語り部の会がきっかけとなって活動が発展しました。

私達は、野洲川下流域の調査結果を発表する語り部の会を 8月と11月の2回開催しました。さらにシガモリ (7-2.参照)の要請をきっかけに、安土にある楽市楽座館で10月と12月に発表しました。

### 7-1.語り部の会：野洲川物語～昔と今～

2013年8月18日に、野洲市の野洲川田園空間センターで、「野洲川と共に生きてきた三人に聞く 野洲川物語～昔と今～」を開催しました。30名の参加者と、野洲川物語を楽しみました。



参加者の声	・でんくうの会の話が良かった:66%
	・里唄が良かった:40%
	・物語が良かった:33%
	・今回は下流のみだったが、中流・上流へと展開して欲しい:33%
	・まち歩きがあると良い20%
	・問題点を指摘した人:0%
	・アンケート枚数:15枚

当初は、皆が知っている話を地元の人にして意味がないと思い、外部のお客さんを呼ぶようお願いした。実際にふるさと物語を聴くと、懐かしく感じられて良かった。地元の人が集うでんくうの会の記念公演でも発表して欲しい。次回はふるさと物語の単独公演で頑張りたい。

私達の気付き  
 ・皆さんが好評で良かった。  
 ・里唄は、歌詞の表示があり、生活に密着した内容で良かった。  
 ・話を聴くだけでなく、参加者と交流する時間が欲しい。  
 ・開演後に受付に人がおらず、遅れた人への案内が不十分だった。  
 ・ふるさと物語をもっと分析し、地元の現在の紹介情報を追加したい。

第1部	講演3名	野洲川でんくうの会から、北出会長、斎藤副会長、橋本副会長の講演
第2部	物語1話	おツブさん
	里唄7曲	杭打ち歌、稲の水替え歌、亥の子の餅は、堤の亥の子の唄、新庄来い、なむあみだぶつ、蜩来い竹次郎さん

### 7-2.語り部の会～安土町楽市楽座館～

「地域社会に貢献し、地元を盛り上げていけたらな。」という思いで、二十代の若者が中心となって現在安土で活動しているシガモリの要請を受けて、2013年10月27日に、近江八幡市安土町の楽市楽座館で語り部の会を開催しました。地元などの若者や古老を含む15名が参加し、安土町楽市楽座館より12月の楽市楽座館6周年記念祭に招待頂きました。



物語3話	安土の物語:菅穴大明神、蛇石、信長と常楽寺相撲
物語1話	野洲川物語:おツブさん
里唄6曲	安土の里唄:ゆすり遊び歌、中屋の子守唄、トンボつかみの歌、常楽寺の子守唄、粉すり歌

#### 地元の方の声

90歳位の人なら里唄を知っているとと思う。私の知る歌と歌詞が違うが、訂正せずに、地元の高齢者が集う楽市楽座館の6周年記念公演で発表し、意見を伺ったら、会話が広がるきっかけになって良い。公演は素晴らしかった。

#### 私たちの気付き

安土の物語は、3回の練習ではりず、棒読みになった。十分な練習が必要である。安土の里唄は、短期間に地元の唄を発掘したのは良かったが、歌詞が違う意見が出たのは反省点である。



## 7-3. 語り部の会～野洲川下流域周辺の物語～

2013年11月17日に、「ふるさと物語(語り部の会)～野洲川下流域周辺の物語～」を実施しました。

守山市の中山道街道文化交流館は、趣のある古民家で、物語・里唄・昔遊びと雰囲気合っていました。14名の参加者と、ふるさと物語と昔遊びを楽しみました。

物語3話	河童太郎(がわたろう)物語、ゆうれいっぼ、お満燈籠
里唄10曲	杭打ち歌、稲の水替え歌、竹馬よいち、蛍来い竹次郎さん、新庄来い、正月になったれば、亥の子の餅は、大波小波、ひいふのなにわら、臼すり歌
昔遊び6種	けん玉、だるま落とし、お手玉、おはじき、折り紙、コマ回し



物語の発表。



里唄「臼すり歌」を踊りました。



昔遊びを楽しみました。

参加者の声	地元の方の声	私たちの気付き
ふるさと物語を後世へ伝えていくことは大事なことで、心がじんときた。素晴らしい唄・心温まり、また落ち着きます。DVDで出版できる。昔遊びは懐かしかった。	チラシを見た時は魅力を感じなかったが、事務員の仕事として見たら、素晴らしい公演で、自らのふるさと物語に興味を持てた。地域を盛り上げたいので、また公演して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さんが好評で、この活動ができて本当に良かった。</li> <li>・昔遊びで参加者と楽しく交流できてよかった。</li> <li>・参加者を増やすのが課題。</li> </ul>

## 7-4. 楽市楽座館6周年感謝祭における出演

2013年12月8日に、楽市楽座館6周年感謝祭があり、安土のふるさと物語の公演を招待して頂きました。約70名の地元の皆さんの前で、巳年の最後に、安土に伝わる蛇の物語を三話、安土小学校区の下豊浦・中屋と会場のある常楽寺の里唄七曲を披露しました。

安土の里唄は、地元の皆さんと一緒に、はじめて合唱を楽しむことができ、近隣地域で採集したものと同じ曲が歌われていたことがわかりました。

「珍しく、なかなか聞けるものでないからよかった。」「少しだけ歌などを覚えており懐かしくなった。」との意見を頂きました。



物語3話	苔穴明神、蛇石、お茶子と大蛇
里唄7曲	神輿をいさめる歌、トンボつかみの歌、ゆすり遊び歌、やけどのまじないの歌、中屋の子守唄、常楽寺の子守唄、粉すり歌



## 8.インターネットによる情報発信

ふるさと物語を皆様を知って頂くため、当初はホームページによる情報公開のみを考えていました。実際には、YouTube動画公開にアクセスがあり、facebookの即時性は新規顧客獲得に有効でした。

目標発表会(2/9)	中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
ホームページで情報提供⇒			変化なし
	フォトムービーを作成して、YouTubeに公開	地域写真や図を入れたフォトムービーを作成して、YouTubeに公開	ふるさと物語は語られることに価値があり、動画が有効。地域写真とふるさと物語は関連がある。地域写真を利用することでまちづくりにもつなげる。
		facebook・ブログ・ツイッターで語り部の会を広報し、参加者を増やす	新規顧客の開拓に、イベント案内の返信機能があるfacebookが有効

おうみのふるさと物語

🔍 検索

インターネットのキーワード検索機能により、私たちのホームページ・YouTube、facebook、ブログ、ツイッターを検索できます。

### <YouTube>

YouTubeは、無料で動画を保存・発信できる無料の動画サイトです。

おうみのふるさと物語は、語られることに価値があり、静止画や文章による表現では限界があります。また、単にふるさと物語を紹介するだけでなく、ふるさととの関連情報（現地の景色や場所、過去の風習など）も紹介しました。

このため、おうみのふるさと物語を実際に録画し、動画を公開しています。

また、動画のアクセス数を比較することで、各動画の人気度を知ることができ、1341件のアクセスがありました。動画の人気ランキングを下表に示します。

順位	題名	内容	youtube アクセス数	市町村	在所
1	蜷来い竹次郎さん	蜷狩り歌	188	野洲市	乙窪
2	なむあみだぶつ	お手玉歌	177	守山市	新庄
3	大波小波	細鼓び歌	171	野洲市	比留田
4	亥の子の餅は	まつり歌	101	守山市	幸津川
5	新庄来い	まつり歌	97	野洲市	乙窪
6	竹馬よいち	子守唄	85	守山市	今宿
7	じゃんけん遊び	遊び歌	67	近江八幡市	小船木町
8	正月なつたれば	正月待ち歌	62	守山市	新庄
9	おツブさん	民話	51	守山市	笠原
10	鎌の道	自然の歌	43	守山市	新庄
11	臼すり歌	遊戯唄	35	守山市	矢島
12	稲の水替え歌	しごと唄	33	野洲市	五条
13	杭打ち歌	しごと唄	32	守山市	笠原
14	粉すり歌	しごと唄	27	近江八幡市	常楽寺
15	豆おくれ(節分)	まつり歌	25	守山市	新庄
16	あずきたった	しごと唄	25	近江八幡市	小船木町
17	ピーヒョロとんび	自然の歌	24	野洲市	乙窪
18	ひいふのなにわら	お手玉歌	19	野洲市	西河原
19	コンメの歌	お手玉歌	16	栗東市	荒張
20	とんぼつかみの歌	あそび歌	16	近江八幡市	下豊浦
21	ゆすり遊び歌	遊戯唄	13	近江八幡市	中屋
22	しびれ京へ	まじない歌	11	野洲市	比留田
23	ノーコンエー	しごと唄	10	野洲市	比留田
24	タノシひらいが	自然の歌	10	野洲市	北比江
25	つつとんだ	お手玉歌	9	野洲市	安治・井口
26	石搗き歌	祝い歌	5	湖南市	出水

### <facebook・ブログ・ツイッター>

これらは、インターネット上で双方向のコミュニケーションをする手段です。

活動の最新状況を素早く伝え、読んだ人からの反応を素早く知って活動に反映するため、読者の多い3つの手段を活用しています。また、語り部の会を広報したところ、これらの手段で知った人から、8月で5名、11月で3名の参加者を得て、活動を広めるきっかけになりました。

### <ホームページ>

おうみのふるさと物語の活動に関する情報や、物語データベースなどを公開しています。

具体的には、以下の情報を掲載しています。

- ・滋賀県に伝わる物語をエリア毎に掲載（あらすじ・場所・出典）
- ・野洲川下流域周辺のふるさと物語を掲載
- ・ふるさと物語・語り部の会の開催情報を掲載
- ・滋賀県内で語り部活動する人や団体を紹介
- ・動画でふるさと物語を掲載

なお、動画については、無料でデータ保存可能な動画サイトであるYouTubeで保存し、ホームページから関連する動画をアクセスできるように設定しています。

ホームページを読んだ方の声	私たちの気付き
地域と人をつなげる活動は素晴らしいと感じました。是非、草津でもご活動が広がれば幸いです。ありがとうございました。	ホームページの管理・更新や物語のキーワード検索化に手が回らず、課題が多い。



## 9.活動のまとめと年表

おうみのふるさと物語では、野洲川下流域を主な活動フィールドと設定し、野洲川でんくうの会様の協力を得て、物語39話と里唄25曲を発掘しました。発掘した物語から4話を語り部の会で発表し、ホームページに物語のあらすじを公開し、動画をYouTubeで公開しました。

発掘した里唄25曲をYouTubeで公開し、11曲を語り部の会で発表しました。

おうみのふるさと物語活動は、地元の方々を始め、様々な方々に関心を持って頂いています。さらに、安土では、要請を受けて2回公演することができました。更に他の地域でも、語り部の会や物語調査の実施要請を受けており、今後とも活動を続ける予定です。

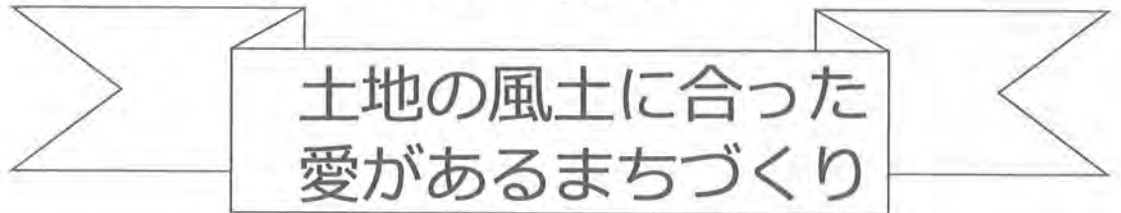
時期	活動の年表の内容
12月16日	おうみのふるさと物語プロジェクトのグループ結成
1月～2月	グループ活動の計画づくり、物語アンケート調査 滋賀県全域の昔話を収集してPDFファイル化して保存
2月9日	おうみ未来塾の目標発表会でアドバイザーの指導を受ける
3月～5月	滋賀県各エリアの物語を各自で百話以上読み、まとめる。
3月～	物語の舞台をフィールドワークにより確認し、情報収集。
4月～	おうみのふるさと物語プロジェクトのホームページ開設 その後、youtubeページ等も開設
4月7日	今年度の活動地域を、野洲川中洲地域に決定
5月～	野洲川下流地域の里唄を物語活動に追加する 里唄を歌い、youtubeへ掲載する
5月26日	野洲川でんくうの会と打合せを行い、協力関係を樹立
6月9日	おうみ未来塾の中間発表会でアドバイザーの指導を受ける
7月14日	語り部の会の内容が、私たちの民話里唄の発表と、 野洲川でんくうの会様による講演に決定する
7月28日	来年に活動予定の長浜市へフィールドワークを行った。 長浜市曳山博物館で地元の物語を紙芝居化している 「すずめの学校」の紙芝居を見学して交流を深める。
8月16日	語り部の会を野洲川田園空間博物館で開催
9月13日	語り部の会の会場を決定し、内容を私たちの民話里唄の発表と、 昔遊びの実践とし、子どもを主な対象とすることに決定する。
10月20日	語り部の会で民話を発表するため、フィールドワークを実施
10月27日	シガモリの要請で、楽市楽座館で安土の里唄等を披露
11月17日	語り部の会を中山道街道文化交流館で開催
12月8日	楽市楽座館の6周年記念イベントで、安土の物語を披露
12月15日	おうみ未来塾の成果報告会で発表

目標発表会(2/9)における計画内容	成果報告会(12/15)までの実践結果
語り部の会(夏休み7・8月)に1回	野洲川下流域で語り部の会(8月・11月) 安土の楽市楽座館で物語・里唄紹介(10月・12月)
ホームページを立ち上げ、情報提供(9-11月)	ホームページ作成(4月)YouTube、facebook、 twitter、blog



## 10. 今後の取組予定

私達は今後も、①物語の発掘→②物語の編集→③物語の普及を行い、多くの人に④物語による恩恵を受けて、物語の発掘作業を加速させるサイクルを回します。  
さらに、⑤ふるさと物語活動を楽しむ仲間の輪を広げます。



④ふるさと物語をもとに商品・サービスを開発：  
ふるさと物語の地域コンテンツ(地域資源)を活かした地域事業(観光・特産品など)の企画プロデュースを行い、地域の事業者や行政と、商品・サービス開発を行います。

①野洲川物語の発展：野洲川下流域から流・上流へと広がっていきます。石部宿地活動団体からの要請を受けており、活動予定です。

姉川物語の開始：湖北を代表する河川である姉川のふるさと物語をまとめます。

④ふるさと物語により、人々の交流を深め、まちづくり支援します。

③ふるさと物語を知ってもらうため、インターネットを使った様々な方法で、ふるさと物語の動画・地域情報などの情報を公開します。その結果、ふるさと物語データベースとして誰でも利用できるようにします。



①滋賀県内のふるさと物語データベース化：滋賀県内のふるさと物語のデータを、子ども達が交流する地域単位で、学区単位で収集。写真などを追加して地域情報を開けます。

②里唄の編集：里唄を歌い地域の映像と合わせてフォーマー化します。また、楽資源として活用を促す楽譜化します。

③ふるさと物語を題材とした旅行  
ふるさと物語の現地を訪れて楽しむ自転車ツアー等を企画します。

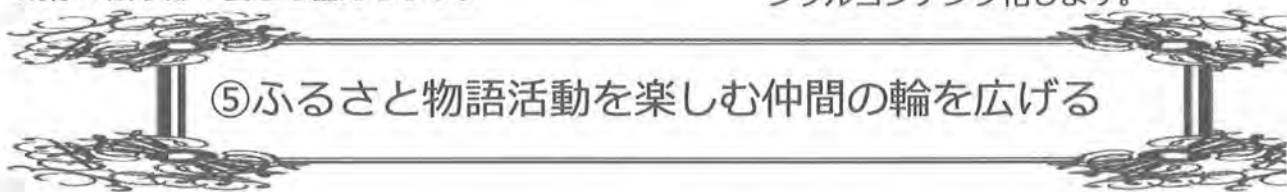
②物語の再話化

方言のイントネーションを古老の話か認め、物語の語りに活かします。

誰でも語って楽しめるようにするため、現を工夫し、地域情報を追加します。

子ども達も気軽に楽しめるよう、物語デジタルコンテンツ化します。

③語り部の会の開催  
高齢者や子ども達を対象とした語り部の会を開催し、皆様とふるさと物語を楽しみます。このため、既存の語り部の会とも協力します。



### ⑤ふるさと物語活動を楽しむ仲間の輪を広げる

- ・ふるさと物語を楽しむグループづくりを支援します。
- ・ふるさと物語コーディネーターの育成プログラムを作成します。
- ・ふるさと物語活用推進協議会を設立します。

ふるさと物語活動を滋賀県⇒全国に広げるため、既存の団体などと協議会を立ち上げます。



# 1.1. 私たちの活動の課題と、目指す将来像

私達の活動の課題として、1.地域への浸透、ふるさと物語データベース構築・活用、3.まちづくりへの寄与があります。課題を解決した将来像のイメージを漫画でお楽しみ下さい。

	循環図	課題	目指す将来像
1.地域への浸透	④恩恵	地域とのつながりを深めていく(時間をかけて住民主体の活動にしてい)	①
	④恩恵	ふるさと物語を、自分達の大切なモノにしてもらう活動にする。	①
2.ふるさと物語データベースの構築・活用	①調査	物語の調査(文献資料調査、古老から聴き取る)	①・⑧
	②編集	物語の再話化、デジタルコンテンツ化	⑧
	③普及	インターネットによる情報発信の更新管理運営	⑧
	③普及	データベースの管理・改善	⑧
3.まちづくりへの寄与	④恩恵	市民団体との連携、県下全域へ広める(観光・サイクリング・ウォーキング)	②
	④恩恵	行政と連携したまちづくり	②

①語り継がれるふるさと物語



ふるさと物語が、地元に住む皆様に語り継がれ、皆が知っていて、自慢し合えます。また、ふるさと物語が、映画の題材や土産物の宣伝、まちづくりに役立っています。

⑧ふるさと物語のデータベースの活用



ふるさと物語を誰でも語って歌って楽しめるようにするため、まずはデータベースを構築します。さらに、ふるさと物語を楽しむ仲間の輪を広げ、データベースを活用できる状態にします。

⑩ふるさと物語のデジタルコンテンツ



ふるさと物語を手軽に楽しめるデジタルコンテンツを開発し、ふるさと情報と関連づけます。この結果、ふるさと物語を楽しむ人が増えていき、現地を訪れてもらって楽しめます。

⑨物語による観光促進



ふるさと物語がきっかけとなり、外部の人が訪問して楽しんでいます。土地の風土を楽しむ個人的なまちづくりを応援しています。

KOKOYA

古  
び  
屋

〜古民家活用サポーターズ〜

青木 孝守

岡田 健太郎

小野 明美

小林 陽子

長阪 静

藤原 実

村山 奈緒美

## 古ゞ屋グループが考えるミッション

- ・古民家（空き家など）
- ・遊休施設  
（公民館、合併などで使われなくなった施設など）
- ・廃校

- 地域の中でおきざり
- 取壊しなどでなくなる思い出
- 防犯上の危険性
- 獣害被害

再活用することにより・・・地域活性化へ！

- 新たな住民のコミュニティの場所へ
- 人が集うことにより防犯の強化へ
  - 収益事業として地域へ還元

# まずは拠点探しへと出発！

## 古ゞ屋グループ物件探しに出発！

### ①活動地域の決定

# 活動地域は米原市に！

■理由・・・メンバーに湖北地域在住者が多く、日頃の地域観察により、何か匂うものを感じ取った！

### ②候補地の探索と結果 ～“活動拠点”と“活動内容”～

#### 1) 米原市村居田

地域の有志が手作りで作った公園内にある移築された古民家を、グループの活動拠点としてお借りできないか交渉。広大な敷地の草刈りなどもお手伝いし、快諾をいただきました。



ここまで至るお話を猪（むじな）会の会長に伺う

## 古〆屋

### 2) 米原市春照・伊吹

何力所か建物候補があったも、コネクションが得られず、今回は見送ることとなったが、今後入り込めたら、と期待の出来る地域であった。



### 3) そして、柏原へ

柏原宿の整備された宿場町の景観に圧倒されるも、メンバー全員「もしこのすばらしい古民家が借りられたら・・・」と期待に胸ふくらますが・・・



区長さんにグループ活動の説明と想いを伝える  
そして、区長さんより一言・・・

「地域に入るには中途半端な覚悟では困ります」  
緊張と覚悟の冷や汗が・・・

この時点で私たちは、

「柏原区で受け入れられるのか」

「ここで何が出来るのか」

「本当にここでいいのか」

など、心にたくさんの不安を抱えていました。

しかし、柏原区の方々だけに限らず、たくさんの方々とお話をしていく過程で、地区にある問題点や住民の想いなど、気さくにお話していただき、私たちの活動が、求められ、やりがいのある活動だと実感しました。

そして・・・

## 柏原学区地域活性化懇話会へ

柏原地区 7学区が、学区の活性化を図るために主催する懇話会でプレゼンする機会を谷村区長さんよりいただき、私たちのミッションと想いをお話しさせていただきました。





プレゼンの後は、私たちの活動に興味のある方々とディスカッション。  
貴重なご意見をいただいたり、応援のお言葉を頂いたり。

この懇話会を期に、柏原区を主とした活動をしていくことをグループ内で確認し、具体的にどのような活動していくか話し合う……

「柏原学区で毎年7月の終わり頃に行われている地域のお祭り「やいと祭り」に参加できないか？」

最悪、古民家をお借り出来なくても、やいと祭りに参加して、地域の方の認知度を上げていきたい。それから徐々に…という思いもあり、区長さんに「やいと祭り」実行委員の方とコンタクトをとっていただき、お話をさせていただきました。



## 結果!

やいと祭りに参加するのに OK をいただきました!

しかも、古民家を借りるには資金が必要。「やいと祭りで資金を稼いだらいいよ。」とまで言っていただけだ。

### 柏原宿のまちの動き……

平成5年(1993年)

・柏原宿整備調査委員会結成(柏原学区史跡保存会)松浦邸宅を保存活用して歴史資料館としてまちづくりに活かす目的で結成された

平成8年(1996年)

・第1回 柏原宿やいと祭まちおこしの起爆剤として第一歩を踏み出す

平成9年(1997年)

・(財)日本ナショナルトラスト柏原宿まちなみ調査柏原宿の保全・整備・活用の提言を受ける

平成10年(1998年)

・柏原宿歴史館オープンまちづくりの拠点として完成登録文化財に指定される

平成15年(2003年)

・街なみ環境整備事業(国土交通省の補助事業)スタート

平成16年(2004年)

・街なみ環境整備事業街なみ環境整備方針の策定街づくり協定の締結(11月)

・柏原生涯学習センター修景 ○中山道修景舗装 ○個人住宅の修景

・松並木道標整備 ○旧柏原銀行修景整備(2009年2月完成)

平成20年(2008年)

・街なみ環境整備事業完了

平成21年(2009年)

・街なみ環境整備事業継続



# 古民家候補

谷村区長さんより、紹介いただいた古民家候補は



・第1候補  
奈良県にお住まいの谷口さんが1年に3~4回掃除やお墓参りに来ている。15年間空き家になっている。



・第2候補 映画監督の生家

## 谷村区長さんのお力添えで第1候補の古民家をお借り出来ることになりました！

### 古民家の掃除

やいと祭りの日をオープンにしようとして、現状引渡しでお借りした古民家を6月下旬から荷物の整理、掃除に取り掛かる。費用を抑えるため、メンバーが出来る範囲で携わった。

1階は比較的きれいにしてもらったので、荷物の整理と建具の修理、台所のガス配管など。

2階部分はたくさんの荷物があり整理、ごみの分別と暑い最中の作業はなかなか大変な作業だった。

### 掃除



## 掃除の様子



ごみを分別し、処  
理場に運ぶ。



座布団を干  
して…



お宝  
発見!



壁の補修



看板作成

拭き掃除でお客  
様を迎える準備



とりあえず…なんとかやいと祭りに合わせて『古々屋柏原西町』としてオープンにこぎつけた。  
2階部分はまだまだ整理が必要、裏のはなれと中庭は手付かずです。

## やいと祭り

### やいと祭りに向けて

7月中旬から土日を中心に柏原区のやいと祭りの準備も始まった。中間報告会での北村塾長の「準備の段階から参加協力して地域に入ったほうがいい。」というアドバイスの元、実行委員会のみなさんに相談させてもらったところ、実行委員会には「大歓迎！」していただいた。





ということで、7月13日 8時半から  
11時半まで、やいと祭実行委員会  
の方々と一緒に灯籠づくりのお手伝い  
をしました。ペットボトル400個分。

## やいと祭り当日



朝からテント建  
てもお手伝い



他グループから  
もたくさん応援  
にかけつけてく  
れました



祭りの実行委員  
長さんたちが  
打ち上げに来て  
くれました!



長阪、小林が手伝  
っていたのはこの  
小さな灯籠たち



## 古民家活用事業

### 古民家活用

9/16(月・祝) 『癒しのサウンド〜クリスタルボウル・ヒーリング&リラックスヨガ〜』

9/21(土) 『第3回 古民家語ろう会』『第2回 コミ活ミーティング』

- 9/22(日) 『対談 一変わらぬもの 木村治×佐伯剛一』  
 9/25(木) 『佐藤陽平講演 古民家だからできるふるさと教育と地域づくり』  
 9/29(日) 『古々屋でヨガ+おしゃべりタイム』  
 10/11(金) 『岡田健太郎コンサート』  
 10/13(日) 『10/13(日) 柏原区民運動会にたこ焼き&焼きそば屋さんを出店』  
 10/13(日)・14(月)・祝 『葉広の絵葉書作り』  
 10/19(土) 『第4回 古民家語ろう会』  
 『第3回 コミ活ミーティング』  
 『JR 東海さわやかウォーキング』  
 ☆古々屋グループとしてスタンプや店頭販売  
 10/25(金) 『古民家でヨガ』  
 10/26(土) 『安らぎのひと時・中国茶講座』  
 10/27(日) 『柏原街道案内』  
 11/4(月)・振休) ワンディシェフ 『にしやんの浪漫亭』  
 『癒しのサウンド〜クリスタルボウル・ヒーリング&リラックスヨガ〜』  
 11/9(土) 『第2回 水彩で絵葉書づくり』  
 11/16(土) 『古民家講座』  
 『第4回 コミ活ミーティング&交流会』  
 11/17(日) 『古民家でヨガ』  
 ワンディカフェ 『ほっこり』  
 『田舎暮らしフェスタ』に参加  
 11/18(月) ワンディシェフ 『にしやんの浪漫亭』  
 11/19(火) 渡部建具主催『IKTT森本喜久雄報告会2013』  
 11/30(土) 『柏原宿 朝市』  
 12/1(日) ルッチまちづくりネット『地域の縁側ツーリズム』  
 に一つのブースとして参加  
 12/4(水) インターネットテレビ STUDIO こほく生放送に会場提供&出演



ワンディカフェ



古民家でヨガ



にしやんの浪漫亭



柏原宿 朝市



コミ活ミーティング



コミ活ワークショップ

## まいばら協働事業

古民家を維持、活用していくには、資金も必要。

そんな時、柏原学区活性化懇話会に来ておられた米原市職員の方から、「まいばら協働事業提案」のプレゼンに出てみないか！と、お話をいただきました。

8/21（水）市役所山東庁舎にて、政策調整課、山東自治振興課と協働事業の打ち合わせ。岡田、長阪、小林が出席。自治振興課には柏原在住の方もおられ、大変期待を持っておられました。3年後に我々だけで運営ができる道筋をもう少し示すこと。

補助金以外の収入を収支予定書に盛り込むことなど、アドバイスを頂き、プレゼン資料を修正。



「まいばら協働事業提案制度」とは、米原市では市民の持つアイデアやノウハウを公共的課題の解決に生かし、より市民ニーズにあった公共サービスを提供するとともに、市民と市が互いの特性を生かして協力し合いながら、公共的課題に取り組むことで協働についての理解を深めるなど、協働のまちづくりを推進するための取組。

10/4（金）まいばら市協働事業プレゼンに参加。



古×屋の活動が  
採択されました！

### まいばら協働事業提案

#### ◆事業の目標

初年度：活動拠点、ならびに活用モデルとして柏原西町の民家一棟を整備、コミュニティースペース等とし運営。並行して地区の空き家の現状調査。

2年目以降：活動拠点の古民家において、コミュニティースペース等としての機能を向上させ、さらなる運営の充実を図る。並行して他の古民家物件の活用を提案、実施、サポートしていく。

将来的に：同様の問題を抱える他の地域への波及、展開を模索する。

#### ◆事業の概要

施設の補修、改修等を行い、コミュニティースペースとして整備していく。ただし全ての整備を完了してから施設の運営をスタートするのではなく、改修自体も見せながら、利用できる部分から順次使用していく。

改修には出来る限りワークショップの形式を取り、住民や興味のある人の参加型で行う。

コミュニティースペースとしての活用は

・カフェ ・販売スペース ・貸館 ・自主事業としての講座 ・宿泊施設

# メディア報道

新聞各紙、メディアに取り上げていただきました。

2013年(平成25年)9月4日 水曜日

米原・信原 地域おこし施設オープン

## 古民家活用交流の場に

### 宿泊体験や催し企画



米原市柏原山田町にある古い民家施設「古民家活用交流の場」が、9月4日にオープンした。古民家の活用促進を目的として、宿泊体験や催し企画を行う。施設は、米原市が所有する古民家を改装し、宿泊施設として活用している。施設内には、畳の部屋や障子があり、伝統的な雰囲気を醸し出している。また、施設内には、古民家の歴史や文化に関する展示も設けられている。施設は、市民団体「古民家活用交流の場」が運営しており、市民の交流の場として活用されている。

古民家活用交流の場、米原市柏原山田町にある古い民家施設「古民家活用交流の場」が、9月4日にオープンした。古民家の活用促進を目的として、宿泊体験や催し企画を行う。施設は、米原市が所有する古民家を改装し、宿泊施設として活用している。施設内には、畳の部屋や障子があり、伝統的な雰囲気を醸し出している。また、施設内には、古民家の歴史や文化に関する展示も設けられている。施設は、市民団体「古民家活用交流の場」が運営しており、市民の交流の場として活用されている。

京都新聞

滋賀夕刊(米原版)

滋賀夕刊 米原版 第1738号

## 宿場の古民家を活用

米原市柏原で、市民団体が拠点開設



米原市柏原山田町にある古い民家施設「古民家活用交流の場」が、9月4日にオープンした。古民家の活用促進を目的として、宿泊体験や催し企画を行う。施設は、米原市が所有する古民家を改装し、宿泊施設として活用している。施設内には、畳の部屋や障子があり、伝統的な雰囲気を醸し出している。また、施設内には、古民家の歴史や文化に関する展示も設けられている。施設は、市民団体「古民家活用交流の場」が運営しており、市民の交流の場として活用されている。

米原市柏原山田町にある古い民家施設「古民家活用交流の場」が、9月4日にオープンした。古民家の活用促進を目的として、宿泊体験や催し企画を行う。施設は、米原市が所有する古民家を改装し、宿泊施設として活用している。施設内には、畳の部屋や障子があり、伝統的な雰囲気を醸し出している。また、施設内には、古民家の歴史や文化に関する展示も設けられている。施設は、市民団体「古民家活用交流の場」が運営しており、市民の交流の場として活用されている。

中日新聞

2013年(平成25年)9月14日(土曜日)

## 古々屋

### 気軽にお越しを

米原の団体 古民家拠点に活動開始



米原市柏原山田町にある古い民家施設「古民家活用交流の場」が、9月4日にオープンした。古民家の活用促進を目的として、宿泊体験や催し企画を行う。施設は、米原市が所有する古民家を改装し、宿泊施設として活用している。施設内には、畳の部屋や障子があり、伝統的な雰囲気を醸し出している。また、施設内には、古民家の歴史や文化に関する展示も設けられている。施設は、市民団体「古民家活用交流の場」が運営しており、市民の交流の場として活用されている。

米原市柏原山田町にある古い民家施設「古民家活用交流の場」が、9月4日にオープンした。古民家の活用促進を目的として、宿泊体験や催し企画を行う。施設は、米原市が所有する古民家を改装し、宿泊施設として活用している。施設内には、畳の部屋や障子があり、伝統的な雰囲気を醸し出している。また、施設内には、古民家の歴史や文化に関する展示も設けられている。施設は、市民団体「古民家活用交流の場」が運営しており、市民の交流の場として活用されている。

読売新聞(県民情報)

インターネットTV STUDIO こほく



伊吹山テレビ



## まとめと今後の活動

### 活動の成果

- 1) 古民家の持ち主（谷口さん）のご厚意により、家賃は無料・光熱水料費のみでお借りすることが出来、当初の到達目標である「古民家1物件を活用」を達成。  
 今後は事業化して赤字の出ない経営を目指す。
- 2) 「古民家にきてみんな新聞」を配布したことにより柏原区内の知名度が少しずつではあるが上がってきている。  
 メディアなどにとり取り上げてもらうことにより市外・遠くは県外からでも来ていただけるようになった。  
 今後はまいばら協働事業に採択されたので米原市内の広報も利用しながら市内に知名度を広げて水平展開になるよう努力したい。
- 3) グループ外のメンバーとして「古ゞ屋倶楽部」を立ち上げ、メンバーを募り、イベントや行事が地域の方の自主的な古民家活用になりつつある。  
 （古ゞ屋で主体的に活動する方が、地域から出てきた  
 →渡部建具店の「間」、田中さんのカフェ、etc…）

- ・地域の皆さんの、私たちの活動を知って頂けた。
- ・地域のリーダーの皆さんとの信頼関係ができた。
- ・他のまちづくり団体との交流が生まれた。
- ・地域に新たなコミュニケーションが生まれた。

### 今後の課題と展望

- 1) 調査…古民家、遊休施設の空き家状況の詳細な調査は未着手  
 →まずは柏原地域の現状調査を
- 2) 拠点整備…2階部分、離れ、庭、トイレ等は未整備  
 →まいばら協働事業を活用して整備を目指す
- 3) 事業化…採算性のある事業をいかに展開するか  
 →宿泊をとまなう活用を目指す
- 4) マンパワー…仕事や家庭との両立を図りながらの活動  
 →早期に事業化を図るとともに、  
 新たなメンバーの加入を模索するその他の目標  
 →地域の方に利用する側のリーダーになっていただく。

地域とともに 行政とともに メンバー力を合わせて歩みます。  
**今後の古ゞ屋柏原西町にご期待ください。**

## 地域でお世話になった方々

柏原区 区長 谷村啓吉さん



古ゞ屋のみなさんとの出会いが柏原学区の7自治会共同で取り組む活性化懇話会発足のごく初期だったことは、両者にとってとても幸せなことでした。ふる里の異なる者どうしが互いの思いをより合わせながら、初期段階を少しずつ具体的な形をまとめ上げていく経験ができたからです。時を同じくして環境と福祉の問題意識に燃える地域出身の若者夫婦が活動の場を得ていきいきと活動しだしたのも偶然のことではなかったようです。

今後は、活動拠点として選んだ地域が持つ独自の気候風土や歴史の流れの中で培われてきた文化や暮らしにどれだけ寄り添った活動ができるかが課題だと思います。技術や知識は伝達できてでも価値観は伝達不可能であり、善を根拠とする行為は価値の押しつけに終わります。互いに謙虚さを大切にしたいものです。

渡部建具店 渡部秀夫さん



私たちは、「間」と称した人が集って対話する場作りを行っています。その会場として古ゞ屋さんを利用させてもらっています。私たちは対話するにあたって、その場の持つ雰囲気や環境を重視しています。古ゞさんに来て下さった参加者の皆さんが口々に「なんか落ち着く、いいわ」と言って下さり、会話が弾む場所を作ってくださいと感謝しています。そもそもここは空き家で、このまま何もしなければ朽ちていくだけのものだったのが、そこを甦らせて、そこにある物事の視点はこれからの地域の自立においてもとても大切だと思う。地域にあるものを見つめなおして活かしていく、その視点、学ばせて頂きました。おんぶにだっこではなく、私たちも頑張ろうという刺激を与えてもらっています。ありがとうございます。

ルッチまちづくりネット 谷口嘉之さん



柏原の町に上手く馴染まれていると思った。特色、特技を持っている人が古ゞ屋を活用し、それに参加された方が、今度は自分もやりたいな、と活用され、活動の広がり・可能性を感じている。今後ともがんばってください。

その他、ご協力いただいた方々

田中博子さん(古ゞ屋倶楽部 ワンデーカフェ)  
渡部 優さん(古ゞ屋倶楽部 渡部建具店)  
横川康文さん(柏原 やいと祭り実行委員長)  
堀内 博さん(村居田 貉会)

西村康宏さん(古ゞ屋倶楽部 ワンデーシェフ)  
北川美穂さん(古ゞ屋倶楽部 漆器講座)  
島田廣巳さん(柏原 やいと祭り実行委員)

# 8 Meets

はちみ〜つ

## 【メンバー】

大橋久幸	(近江八幡市)	中島みちる	(近江八幡市)
大山真	(近江八幡市)	藤井由美子	(近江八幡市)
大工信隆	(彦根市)	松岡沙織	(守山市)
土井崇史	(愛荘町)	山田英二	(大津市)

ブログ 8meets はちみ〜つ

<http://8meets.wordpress.com/>



### 【活動テーマ】

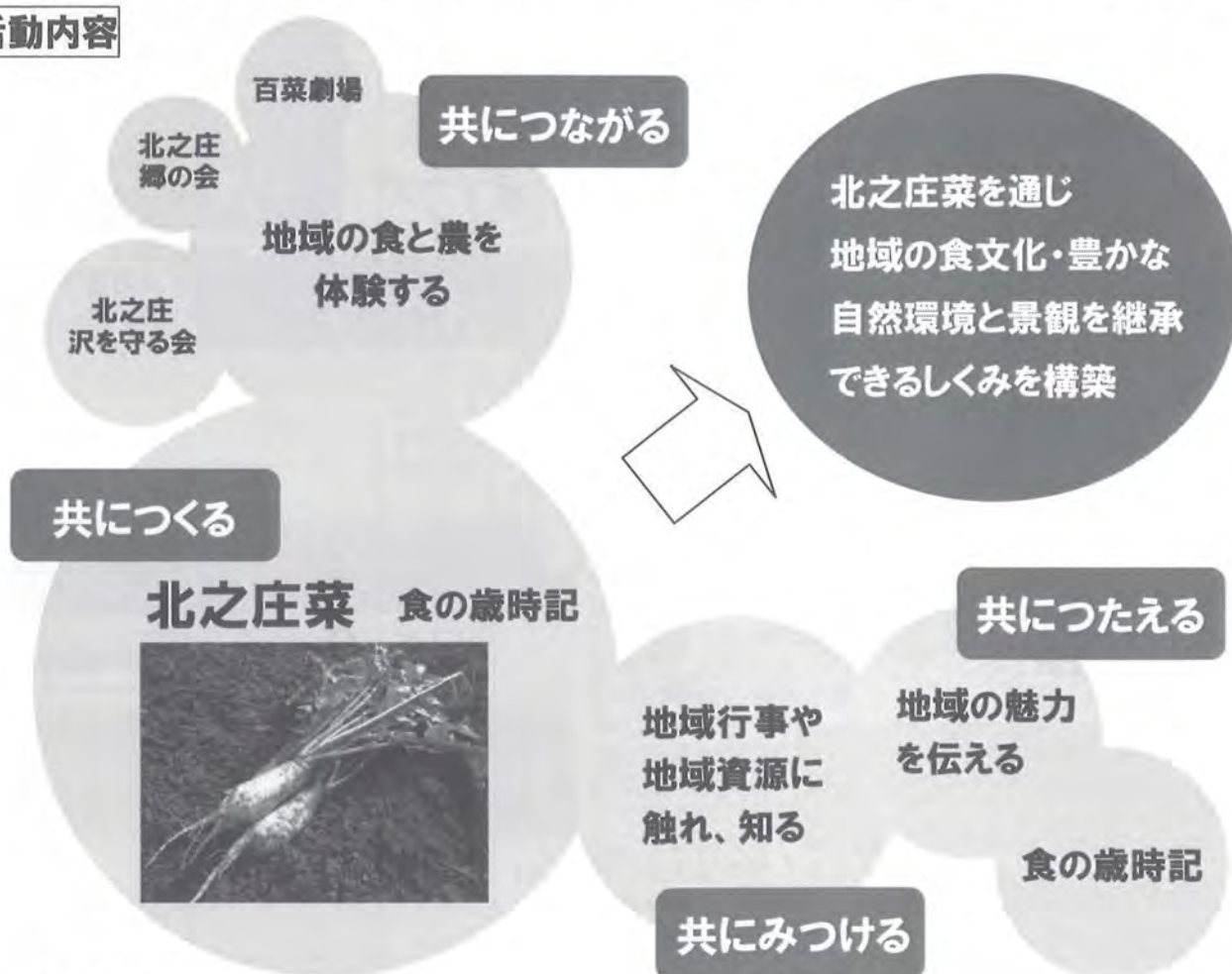
## 北之庄の魅力(地域資源)を活かして 人と人、人と地域をつなぐ

活動フィールド:近江八幡市北之庄

### ミッション

北之庄の地域資源を、北之庄のみなさんと共に見つめ直し、人と人、人と地域を『食と農』をキーワードにつなぐ。そして伝統野菜である「北之庄菜(きたのしょうな)」を通じ、いかに地域の魅力を外に発信できるかを考え、地域の食文化・豊かな自然環境と景観を継承できるしくみを構築していく。

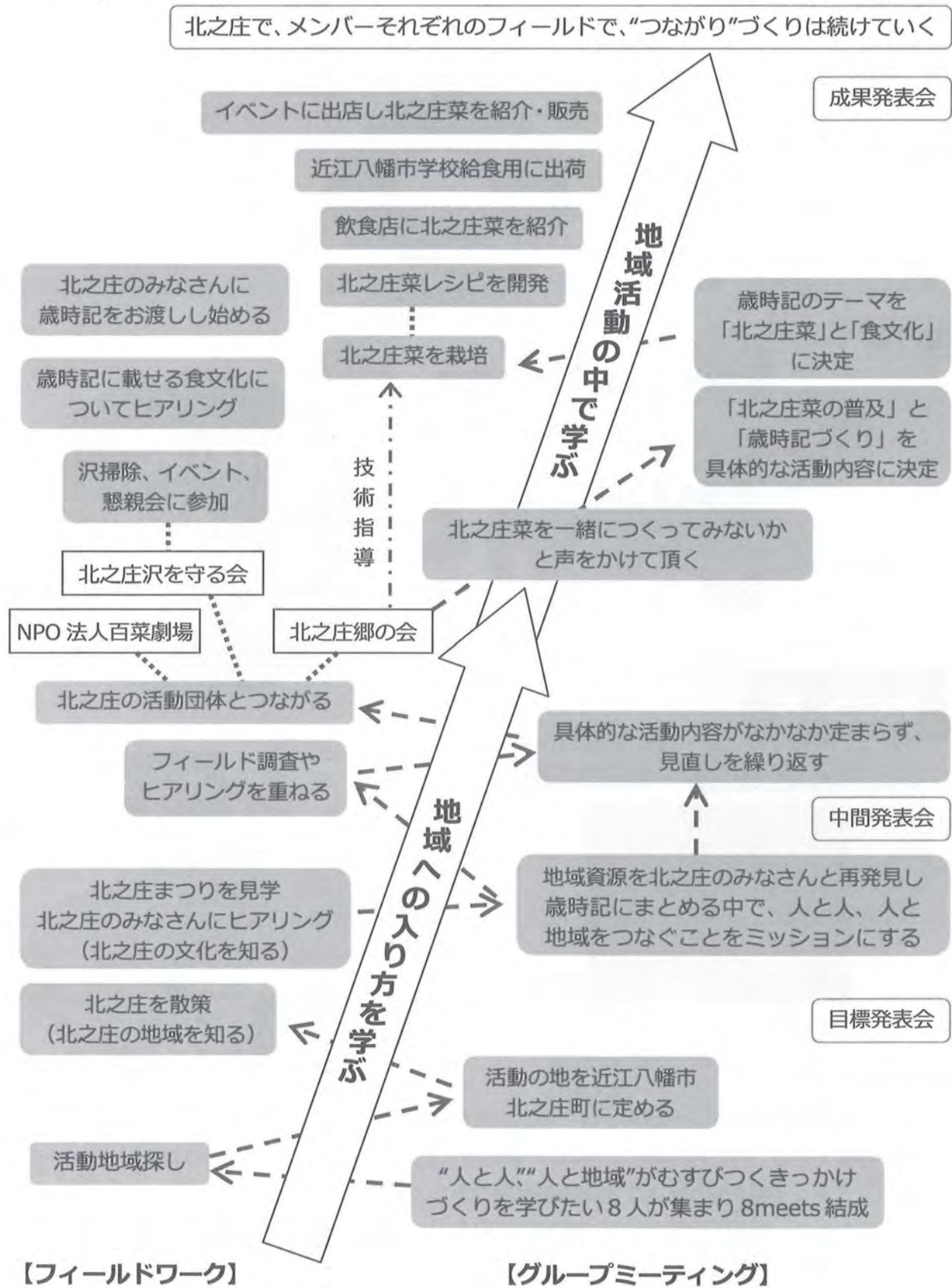
### 活動内容



### <北之庄菜について>

江戸時代末期から昭和30年代頃までは、主に農家のお漬物用として北之庄町一帯で栽培されていた“かぶ”の仲間である。食生活の変化に伴い、一時は全く栽培されなくなってしまった。しかし、13年前、偶然にもマッチ箱の中から北之庄菜の種が見つかり、地域の伝統野菜として見直され、農家でつくるようになった。見た目には鮮やかな紫紅色が目を引き、お漬物はもちろん、すりおろす・煮る・炒める、など使い方は多種多様である。

## 活動の概要



## 活動の計画と実践

2013年	計 画	MTG		実 践	
		回	日	フィールドワーク	その他
1月	・農業従事者へのヒアリング	1 2 3	9 16 25	16日 老蘇地域農業従事者へのヒアリング 18日 北之庄地域農業従事者へのヒアリング	16日 グループ名決定 17日 ブログ開設
2月	・非農業従事者へのヒアリング ・地域資源発掘 ・地域イベントへの参加 (ヨシ刈り、ヨシ焼き) ・イベント開催計画	4 5	18 26	3日 ヨシ刈り参加	9日 目標発表会 18日 ロゴマーク決定 
3月	・春休みイベント開催 (主にこども、非農業従事者対象)	6	12	24日 北之庄の散策	
4月	・地元住民の方々と寄り合い	7 8	9 21	6,7日 北之庄まつり見学 (住民の方と交流、ヒアリング) 14,15日 八幡まつり見学 21日 北之庄の方との交流会	
5月	・イベント開催(こども対象) 例: 地元特産品販売体験 田植え体験、どろんこ遊び キッズカメラマン	9 10 11	2 12 28	12日 沢を守る会の総会・懇親会 16日 北之庄沢魚とり体験 26日 沢を守る会の清掃活動	
6月	・イベント開催 例: 地元野菜を使った料理教室	12 13 14	2 11 23	1日 百菜劇場の田植え体験 2,30日 沢を守る会の清掃活動 29日 百菜劇場田んぼの草取り	9日 中間発表会
7月	・夏休みイベント開催 例: 蓮の象鼻杯体験	15 16	9 28	7日 お魚観察会・お魚釣り大会 9日 郷土食文化・松明作りのヒアリング 15日 郷の会総会 21日 沢を守る会の清掃活動	15日 北之庄菜の栽培決定 28日 郷土料理試食
8月		17 18 19	4 20 25	4日 沢を守る会の清掃活動 沢を守る会の懇親会 6日 歳時記ヒアリング 11日 沢を守る会の清掃活動 12日 JAの北之庄菜栽培説明会 25日 沢を守る会の一斉清掃活動 29日 北之庄菜の肥料まき	
9月		20 21 22	6 10 29	14日 百菜劇場稲刈り 北之庄菜と野菜の種まき 歳時記に載せる食文化のヒアリング 15,22日 沢を守る会の清掃活動 23,24日 畑の肥料まき 29日 北之庄菜と野菜の種まき	14日 ZTV、毎日新聞取材 16日 台風18号の影響で畑冠水
10月		23 24	8 20	3日 野菜畑の間引き 13日 沢を守る会の清掃活動 北之庄菜間引き 14日 野菜畑の間引き、北之庄菜畑の中耕 芝桜植栽前準備 19日 近江八幡たいまつまつり見学 20日 沢を守る会の清掃活動 芝桜植栽と野菜畑の間引き 22日 北之庄菜間引き	13日 12/1のイベントへの出店決定 17日 滋賀大生に北之庄菜を紹介 22日 北之庄菜レシピ開発の協力店への依頼 29日 リビング滋賀取材
11月		25 26	10 24	3日 郷の会総会 4日 野菜畑の間引き 10日 北之庄菜レシピ検討会 17日 北之庄菜30kg収穫、 小学校給食用に20kg出荷 24日 沢を守る会の清掃活動	17日 野菜ソムリエが畑に来訪 21日 歳時記完成
12月	・成果発表会	27	7	1日 「よみがえりのレシピ」上映会にて 北之庄菜を店頭販売 8日 沢を守る会の清掃活動	11日 NHK取材 15日 成果発表会

## これまでの活動

2月

3月

- メンバー各自の目的（グループ活動で学びたいこと）を共有し、互いに意識し、研鑽する
- 地域の行事「ヨシ刈り」参加
- 目標発表会で「8meets 活動計画」発表

●フィールドワーク：北之庄を散策

↓

アドバイザーの先生方から、多くのご指摘、アドバイスを頂いた。

↓

ご指摘等をもとに、再度活動計画を練り直す

### 疑問①

- ・我々の活動は「何のために」「何をしようとしているのか？」
- ・グループのミッション（活動目的）は？ビジョン（我々が目指すこと）は？

↓

具体的な活動内容を検討する

### 疑問②

「この活動は北之庄のみなさんが望んでいること？」、何度も自分たちに問い直した。

### 気づき

北之庄のみなさんの様々な声をたくさん聞いて、北之庄をもっと深く知らなければならぬ。

↓

百聞は一見にしかず！北之庄という地域を具体的にイメージできた。

↓

散策中に会った方々に、北之庄のお寺やお祭の歴史を伺うとともに、これからの活動のヒントも頂いた。

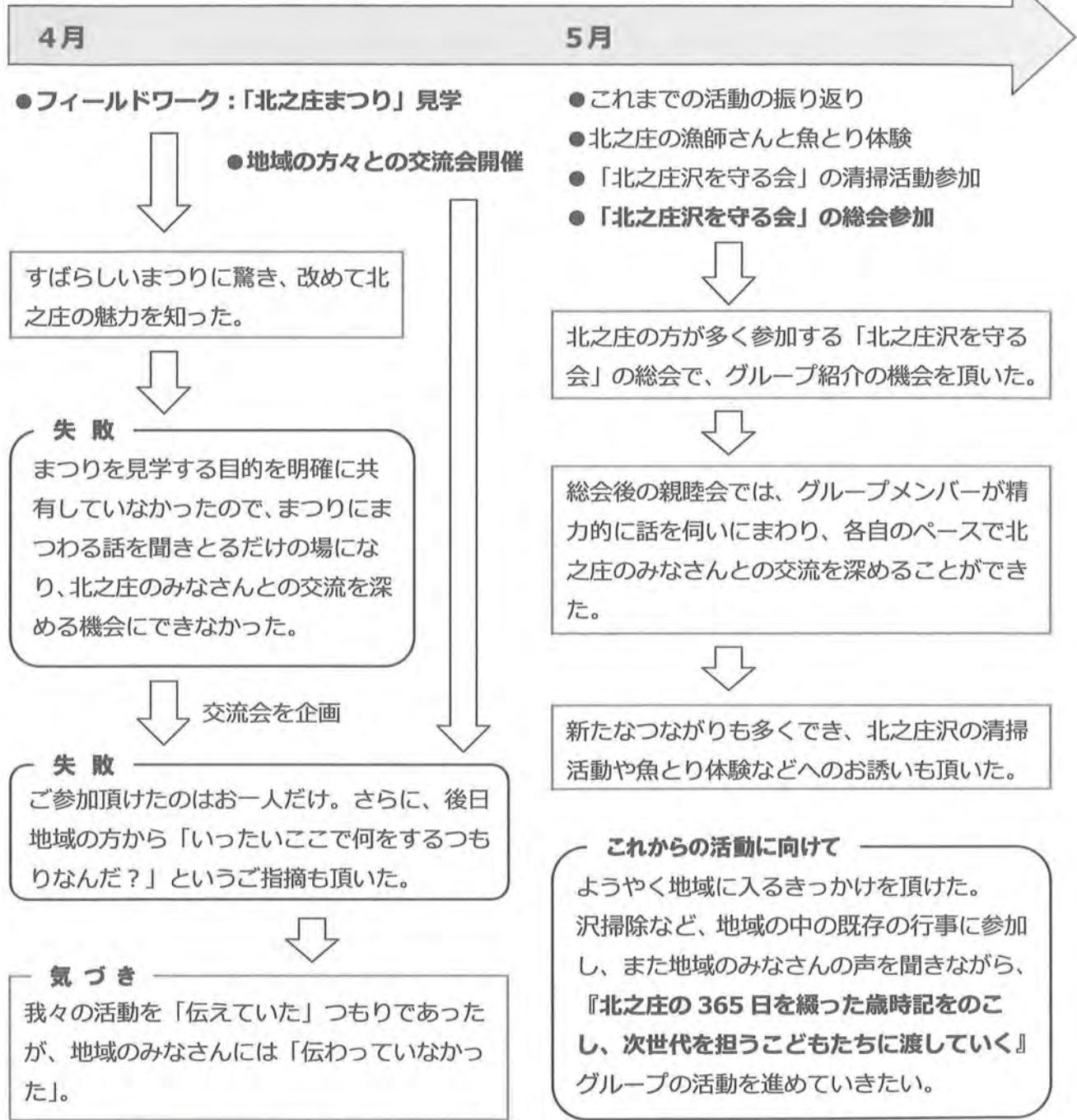
### 失敗

- ・予めご挨拶しておきたい方を訪ねたものの、ご不在でご挨拶できなかった。
- ・グループ紹介の案内資料を準備しておらず、出会った方々に我々が何をやるグループなのかをきちんと伝えられなかった。

### 気づき

活動内容を明確に示す資料やアポイントメントなどの事前準備の重要性を再認識した。





6月 7月

8月 9月

- 「北之庄沢を守る会」に入会。年に数回の一斉清掃だけでなく、班ごとの定期清掃にも参加。
- 地域で活動中の「百菜劇場」主催の田植え体験・草取り体験に参加
- 「沢を守る会」主催の「お魚観察会・お魚釣り大会」参加
- 「北之庄郷の会」総会に参加

- 「松明づくり」と「郷土食」についてヒアリング&試食

つながり①

**NPO 法人 百菜劇場**

北之庄で農に携わり、地域の方からの信頼も厚い団体と8meetsがつながる。「北之庄で共に活動していこう」と確認しあう。

つながり②

**北之庄沢を守る会**

沢を守る会では、毎日曜日、担当班が沢掃除。この清掃班に8meetsの有志が個別に参加。地域の方と話ができる貴重な場となる。

つながり③

**北之庄郷の会**

総会に参加した中で「8meetsも北之庄菜をつくってみたいか」と提示される。「北之庄にあるもの、しかも伝統ブランドを活かす活動に携われることになる。」

気づき

地域の声を聞く機会を設けるごとに、何を核にして活動を進めるかの見直しに時間を要し、具体的な活動内容がなかなか定まらなかった。しかし、地域に溶け込む中で、導かれるように活動の内容が確定した。地域とつながり、地域のみなさんと対話する機会の重要性をひしひしと感じた。

- 歳時記の内容である「北之庄の食」について地域のお年寄りにヒアリング

- 「沢を守る会」の懇親会出席
- 「百菜劇場」稲刈り体験に参加
- JAの北之庄菜栽培説明会に参加
- 北之庄菜を栽培する畑に肥料まき
- 北之庄菜と野菜種まき

「歳時記」は、北之庄菜をPRする際のツールとして利用することに決定。掲載内容の核は「北之庄菜」と「北之庄の食」。今までにヒアリングを重ねてきた「まつり」や「地域行事」、「北之庄沢」などの話は、「食」の切り口から関連付けて掲載することにした。

気づき

郷土食を知るために、おばあさんにヒアリング。手製のお漬物・お菓子持参でご参加くださる。「こんな話を聞きたいの？」と驚かれながらもたくさん語ってくださり、最後は「楽しかったわ」とご感想。特別なイベントを企画せずとも、対話で交流を深めることができるのだと確信。

つながり④

本格的に北之庄菜の栽培を始める。必然的に、畑で出会う地域のみなさんと話す機会が増える。



10月

11月 12月

●北之庄菜・冬野菜の栽培

●北之庄食の歳時記づくり

- 「沢を守る会」芝桜植栽
- 飲食店に北之庄菜を紹介

メンバーそれぞれ時間を工面しながら畑に出かける。「郷の会」の方にご指導を頂きながら、肥料まきや間引きの作業を行った。

これまでのヒアリングやフィールドワークの内容から「食文化」と「北之庄菜」をテーマに、我々が感じたことを歳時記にまとめはじめた。

- ・飲食店に北之庄菜を紹介してまわった。
- ・北之庄菜のレシピ開発に協力してくれる人を探してまわった。

伝統野菜の魅力

一度途絶えた北之庄菜。「お漬物ぐらいにしかならへんで」と地域の中でも決して高い評価ではなかった。しかし、北之庄菜の存在を外へ外へ発信し続ける中で、「地域で育まれた伝統野菜」への興味関心の高さを強く感じた。「食べたい」「美味しい」から「つくってみたい」という声を大きくし、北之庄菜が二度と途絶えることのないしくみづくりを考えていきたい。

●北之庄菜・冬野菜の収穫

●北之庄菜レシピ検討会

- 取材対応「リビング滋賀新聞」
- 近江八幡市学校給食用に出荷

●北之庄食の歳時記完成

●イベントに出店し北之庄菜を紹介

家庭で簡単に食べてもらえるようにグループ内での試食を重ね、北之庄菜のレシピの開発を始めた。

「郷の会」の協力を得て20kgの北之庄菜を出荷した。

在来作物を守るドキュメンタリー「よみがえりのレシピ」上映会にて北之庄菜や北之庄菜のふりかけおにぎりを販売し、歳時記を渡しながらか来場者に北之庄菜を紹介した。北之庄菜を気に入ってくださったお客様からお礼のメールを頂き、新たなつながりもできた。

気づき

卒塾にあたり、8meetsの活動にご協力いただいたみなさんにお礼の挨拶を。できあがったばかりの歳時記を持って、一軒一軒お伺いした。ブログをご覧下さっている方もいらっしや、非常に嬉しかった。沢掃除や北之庄菜の栽培を通して築いてきた「つながり」の成果だと思う。今後は、「こうしたいんや」という地域のみなさんからの声に応えながら、活動を共にしていきたい。





## メディア&協力団体紹介

### 「Meets」が農家を支援 北之庄菜種まき手伝う

近江八幡市の伝統野菜「北之庄菜」を守る農家の人たちを応援しようと、「おうみ未来塾」の12期生8人が結成した「Meets」(はちみ〜つ)。(大山真代表)のメンバーが14日、同市北之庄町の畑で種まきをした。

北之庄菜は、北之庄地域特産の畑の仲間。

近江八幡市北之庄町から昭和30年代に、農家の種用に北之庄菜一帯で栽培されてきたが、農生活の変化などから一時は、代表の大山真さん(46)が守山市内でデザインの仕事をしている。だが、伝統野菜を守ろうとしている北之庄の人たちの熱い思いに共感し、「少しでも参加したメンバーから個々が買つかつたこと、伝統野菜として現職され、現在では十数軒が栽培している。」

参加したメンバーもお役に立てればと、北之庄菜の栽培に初挑戦した。この日は、地元農家の人たちの協力で、メンバー8人が種まきを手伝った。もう1畝には、大根、白菜、水菜などの種もまき、水やりなどもした。収穫は月中旬の予定で、メンバーは、「近江八幡市内のカフェやベーグル店で北之庄菜を料理に利用してもらえれば」と期待している。

【滋賀県大津市】

2013年9月15日(日) 毎日新聞

### PICK UP 近江八幡の伝統野菜 北之庄菜 の普及を目指して

近江八幡市北之庄で活動する「Meets(はちみ〜つ)」が、地域の伝統野菜である北之庄菜の栽培に取り組んでいます。

「Meets」は、近江八幡市北之庄で活動する「Meets(はちみ〜つ)」が、地域の伝統野菜である北之庄菜の栽培に取り組んでいます。

「Meets」は、近江八幡市北之庄で活動する「Meets(はちみ〜つ)」が、地域の伝統野菜である北之庄菜の栽培に取り組んでいます。

2013年11月16日(土) 滋賀リビング



2013年9月14日(土) ZTV取材  
2013年12月11日(水) NHK取材

### <北之庄沢を守る会>

北之庄の有志により設立された「北之庄沢を守る会」は、美しい北之庄沢を守り、自然を次世代に引き継ぐために、継続的に清掃活動をされている。

(平成18年度 都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」受賞)

### <北之庄郷の会>

「北之庄郷の会」は、近江八幡の伝統野菜である「北之庄菜」の栽培と採種および種の保護活動、加工・販売による地域振興を目的とした団体である。

### <NPO 法人 百菜劇場>

持続可能な農業の普及を目指し、野菜づくり・お米づくり、また農業体験やワークショップを通して、農のある暮らしを提案している「百菜劇場」。百菜劇場という名前には「畑はたくさんの生きものの舞台」という思いが込められている。

## 活動の成果を振り返って

### 思い・迷い・転機

『人と人、また、人と地域がむすびつくきかけづくりを学びたい』という8人が集まって生まれたのが8meets。

活動の地を、近江八幡市北之庄町に定め、北之庄の地域資源を北之庄に住むみなさんと共に再発見し、その一つのかたちとして『歳時記』をつくる。その過程の中で『人と人』『人と地域』をつないでいくことをミッション（活動目的）に据えた。

まずは「北之庄を知る」ことからスタート。

しかし、フィールド調査やヒアリングの機会を重ねれば重ねるほど、ミッションを達成するための具体的な活動内容を定めきれなくなった。

- ▶一部の人の話を聞いただけで、それが北之庄のみなさんの思いだと言えるのか。
- ▶誰にでも受け入れてもらえそうなものを探しているうちに、誰にも必要とされないものをつくりだそうとしているのでは？
- ▶そもそも『歳時記づくり』は、誰が求めているのだろうか。
- ▶もっともつ的をしぼり、北之庄の中の本当に惚れたところ、自分たちが楽しんで取り組めるところを見つけ出そう。

何度もグループ内で討議を重ね、今後の進むべき方向性を探っているうちに5か月が経った。

活動の転機は、突然訪れた。

「北之庄菜、一緒につくってみいひんか？」北之庄菜を栽培されている農家さんからお誘いを受けたのだ。どうやって地域とつながろうかと模索し続けていたが、その間も絶えず地域のみなさんとかかわり続けてきたことが功を奏し、北之庄の地域資源である「北之庄菜」を媒介とした活動を具体的に始めることができるようになった。今後の方向性が明確になり、8meetsの中で多くの意見が飛び交うようにもなった。

### 《北之庄にあるもの》とつながる

#### \*北之庄には「沢」がある

地域のみなさんと最も多く顔を合わせる機会を設けられたのは、「沢を守る会」主催の沢掃除である。毎週の沢掃除に、8meetsのメンバーが交代で参加。「未来塾の何とかという人」から、「〇〇さん」と名前と呼んで頂けるようになった。

北之庄のみなさんとつながる大きなきっかけとなった。「沢を守る会」のみなさん、ありがとうございました。「沢を守る会」の西野会長からメッセージを頂戴しました。

◎「沢を守る会の活動は13年目を迎え、定着してきた。その中で、8meetsの参加は新たな活気となった。『歳時記』についても、北之庄に住む我々が北之庄の魅力を見出す機会となった」



北之庄沢を守る会 西野会長

#### \*北之庄には「北之庄菜」がある

「北之庄菜をつくる」とはいえ、畑仕事に関しては素人集団の8meets。わからないことだらけなので、一から十まで指導を乞う。畑で出あった人に尋ねる。ともに出荷作業をおこないながら、世間話。新しいつながりが生まれる。

「北之庄菜」に関わることができるようになってから、8meetsの活動の場は大きく広がった。「郷の会」のみなさん、ありがとうございました。「郷の会」の大西会長からメッセージを頂戴しました。

◎「北之庄菜の栽培や畑づくり、また北之庄の掃除にも参加してもらった。『歳時記』を見せてもらったが、知らなかったことまで教えられ、もう一度北之庄を振り返る機会になった。これからも、北之庄の知らないところを一緒に勉強していきましょう。」



北之庄郷の会 大西会長

## ＊北之庄には「百菜劇場」がある

すでに北之庄の地で活動を続けていらっしゃる百菜劇場さんの存在はとてありがたかった。全くの余所者である 8meets が顔を出す先々に百菜劇場さんが、'顔なじみ'が'顔つなぎ'をしてくださると、新しい場でも溶け込みやすい。

「百菜劇場」のお二方、ありがとうございました。「百菜劇場の」の廣部さん・根津さんからメッセージを頂戴しました。

☞「北之庄の地域資源は『人』だと思う。共に畑仕事をする中で、農家のみなさんのあたたかさ・おおらかさに気づかれたのでは。この気づきや学びを、これからの活動に活かしてください。」



## ＜食＞は、つながりを生む

自分たちが作った北之庄菜を、どうやってPRしていくか。美味しく食べられる家庭料理の紹介は欠かせない。ミーティングの中で、北之庄菜のレシピ検討会。最高の盛り上がりを見せた。

“食”は必ず“つながり”を生む。

活動当初から、8meets の総意であった。

「北之庄菜を知ってもらいたい」「北之庄菜を美味しく食べてもらいたい」という思いは、グループのつながりも強化した。

収穫した北之庄菜をいろんな飲食店に紹介する。同時に、イベントの場を通じて、一般のみなさんにも「食べてもらう」機会を設ける。

先日、嬉しい感想を頂いた。

☞「北之庄菜の根の甘いこと。野菜スティックにしていただきました。私と子どもの大好物になりました！葉の部分は、ふりかけに。美味しく感動です。この冬のマイブームになりそうです。今後は、草取りなど、畑仕事の手伝いに行けたらと思います。」

地域の伝統野菜の栽培に、将来世代の子どもたちが関わっていく。この姿は、我々が目指していたもの。小さくはあるが、確実に一步を踏み出したことは大きな成果である。

## 食の歳時記

北之庄菜の栽培や PR 活動に携わる一方で、地域の伝統野菜「北之庄菜」と「食文化」の二つをキーワードにした歳時記を作成。北之庄菜の販促ツールに利用するとともに、北之庄のみなさんにもご覧頂こうと、お世話になった方々に手渡しを始めている。

「ようつくってくれたなあ。立派なもんや」  
「もっと譲ってくれへんか。いろんなところで配りたいし。市役所や観光協会にも渡すわ」  
「他にもな、まだ（伝えたい）話はあるで」  
「そうそう、ブログも見てるで。ようやってくれてるなあ」

思いがけず、嬉しい声を方々で頂戴すること。北之庄の地域資源を「見える化」することで、地域の魅力を再認識し、発信していきたいと感じて頂くことができた。同時に、8meets を受け容れて頂けるようになったと確信。今後は、北之庄のみなさんの中で、歳時記や北之庄菜を手にしなが、北之庄を題材に話が弾む関係性を築いていくことが目標である。

## これから

活動の過程で紆余曲折があった 8meets。しかし、10 か月という短い期間の中で、北之庄の中に溶け込むことができたのは、常に「地域のみなさんと対話しよう」という働きかけを続けたからだと考える。顔を合わせて話すこと、関わり続けることの重要性をつくづく感じた。

卒塾を迎え、8meets は解散するが、有志は、引き続き北之庄の地で活動を継続していく。

これからは活動を通じて学んだことを糧に、各々、目指すフィールドで“つながり”づくりに実直に携わっていく。

北之庄のみなさま、大きな学びを本当にありがとうございました。

# おうみの未来塾 12期生 活動マップ

グループ名：古ッ屋（ここや）

テーマ：古民家活用サポーターズ

活動内容：使われなくなった建物や古民家を地域の方々に利用価値のあるものへと再生し、失われつつあるご近所づきあいや、少子高齢化、安全面など多方面で未永く利用出来る、価値ある建物として活用する。

活動場所：米原市柏原

## Members

岡田健太郎（米原市）  
長阪 静（大津市）  
小林陽子（米原市）  
小野明美（長浜市）  
村山奈緒美（東近江市）  
青木孝守（大津市）  
藤原 実（高島市）

【米原市】

グループ名：8meets（はちみ〜つ）

テーマ：人と人をつなぐ北之庄歳時記

活動内容：水郷のさと、近江八幡市北之庄町。地域の魅力を知り、地域のみなさまとのつながりを持つなかで、伝統行事の食文化や地域の伝統野菜を知りました。農家のみなさまのご協力を得て農業を学びながら体験し、地域の魅力を伝えていきます。

活動場所：近江八幡市北之庄町

## Members

大工信隆（彦根市）  
土井崇史（愛荘町）  
大橋久幸（近江八幡市）  
大山 真（近江八幡市）  
中島みちる（近江八幡市）  
藤井由美子（近江八幡市）  
松岡沙織（守山市）  
山田英二（大津市）

グループ名：おうみのふるさと物語プロジェクト

テーマ：ふるさと物語でこころを育み 未来につながる

活動内容：野洲川下流域で、人と川の歴史と文化に基づく物語を掘り起こし、「ふるさと物語」として編集します。そして、お話会のような語り部の会を開催し、未来に伝え、地域愛を育み、地域活性化につなげます。

活動場所：守山市・野洲市

## Members

山本一男（大津市）  
樋上真吾（守山市）  
塩田余侍美（守山市）  
石川輝伸（栗東市）  
山川弘光（野洲市）  
佐藤麻里（奈良市）  
橋晃 照（長浜市）

グループ名：鹿深 de ござれ！

テーマ：旧水口町における多文化共生に関する課題解決を目指すネットワーク

活動内容：旧水口町における多文化共生の発展。外国人住民のネットワーク、および子育て支援に関する地域団体と連携し、子ども達やその親世代同士の交流をはかり、互いに理解し合えるきっかけづくりを目指しています。そのために現在は関連団体と意見交換を重ね、互いに理解を深めることができるワークステーションを構築中。

活動場所：甲賀市水口町

## Members

居山 翠（守山市）  
原田義子（栗東市）  
千代苑子（栗東市）  
西岡裕洋（湖南市）  
山本周作（甲賀市）  
藪下利男（甲賀市）  
山中美津子（甲賀市）

【甲賀市水口町】

【守山市・野洲市】

【近江八幡市】

**淡海ネットワークセンター事務局 座談会**

**「12 期生の卒塾を迎えて」**

## 座談会参加者



淡海ネットワークセンター  
常務理事・事務局長

**歌代 泰和**



淡海ネットワークセンター  
事務局スタッフ

**遠藤 恵子** (おうみ未来塾1期生)



淡海ネットワークセンター  
事務局スタッフ

**澤 孝彦** (おうみ未来塾1期生)



淡海ネットワークセンター  
事務局スタッフ

**臈吹 憲吾**

### おうみ未来塾への入塾には、どのような方が応募されてきますか？

**臈吹:** 12期生の選考面接に来られた方は、積極的な方が多かったです。

**遠藤:** それに、今回も若い方も多かったですね。

**澤:** ぼくら1期生とか初期の頃に比べると平均年齢は若くなっているように思いましたね。

**遠藤:** 最初の頃、入塾する人達は市民活動とかに関わっている方が、活動している中で、ぶちあたった壁を解決するために、学びにきている感じでした。

**臈吹:** 最近はこちらかという地域をなんとかしたいと思う方が、地域づくりを学ぶために入塾してきていますよね。

**澤:** 面談も当初はなかったし、1期生は75名くらいの応募があった。

**歌代:** だけど、入塾して学ぶ最適な人数を考えて、面接選考を11期生から取り入れました。

**遠藤:** 入塾希望の方って、いろいろな方がいるのよね。

**澤:** 入ってからのぶつかり合いもあるしね

**遠藤:** ぶつかり合いがあるからいいと言えますよね。グループ活動は地域の縮図。地域だって、いろいろな価値観、経験値の人の集まりだから。

**臈吹:** グループ活動にどうやって入っていくかが12期生の狙いだったし、グループ活動の前段階としてぶつかり合いも予想の範疇内だから。地域に入って活動するのにぶつかり合いは当然でくるしね。それに、もめそうになると治めようとカバーする人が出てくる。それもグループ活動の狙いだよ。

### 12期生はどのような塾生でしたか？

**遠藤:** とにかく真面目でしたよね。だってあの湖北での宿泊研修。あの時、自己紹介シート全員提出してましたよね。

**澤:** 全員ってすごい。

**遠藤:** それまでの塾生っていうか、私達1期生なら、全員提出したかどうか。

**澤:** 時々、誰かが『何でそんなもん出すんだんよ』っていう人がいた。

**遠藤:** 12期生は「なんてまじめでしょう」と思ったわ。

**臈吹:** 自分たちで決めたことを守る！自主的運営の基本ですよ。

**歌代:** そういえば、僕は行かなかったんだけど、夏の高島での研修、帰ってきたみんなの話を聞いて、心配した。あの時、お腹の大きかった塾生もいたし、何かあったらどうしようかと思った。

**遠藤:** そう、高島では真夏の炎天下の中、田んぼのあぜ道で、熱く語り続けられる講師さんのお話。いつまで続くのか、ドキドキ。みんな汗だらだら。でも、誰一人文句も言わずに、熱心に話を聞いてた。

**臆吹:** 事務局の運営に抗議がおきても不思議ではなかったですね。

**遠藤:** ほんと、どきどきでした。講師さんの熱意にみんな引き込まれていたのもあったとは思いますが。

**臆吹:** 講師さんの熱意と塾生の学ぶ意欲の熱意でしょうね。

**歌代:** あと特筆するのはサブ講座の多さじゃない？

**臆吹:** 意欲的でしたよね。自主的にサブ講座を次から次へと企画して運営されていました。

**歌代:** 塾生の皆さん、誠実で素直だし、玄人はだしているのか・・・

**澤:** 自主的活動が活発で、意識が高いというか、前向きだから在塾率が高かったですね。ほんと、多彩な人材が集まりました。

**歌代:** だから、グループ活動にバリエーションができましたよね。それに一人一人の才能があふれていましたよ。周りの関心をよんで、メディアへの露出も今までと比べて多かったと思います。活動を塾生が楽しんでいた感がありますね。



## 12 期生にメッセージをお願いします。?

**遠藤:** 卒塾後も活動を続けるって聞いているグループが多いのもすごい成果。おうみ未来塾の転換期にきてるって感じます。

**歌代:** 是非とも活動は継続させてほしいですね。(協力いただいている)地域の期待が高まっているのでね。がっかりさせないでほしい。ますます期待にこたえて活動するために、塾長や運営委員へもっと協力をあおげばよいと思う。

**遠藤:** アドバイザーの先生方が、残念って言われていたことが、グループ活動に入ってから、『これはどうすればいいんだ！教えて！』って誰も言わない。

『こんな活動しているんだから、見に来いよ』くらいの凶々しさがあってもよかったと思う。先生方とっても気にして下さっていたと思います。

1期生から12期生のネットワークをつなぐことも仕事だし活用して下さい。

**臆吹:** この活動だけで地域プロデューサーを極めたと思わないで、地域に帰って活動する地域活動解決思考を活かしてほしい。地域プロデューサーを追い求めてほしい。永遠に極めてほしいですね。

**歌代:** 自分の地域プロデューサー像をつくるのがこれからの課題ですよ。

## おうみ未来塾を今後どのようにしていきたいですか？

**歌代:** せっかくたくさん卒塾生がいるのに、卒塾生290人のネットワークが構築されていない。これから作っていききたいですね。

**臆吹:** おうみ未来塾を卒塾した誇りを大切にしてほしいです。関係性、つながる場、助け合う場面の設定を行って未来塾コミュニティーネットワークを構築していきたい。

**澤:** おうみ未来塾が活動し始めた初期の頃は、こういった塾が少なかった。けれど最近が増えてきてますよね。卒塾生が活躍してくればおうみ未来塾の知名度があがる。

**遠藤:** 未来塾の評価は数値でははかれないから、卒塾生が各地域で活躍していれば存在価値があがる。どんどん活躍して下さい。

## 第十二期生卒業の言葉

熱い思いを持った二十九人の仲間とともにこの日を迎えられることを心からうれしく思います。おうみ未来塾での活動を振り返ると、様々な貴重な経験ができたと思います。

一年目の基礎実践コースではフィールドワークをとおして様々な地域をめぐり、地域の方々の熱い思いや個性ある魅力「地域資源」がそれぞれの地域にあることを肌で感じる事ができました。

二年目の創造実践コースでは、実際に地域に入ってグループワークを行うことよって、身をもって市民活動とは何か、地域に入れていただくことの難しさとともに地域をプロデュースするとはどのようなことを学ぶことができたと思います。

そして本日、卒業式を迎えることができました。私たちおうみ未来塾十二期生は、地域プロデューサーとしての大きな一歩を踏み出します。

おうみの各地域には、素晴らしい地域資源があります。また地域課題もあります。地域資源を活かして地域課題を解決し、魅力ある地域をプロデュースするために、ここにいる二十九人の地域プロデューサーは助け合い支え合いながら自分たちができることをしていきたいと思えます。

最後になりましたが、これまで見守っていただきました理事長、塾長、アドバイザーの先生方、来賓の方々、事務局の皆様、卒業生の先輩の皆様、さらにはこの二年間お世話になりましたおうみの地域の皆様、塾生を代表し心よりお礼を申し上げます。皆様のお力添えなしにはここまでたどりつくことはできませんでした。本当にありがとうございました。

平成二十五年十二月十五日

第十二期おうみ未来塾卒業生  
代表 橋 晃照

おうみ未来塾 塾長 北村裕明 先生



## タイトル『つなぐ力、つながる力』に込めた想い： 大山真

いろんな個性を持つ地域プロデューサーがいる。活動の有り様は、まさに十人十色。しかし、はじめの一步は共通項。人間関係を築くところからである。互いの価値を認め合いながら、縦に横にネットワークを張りめぐらせ、信頼関係を築いていく。それには、自己肯定感、自他理解、コミュニケーション力が欠かせない。たゆまぬ自己研鑽が必要だ。同時に、活動を共にする仲間の自主性を信じ、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる環境づくりも、地域プロデューサーに求められる資質であると考え。地域資源を掘り起こし、磨き上げ、最大限に活かす。そのために、まず自分自身が地域の方々とつながる。そして、この輪を広げるべく、人と人をつないでいく。「つなぐ力」「つながる力」の大切さ、素晴らしさを学んだ2年間である。「おうみ未来塾」での学びは、未来の自分とのつながりもつくる。そう未来への投資だ。

## 表紙デザインに込めた想い： 居山翠

今回の表紙。タイトルが決まってから、それに合わせて描きはじめたのですが、実は元々、塾生の顔…特に笑顔を描きたいなあとぼんやり思っていました。タイトルが決まって改めてペンを握り、「つなぐ力、つながる力」をキーワードに浮かぶイメージを書き出していきましたが、やっぱりみんなの笑顔が頭から離れません。何故でしょう？1年半の学び・活動を通じて、ふと表れる充実した笑顔…これもひとつの「おうみ未来塾での成果」なのでは？また、その笑顔があつてこそ、地域との繋がりを生み出せてきたのだとも思うのです。だから、頭から離れなかったのです。笑顔が共鳴して、繋がりの輪を広めていく様子…それがこの表紙のイメージです。これからもこのイメージを大切に、地域プロデューサーとして成長していきたいです。

### 編集後記

12期生の成果報告書は、  
おうみ未来塾外の方々にも、いろいろなことを伝えられる内容にしたいと、  
3つのコンセプトを基に編集を行いました。

① おうみ未来塾とその活動を知ってもらいたい  
活動にご協力頂ける方や、おうみ未来塾で学びたい方が増えていくと幸いです。

② 12期生がおうみ未来塾で得た学びを伝えたい  
地域について考えたり、地域課題に取り組むきっかけやヒントになれば幸いです。

③ 12期生の1人1人をPRしたい  
地域活動をされている方や団体と12期生との新たな「つながり」が生まれれば幸いです。

編集委員一同

